

戦略的創造研究推進事業

(社会技術研究開発)

研究開発実施終了報告書

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」

研究開発領域

研究開発プロジェクト

「ソーシャル・キャピタルの世代間継承メカニズム
の検討」

研究開発期間 平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月

研究代表者 要藤 正任

(京都大学経済研究所

先端政策分析研究センター 特定准教授)

目次

1. プロジェクトの達成目標.....	2
1-1. 全体目標及びリサーチ・クエスチョン.....	2
1-2. 背景	3
1-3. ロジックモデル.....	4
2. 研究開発の実施方法・内容	5
2-1. 研究開発実施体制の構成図.....	5
2-2. 取り組みの概要.....	7
2-3. 実施項目・内容.....	8
3. 研究開発結果・成果.....	12
3-1. プロジェクトの目標達成状況及び結論.....	12
3-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョンへの回答.....	13
3-3. 領域のリサーチ・クエスチョンへの回答	14
3-4. 実施項目毎の結果・成果の詳細.....	18
3-5. 今後の成果の活用・展開に向けた状況.....	76
4. 研究開発の実施体制.....	77
4-1. 研究開発実施者.....	77
4-2. 研究開発の協力者・関与者.....	78
5. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など.....	79
5-1. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	79
5-2. 論文発表	80
5-3. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	80
5-4. 新聞報道・投稿、受賞など.....	80
5-5. 特許出願	81
6. その他.....	82
6-1. WEB アンケート質問票	82
6-1-1. 28 年度アンケート質問票.....	82
6-1-2. 29 年度アンケート質問票.....	99
6-2. 簡易アンケート質問票.....	107
6-2-1. 自治会向け質問票.....	107
6-2-2. NPO 向け質問票	111

1. プロジェクトの達成目標

1-1. 全体目標及びリサーチ・クエスション

本プロジェクトにおいては、ソーシャル・キャピタルや「地域資源」に対する意識・価値観、他世代に対する互酬性の意識が世代間で形成・継承されるメカニズム・要因等を、アンケート調査の実施とその結果の定量的分析、エリアマネジメント活動等の地域活動が行われている地域におけるケーススタディ等を通じて明らかにするとともに、多世代共創活動の持続可能性を高めるための方策を提示することを達成目標とする。

<達成目標>

- ・ソーシャル・キャピタルや「地域資源」に対する共有意識等の継承可能性とそのメカニズムの解明
- ・意識や実際の地域活動等の継承促進方策の検討

<リサーチ・クエスション>

- ・「地域資源」に対する共有意識（ソーシャル・キャピタル）は、どのように醸成されるのか？また、醸成されたソーシャル・キャピタルは世代間で継承することが可能か？
- ・地域住民による公共施設・公共空間の維持管理活動や地域の価値を高めるエリアマネジメント活動等が世代を超えて持続的に行われるためには何が必要か？一方で、こうした活動が世代間で継承されない場合、時代のニーズの変化や社会経済環境の変化等がその要因となると考えられるが、具体的にどのような要因が阻害要因となっているのか？
- ・ソーシャル・キャピタルの世代間継承を促す要因、継承の妨げとなる要因は何か？また、世代間継承を促進するためには何が必要か？

1-2. 背景

ソーシャル・キャピタルは「共有地の悲劇」（共有地の利用者である住民がそれぞれ利己的に行動することにより共有地の利用可能性が低下するような事例）の回避に寄与するものであることが指摘されている。これは、信頼・互酬性の規範・ネットワークといった言葉で表現されるソーシャル・キャピタルが公共財的な側面をもち、「共有地」という資源に対する住民の「共有意識」と結びついていることに起因していると考えられる。この「共有地」をより広い意味でとらえ、地域の構成員が共有・利用している社会環境の重要な構成要素（例えば公共施設や景観などのハード的なものから、地域の暮らしやすさなどソフト的なものを含む。これらを本プロジェクトでは「地域資源」としている。）に当てはめて考えた場合、「地域資源」が住民全体にとってもっとも望ましい状態で利用されるためには、「地域資源」の共有意識やソーシャル・キャピタルが重要な役割を果たし、「地域資源」の価値を維持・向上させていく取組みにおいて、ソーシャル・キャピタルが不可欠な要素であることを示している。

伝統的に我が国では、欧米と比べ、土地や自然環境など「地域資源」の利用方法をコミュニティ全体として決定するという意識が薄く、コミュニティの中に「共有地の悲劇」を引き起こし、地域の疲弊や健全な成長の阻害要因となってきた。また、多くの地方都市では、人口減少・高齢化、財政制約の高まり等から、公共インフラの適切な維持管理や多世代が共生し安心して老年期を迎えられるような地域社会の維持、さらには新たなビジネスの創出といったことが困難になっている。

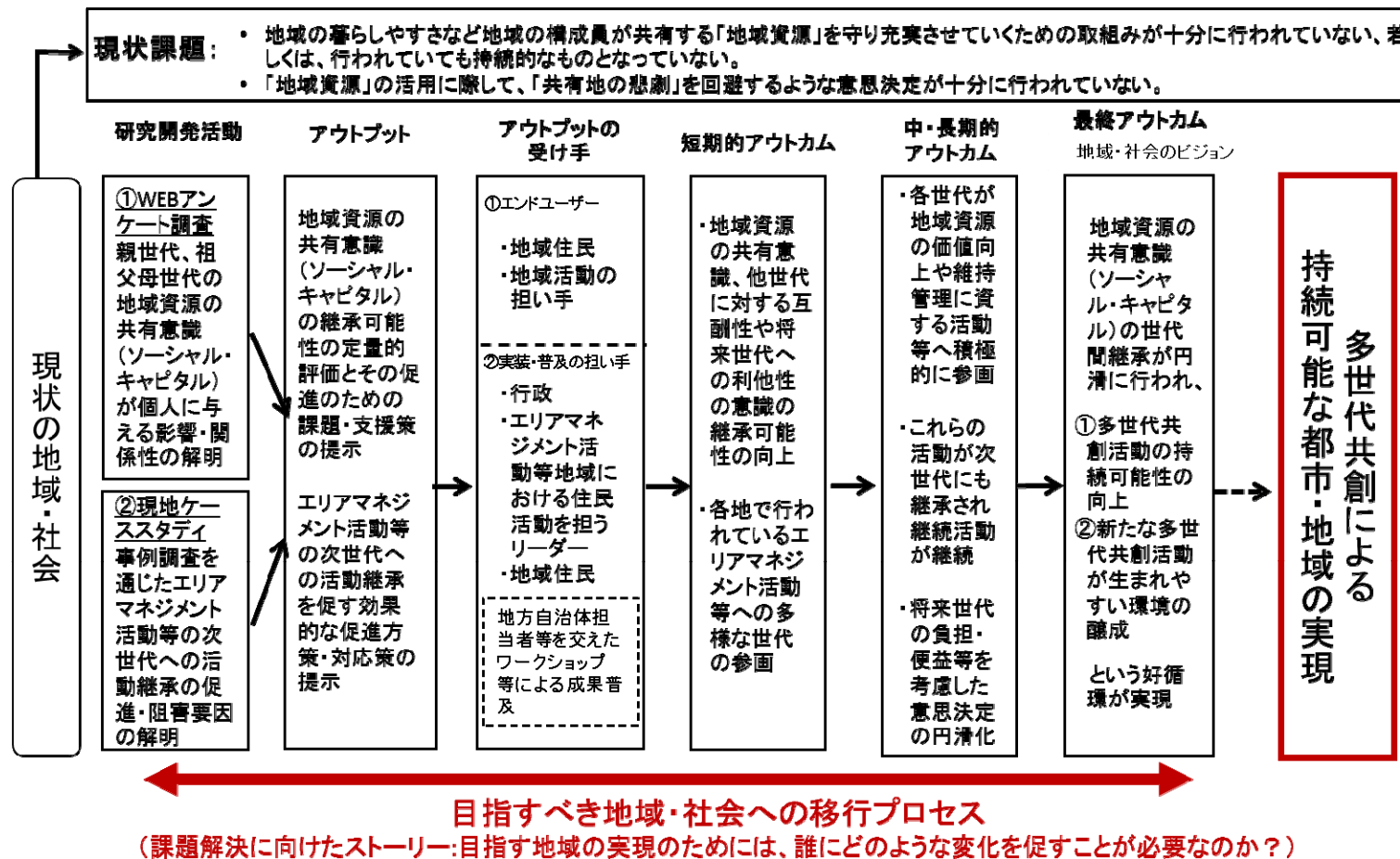
こうした状況に対処するためには、地域の構成員の「地域資源」に対する意識を高め、その有効利用のための適切な枠組みを構築していくことが求められるが、「地域資源」を維持しその価値を高めるような活動（地域活動）が多世代で行われているか、また地域活動が世代の移り変わりの中で持続していくかについては地域差が見られるのが現状である。このような地域差の背景には、世代を超えて「地域資源」を維持し、将来世代により価値のあるものとして残していこうという意識や価値観が、地域内・世代間でどの程度共有・継承されているかという点が大きな影響を与えていると考えられる。

近年、ソーシャル・キャピタルに関しては様々な研究が蓄積されてきているものの、ある世代で醸成されたソーシャル・キャピタルがその世代限りのものなのか、次世代に継承できるものなのかは必ずしも明らかとはなっておらず、実証的な検証が求められる課題となっている。ソーシャル・キャピタルの継承が行われない場合、エリアマネジメント活動などの地域の価値を高めようとする取組みは一世代における一時的な取組みに終わってしまうとともに、地域における将来世代の負担を考慮したインフラの維持管理活動や地域全体での予防医療活動などは行われなくなることが懸念される。しかし、ある世代が生み出したソーシャル・キャピタルが次世代にも円滑に継承されることが可能となれば、世代の交代によるソーシャル・キャピタルの崩壊のリスクは小さくなる。

多世代共創社会を考えた場合、エリアマネジメント活動等「地域資源」の維持・向上のための取組みである地域活動が、その時代を生きる複数の世代の参画によって行われることは多世代共創活動の一つの現れであり、これらの活動の成功に不可欠な要素である。そして、その活動が一世代、一時的なものに終わることなく、世代が移り変わってもそうした活動が持続的に行われるという状況こそが、多世代共創活動の持続と考えられる。このため、多世代共創活動の持続性を高めるという観点からは、ソーシャル・キャピタルの世代間での共有・継承の可能性は重要な論点の一つであり、その実態を明らかにしていくことが求められる。

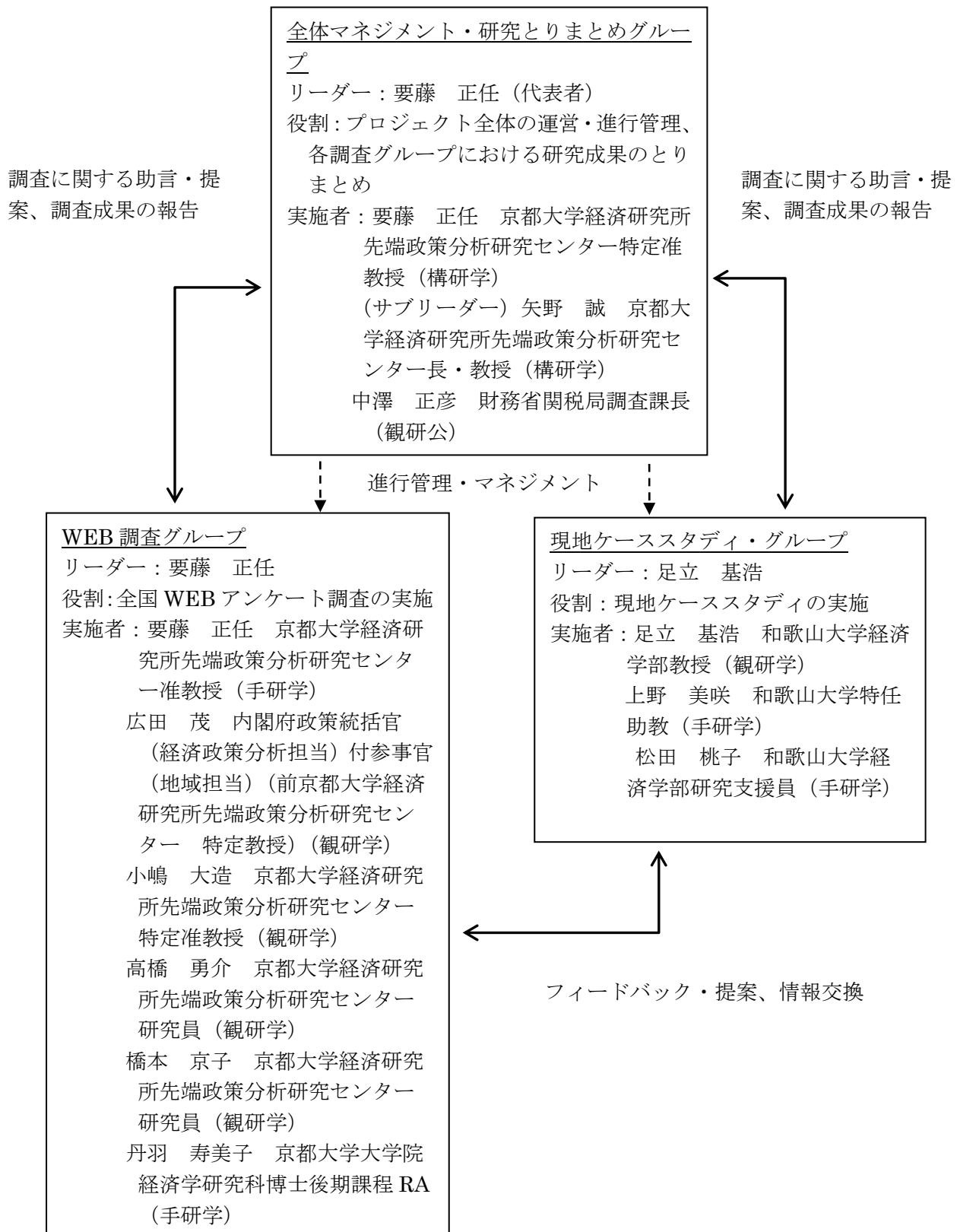
1-3. ロジックモデル

課題解決に向けたストーリー



2. 研究開発の実施方法・内容

2-1. 研究開発実施体制の構成図



研究開発に協力した主な関与者（協力者）※5名程度

氏名 所属 役職 （または組織名）	協力内容
御手洗潤 京都大学経営管理大学院客員教授	現地ケーススタディへの助言、協力
中尾忠頼 国土交通省大臣官房人事課付（人事院行政官長期在外研究員・ブリティッシュコロンビア大学）（前一般財団法人建設経済研究所研究員）	WEB アンケート調査への助言、協力
日高耕平 宮崎市商店街振興組合連合会専務理事	ワークショップに関する助言、連絡調整
櫛間節夫 宮崎市商店街振興組合連合会事務局長	ワークショップに関する助言、連絡調整
岡田隆弘 株式会社オカヘイ 専務取締役	ワークショップに関する助言、連絡調整
中筋章夫 和歌山大学教育研究アドバイザー／西山東地区防災会アドバイザー	ワークショップ・簡易アンケート調査への協力

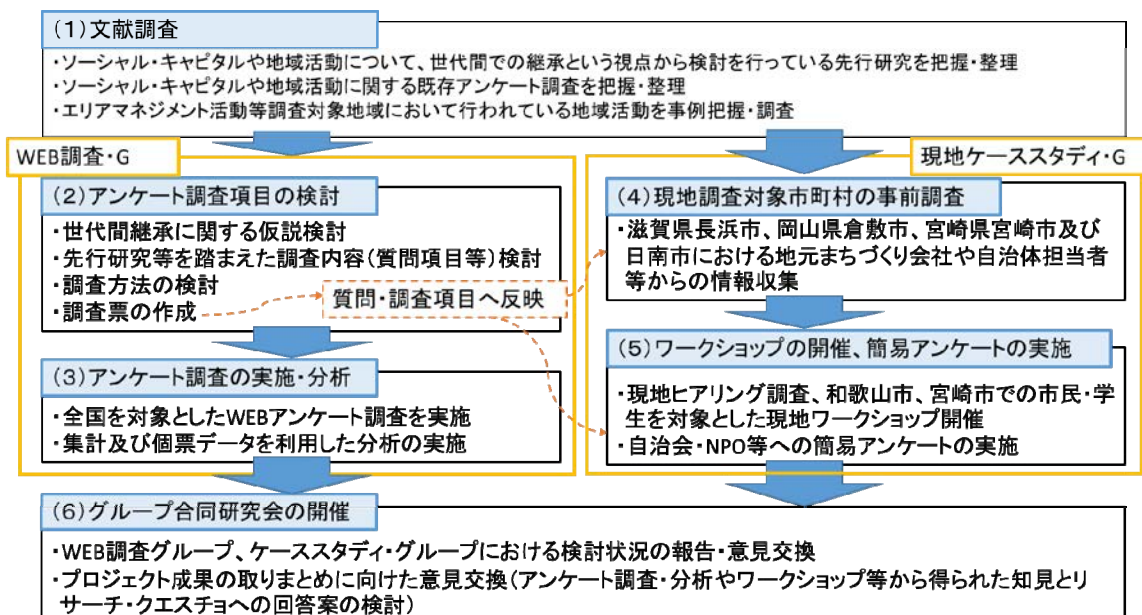
2-2. 取り組みの概要

本プロジェクトでは、3つのリサーチ・クエスチョンを解明するため、全国を対象としたWEBアンケート調査、特定地域を対象としたケーススタディ、の二つのアプローチを採用し、検討を進める。具体的な進め方としては、①文献調査、②WEBアンケート調査項目の検討、③WEBアンケート調査の実施・分析、④現地ケーススタディ対象市町村の事前調査、⑤現地ヒアリング・住民アンケート、現地での研究集会（ワークショップ等）の実施、⑥グループ合同研究会の実施、という流れで検討を進めていく。

文献調査においては、二つのアプローチを担当するそれぞれの調査グループにおいて、プロジェクトに関連する文献、先行研究、参考となるアンケート調査のサーベイを実施する。WEB調査グループが中心となり、文献調査の成果を活かしながらWEBアンケートの調査設計を実施する。WEBアンケート調査は、平成28年度末及び平成29年度早期に2回に分けて調査を実施し、その結果の集計作業及び個票データを活用した分析を行う。

現地ケーススタディ対象市町村の事前調査については、現地ケーススタディを行う4地域（滋賀県長浜市、宮崎県宮崎市、岡山県倉敷市、和歌山県和歌山市）に関する事前調査をこれらの地域の行政のまちづくり担当部局やまちづくり会社等の協力を得ながら、事前の情報収集を実施することとする。事前調査の内容を踏まえ、上記4地域における現地ヒアリング等を実施し、当該地域のエリアマネジメント活動等への多世代参画の状況や活動の経緯等を明らかにしつつ、活動が次世代に引き継がれるために活動の実践者が留意している点等を明らかにする。さらに、WEBアンケートの調査項目を絞り込んだ簡易アンケートを作成の上、住民アンケートを実施し、WEB調査の結果と比較検討しながら、リサーチ・クエスチョンの解明に役立てることとする。2地域（宮崎市及び和歌山市）において現地研究集会（ワークショップ等）を開催し、アンケートの実施状況や結果のフィードバック、現地ヒアリング調査のとりまとめ、地元ステークホルダーとの意見交換等を行い、世代をまたがる地域活動の持続に向けたソーシャル・キャピタルの継承要因の考察を深めるとともに、様々な地域活動への応用可能性を高めるための方策を地域活動に実際に参画している者を交えて検討する。

グループ合同研究会については、全体マネジメント・研究とりまとめグループが中心となり、WEB調査グループ、ケーススタディ・グループとの合同による研究会を2回程度実施する。



2-3. 実施項目・内容

2-3-1. 文献調査

本プロジェクトでは、ある一時点において社会経済活動を行っている多世代（同じ時代を生きる多世代）という視点を超えて、時間的経過に伴う世代交代という視点を視野に入れて、多世代共創活動の持続可能性をどのように考えるかという点に着目している。このような視点に立った場合、世代交代が起こってもある活動が持続的に行われるためには、活動の背景にあるものが世代間で共有・継承されていることが必要と考えられ、本プロジェクトにおいては「地域資源」に対する共有意識（ソーシャル・キャピタル）が重要な役割を果たすと想定している。こうした想定を踏まえ、本プロジェクトにおける調査・分析に際して有用と考えられるソーシャル・キャピタルの継承に関する先行研究での知見・仮説やソーシャル・キャピタルの計測のために用いられている手法（質問内容）等を把握することを目的として、文献調査を実施した。

具体的には、ソーシャル・キャピタルの親子間での継承について理論的・実証的に検討を行っている研究をサーベイしてその内容を把握するとともに、我が国において行われたソーシャル・キャピタルに関するアンケート調査（内閣府(2003、2005)、日本総合研究所(2008)、稲葉(2010,2013)、農林水産省農村振興局(2007)、岡山県倉敷市(2006)、兵庫県神戸市(2009)など）においてソーシャル・キャピタルの計測のために用いられている調査項目等を整理した。

また、現地調査対象市町村にかかわる歴史や現状を記した文献等の内容について把握・整理した。とくに、倉敷市については、実業家であり地域活動家の大原家や美観地区に関する文献が豊富にあり、現地の内容把握に役立てた。さらに、現地調査や現地ワークショップを実施するうえで必要な効果的な手法等についても国内外の文献より調査した。具体的には、まちづくりの先進事例であるアメリカ・ポートランド市に関する文献や、地域活動を支える組織の行動を分析する文献等である。

2-3-2. WEB アンケート調査項目の検討

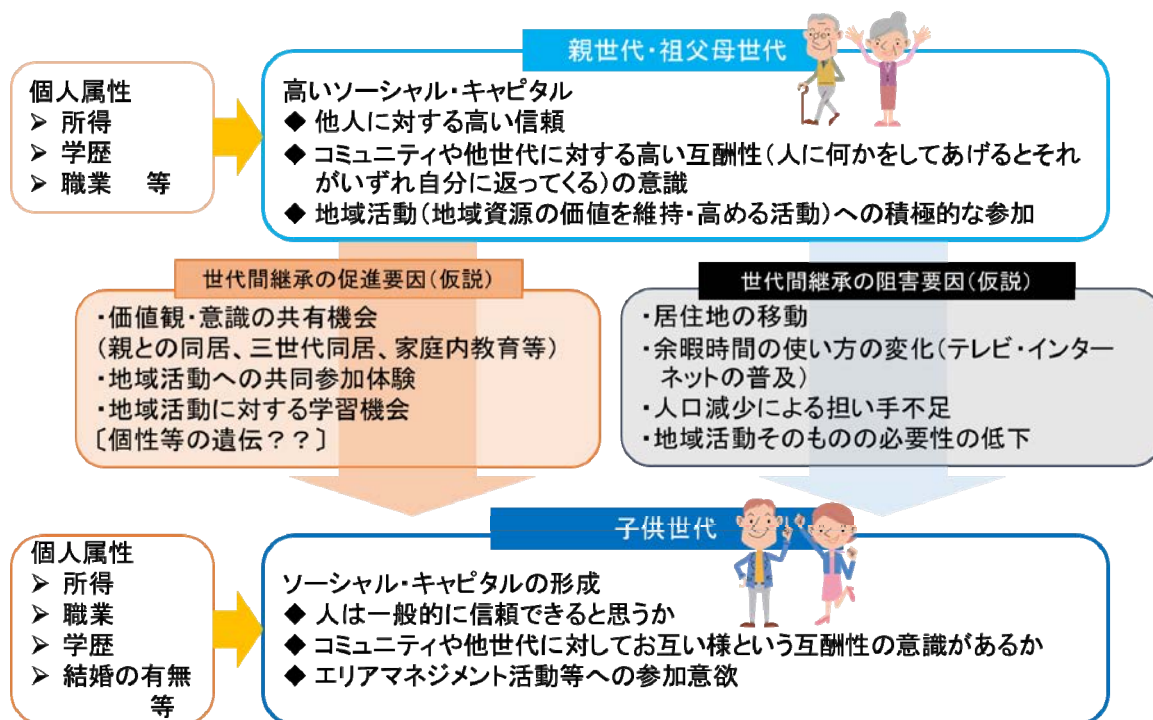
ソーシャル・キャピタルの世代間継承のメカニズムを明らかにするためには、世代間をつなぐ重要な経路の一つとして、祖父母・親・子どもといった家族間で、それぞれがもつソーシャル・キャピタルがどのような関係にあるかを明らかにすることが必要である。しかし、これまでのアンケート調査等ではこのような家族間でのソーシャル・キャピタルの関係を明らかにすることを企図したものは見当たらず、そのソーシャル・キャピタルの関係を定量的に明らかにするためには、新たなデータの収集・構築が必要となる。

データ構築にあたっては、家族間でのソーシャル・キャピタルの関係（ソーシャル・キャピタルや地域活動への参加意向の高い親をもつ個人は他人との協調や地域活動への参加意向が高い傾向があるか等）をはじめ、個人のもつ様々な属性（年齢、学歴、職業、小さい頃の経験、家族との同居経験等）がその個人のソーシャル・キャピタルや地域活動への参加意向にどのように影響しているのかを明らかにする必要がある。また、世代間継承のメカニズムの解明という観点からは、高いソーシャル・キャピタルを持つ親からソーシャル・キャピタルを継承しやすくする要因は何かといった仮説を踏まえて質問項目を検討する必要があるほか、先行研究との比較が行えるよう先行研究で用いられている調査項目の活用が必要になる。

アンケート調査項目の検討にあたっては、上記の点に留意しつつ、既存のソーシャル・キャピタル研究において用いられている項目に加え、地域資源や地域活動に対する意識・関わり方、両親や祖父母のソーシャル・キャピタル、子どもの頃の地域活動経験について質問項目を検討するとともに、地域資源・地域活動に対する意識やソーシャル・キャピタルの形成要因を定量的に分

析するため、学歴、職業等の個人属性に関する設問を設けることとした。また、以下のようなソーシャル・キャピタルの世代間継承の仮説を想定し、促進要因や阻害要因を考慮できる質問事項を検討した。

ソーシャル・キャピタルの世代間継承の仮説



なお、WEB アンケート調査は、28 年度、29 年度の 2 回にわたり実施することを予定し、それぞれ異なるサンプルを対象とすることを当初想定していたが、設問数が多くなりすぎることにより回答者数が減ることが危惧されたことから、29 年度調査については、28 年度調査の回答者を対象としてアンケートを実施することとし、質問項目を 2 回に分けて調査することとなるべく多くのサンプルを確保することとした。さらに、2 月に行われた領域マネジメントグループとの意見交換を踏まえ、質問項目を精査するとともに、当初想定していなかった回答者が居住する地域に関する質問項目を追加することとした。

2-3-3. WEB アンケート調査の実施・分析

本プロジェクトのリサーチ・クエスチョン 1 及び 3 を明らかにすることを目的とし、2-3-2 における調査項目の検討結果を踏まえて、29 年 3 月に 1 回目のアンケート調査を実施した。アンケートの実施にあたっては、都市部に居住する人の回答が多くなるなど回収するサンプルの地域バランスが偏ることのないよう、回答者の居住する地域別の回収数を考慮している。また、第 2 回目のアンケートは、第 1 回調査の回答者を対象として 29 年 7 月に実施した。設問項目は第 1 回アンケートに関連した追加的な質問項目に加え、回答者の居住する地域の周辺環境、回答者の子どもの頃の時間の使い方等の項目を盛り込んで実施した。

アンケート結果を用いた分析は、質問項目間のクロス分析のほか、自由記述項目における回答傾向の確認を行った。また、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識に関する質問項目を被説明変数とし、最小二乗法や順序プロビット・モデルを用いて、これらの形成要因を検証する

とともに、両親・祖父母のソーシャル・キャピタルや子どもの頃の地域活動経験が個人の意識の形成にどのような影響を与えているかを定量的に検証した。

2-3-4. 現地調査対象市町村の事前調査（既存調査等の収集・整理）

現地調査対象市町村の事前調査に関しては、当初計画していた滋賀県長浜市（29年1月27日）、岡山県倉敷市（29年3月8日）に加え、宮崎県日南市（29年2月19日）と宮崎県宮崎市（29年2月20日）、徳島県美馬市（29年9月14日）、香川県高松市（29年9月14日）、長野県飯田市（29年9月22日）でも行なった。調査対象を実施した地域は表1のとおりである。事前調査の内容についてはWEBアンケートでの調査項目をふまえた設問項目を作成し実施した。事前調査でのヒアリングは、現地のまちづくり会社や自治体担当者等に対して行ない、地域住民の地域活動や多世代交流・世代間継承に対する意識等についての回答が得られた。

表 1. 現地調査先一覧

	日程	相手先		主な設問項目 （共通の設問項目と地域別設問項目の組み合わせ （計15問程度））
1	2017/1/27	滋賀県長浜市	長浜まちづくり株式会社	・多世代で活動することをどのように思いますか？また、活動のなかでどのような努力をなされていますか？ ・長浜曳山まつりの維持・発展に関して、どの世代がどのくらいの割合で関わっておりますか？
2	2017/2/19	宮崎県日南市	株式会社油津応援団	・活動の世代間継承という課題をどの程度意識していますか？ ・多世代交流モールの着工にあたり、地域の事業主や住民の合意形成をどのように進めましたか？
3	2017/2/20	宮崎県宮崎市	Doまんなかモール委員会	・活動を牽引しているリーダーは、なぜそうした活動をしていますか（郷土愛？利他性や互酬性の意識？活動そのものにやりがいがあるから？）？
4	2017/3/8	岡山県倉敷市	倉敷市建設局まちづくり部まちづくり推進課	・多世代で活動することをどのように思いますか？また、活動のなかでどのような努力をなされていますか？
5	2017/9/14	徳島県美馬市	協町・うだつの町並みボランティアガイド連絡会/南町町並み保存会	・親子での地域活動への参加率は？ ・多世代参加の阻害要因は？ ・活動にネガティブな人への対処方法は？
6	2017/9/14	香川県高松市	古高松地区コミュニティ協議会/古高松地区連合自治会/高松市市民政策局コミュニティ推進課、他	・多世代参加の阻害要因は？ ・活動にネガティブな人への対処方法は？
7	2017/9/14	香川県高松市	高松丸亀町商店街振興組合	・活動を始める前後では、にぎわいや集客（買い物客、観光客等）への効果はどの程度異なりますか？
8	2017/9/22	長野県飯田市	飯田まちづくりカンパニー/りんご並木ネットワーク会議/飯田市商業市街地活性化課	・多様な世代が活動に参加している場合、それによる効果として実感できることはありますか？

2-3-5. 現地ワークショップの開催及び住民（簡易）アンケートの実施

現地ワークショップは、和歌山県内2箇所と宮崎県内1箇所で行なった。当初の計画にはあがられていなかったが、最初のワークショップを和歌山県御坊市（28年12月4日）において実施した。対象は市民および和歌山大学の学生とし、和歌山県御坊市における多世代交流の課題に加え、地域や行政に求めるもの等について討議を行なった。29年2月4日には和歌山県和歌山市において実施した。同日には和歌山県有田市にある多世代交流型カフェ「cafe 55」を訪問した後、「まちづくり等における多世代交流・継承を考える」と題して、まちづくり等の地域活動における世代間の交流とはそもそも何か、また、交流の絆が失われることでどのような社会的な課題が

生まれるのか、等の課題に対して多世代間による討議を行なった。参加者は和歌山県和歌山市内を中心とした一般市民と和歌山大学の学生となった。同様に 29 年 6 月 11 日には宮崎県宮崎市においてワークショップを実施した。商店主や地元大学生に加え、宮崎市内の高校生等、幅広い世代が参加した。テーマを「まちづくり活動等の世代間継承に向けた促進策」と「まちづくり活動等の世代間継承に向けた体制づくり」とし、様々な観点から世代間継承や地域づくりについて討議・意見交換が行われた。

住民（簡易）アンケートについては、ワークショップを実施する地域を対象として、WEB アンケートの調査項目をもとに各設問を構成した。具体的には、和歌山県和歌山市の自治会と和歌山県・宮崎県の NPO 団体等へ郵送および手渡し等により行なった。アンケートの回収については、29 年度に回答者自身による回答済アンケートの返送と和歌山県和歌山市の各支所・連絡所に設置した回収箱への投函によって行なわれた。アンケート回収後、29 年度に当該アンケートの集計・分析を行った。

2-3-6. グループ合同研究会の開催

グループ間での検討状況の情報共有を図り、今後のプロジェクトの進め方に関する意見交換を行うことを目的に、プロジェクト実施者及び協力者らによるグループ合同研究会を 29 年 3 月に京都市内において開催した。

また、29 年度においては 29 年度における各グループの活動報告と各グループのリサーチ・クエスションに対する分析・考察の結果について報告意見交換を行うことを目的に、29 年 9 月に東京都内において開催した。なお、29 年度合同研究会については、ソーシャル・キャピタルやエリアマネジメント活動の調査研究を行っている外部有識者にも参加を呼びかけて研究会を開催した。



写真.1 グループ合同研究会（29 年 9 月 19 日）

3. 研究開発結果・成果

3-1. プロジェクトの目標達成状況及び結論

本プロジェクトでは、1-1 に記述したように、ソーシャル・キャピタルや「地域資源」に対する共有意識等が世代間で継承されるメカニズム・要因等を、アンケート調査の実施とその結果の定量的分析、エリアマネジメント活動等の地域活動が行われている地域におけるケーススタディ等を通じて明らかにするとともに、多世代共創活動の持続可能性を高めるための方策を提示することを達成目標としている。

この目標の達成にむけて、本プロジェクトでは、全国を対象とした WEB アンケート調査及びエリアマネジメント活動等が行われている地域における現地ケーススタディや簡易アンケート調査等を実施し、得られたデータや知見をもとに分析・考察を行った。アンケート調査結果を用いた定量的な分析から得られた主要な知見は以下のとおりである。

- ① 他人への信頼、互酬性の意識といったソーシャル・キャピタルは、両親・祖父母から継承されており、地域活動への参加の重要なモチベーションの1つである地域資源に対する共有意識（コミュニティ内のみんなが共有してその便益を享受できるもの（物的なものからソフトなものまで）を、みんなで協力しながら守り利用していくべきと考えること。）を高める要因となる。
- ② 地域資源に対する共有意識も世代間で継承されており、子どもの頃に両親・祖父母との地域活動と一緒に参加するといった地域活動経験を持つことは、地域資源に対する共有意識の形成に有意な影響を与える。
- ③ 地域資源に対する共有意識の形成には、家庭における教育や経験といった要因のほか、居住する地域において多様な世代が交流する場がある、地域の連帯感があるといった地域的な要因も影響している。

また、現地ケーススタディによる成果を踏まえると、多様な世代が参加している活動の方が活動の持続可能性が高く、実際の活動においても多様な世代の参加（特に若者）を意識した取組を行っている。WEB アンケート調査の結果からは、多様な世代が参加していることは親子での活動参加を後押しすることにもつながっている。さらに、地域において多様な世代が参加する場所や機会があることは、世代間の交流を促進しソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の継承・形成にも寄与する可能性がある。

このため、現在全国各地において行われている地域活動の持続可能性を高めていくためには、親子での参加がしやすくなるような取組（活動時間の配慮、イベント内容の工夫など）、多様な世代が気軽に参加交流できる機会の創出（子ども会やお祭りなどの活用、意欲ある若者と活動の場とのマッチング）といった取組が有効な方策となる。

分析の結果、子どもの頃に得た地域活動経験は、その後地域を移動してもその後の地域資源の共有意識の形成に寄与することが明らかとなった。このことは、形成される地域資源の共有意識は、その地域のみには通用しない意識ではなく、全国各地における多世代共創的活動への参画につながっていく汎用的な意識（いわば、「全国どこでも通用する地域マインド」）であることを示している。このため、地域において子どもや若い世代が地域活動に接する機会を作り出すことは、その地域における地域資源の共有意識の形成だけにとどまらず、他地域への波及的な効果をもつ取組と考えることができ、若い世代が地域活動に接し多様な世代と交流する機会をつくることは、全国的に取組むべき課題として位置づけることが可能である。

また、継承されたソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識は、将来世代への互酬性の意識（自分が生きている間に実際の利益や恩恵としては返ってこないことへの投資の意識）の形成

にもつながっており、こうした意識の形成は、将来世代の負担を考慮した世代を超えた意思決定の円滑化にもつながる可能性をもつ。このため、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の世代間での継承は、様々な地域活動の持続可能性を高めるとともに、多世代間の助け合い、地域資源の継承といった行動を通じて、持続可能な社会の実現に寄与するものと考えられる。

以上の本プロジェクトの成果は、地域活動への多世代参加を促す具体的な手法の提案までは踏み込めていないが、京都市まちづくり担当部局との意見交換（29年10月に実施）においても、世代間での意識の継承の意義、子どもの頃の地域活動経験の重要性、実際のまちづくり活動における多世代参加型の活動の持続可能性については、これまで様々な活動を見守り支援してきた経験からも実感にあう結論であるとの評価も得ており、世代間での継承等これまで定量的な評価分析がなされていなかった点をアンケート等のデータで示したことは一定の意義があるものと考えられる。

3-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョンへの回答

PJ-Q1. 「地域資源」に対する共有意識（ソーシャル・キャピタル）は、どのように醸成されるのか？また、醸成されたソーシャル・キャピタルは世代間で継承することが可能か？

ソーシャル・キャピタル（他人への信頼、互酬性の意識）は、個人の性格（楽観性、人間を超えた力への感謝、信心深さ、時間選好率、リスク態度）といった要因のほか、教育などを通じて形成されている。そして、他人への信頼、互酬性の意識は、両親・祖父母からの影響を受けており、親のソーシャル・キャピタルが子どもへと継承されている。

地域資源に対する共有意識は、他人への信頼や互酬性の意識のほか、子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験がその形成に有意な影響を与えている。そして、高い地域資源の共有意識をもつ人は、地域活動への参加意欲をもち、地域活動にも参加しやすくなる。つまり、地域資源の共有意識の高さは、地域活動参加への重要なモチベーションの1つとなっていると考えることができる。

また、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の高さは、将来世代への互酬性の意識にもつながっており、ソーシャル・キャピタルの世代間継承を維持し、また子どもの頃の地域活動経験を通じて地域資源の共有意識の形成・継承を促していくことができれば、世代を超えて地域資源の共有意識が共有され、将来世代への互酬性の意識も高まり、持続可能な多世代共創社会の実現につながっていく可能性がある。

ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の形成には居住している地域からの影響もあり、地域の連帯感の高さ、多様な世代が集まる場があること等居住している地域のソーシャル・キャピタルの高さは個人のソーシャル・キャピタルの高さにも影響を与えている。また、活気や賑わいのなさ、空き地・空き家の多さなど地域環境への危機感や不満は、地域資源の共有意識を高める要因となる一方で、他人への信頼や互酬性の意識には影響しておらず、地域資源の共有意識の方が、居住している地域の状況と密接な関係を持っている可能性がある。

PJ-Q2. 地域住民による公共施設・公共空間の維持管理活動や地域の価値を高めるエリアマネジメント活動等が世代を超えて持続的に行われるためには何が必要か？一方で、こうした活動が世代間で継承されない場合、時代のニーズの変化や社会経済環境の変化等がその要因となると考えられるが、具体的にどのような要因が阻害要因となっているのか？

エリアマネジメント活動等を持続的に行うためには、組織そのものの力（組織力、世代要因）や時代への適応（適応力）等が必要と考えられる。現地調査や簡易アンケート調査を踏まえると、

「多世代型」、「会員数は多い」、「多数決方式の採用」、「年間収入は低い」組織ほどソーシャル・キャピタル的なパワーが強い傾向がみられ、特に多様な世代が参加していると回答する組織においては、「活動が継続される」と考える傾向がみられる。このため、多様な世代の参加を含めた「組織の多様性」が組織の継続において重要と考えられる。

活動の継承の阻害要因を考えた場合、活動に参加していない人の中でも活動にメリットを感じていない人は、地域資源に対する共有意識が低く、子どもの頃の地域活動経験も乏しい傾向がみられる。このため、子どもの頃に地域活動に参加するきっかけをつくり地域活動経験を得やすい環境をつくることは、エリアマネジメント活動等の継承の阻害要因を取り除くことにもつながっていくと考えられる。

また、活動参加の理由としてしがらみや人間関係の中で不本意に参加している人の中には、地域資源に対する共有意識が低い人もみられる。これらの人が活動に参加する中で意識の変化が生じるのかどうかまでは明らかにはできていないが、活動参加のきっかけと活動の継続可能性との関係の考察からは、両親やその他の家族の参加、社会貢献や近所づきあいの円滑化、サークル的な感覚での参加といったきっかけが活動の継続可能性と関連している。このため、活動に参加しやすいきっかけや雰囲気づくり、それによる多様な世代の活動への参画が活動の継続可能性につながると考えられる。

PJ-Q3. ソーシャル・キャピタルの世代間継承を促す要因、継承の妨げとなる要因は何か？また、世代間継承を促進するためには何が必要か？

子どもの頃の余暇の使い方として、家族との団らんやスポーツ活動に多くの時間を費やしたと回答した人は、地域活動に親子で一緒に参加した経験を持つ傾向がある。また、両親・祖父母との3世代同居は、子どもが地域活動に関わる機会を増やすことを通じて地域資源の共有意識の継承を促す可能性がある。一方で、テレビやパソコン・スマホに多くの時間を費やしたと回答する人は、地域活動経験が少なくなる傾向があることから、家族とのコミュニケーションは、地域資源の共有意識の形成・継承にとって重要な課題であると考えられる。

地域の連帯感や多様な世代が集まる場があるといった居住する地域の状況は、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の形成にプラスの影響があることから、地域の全体的なソーシャル・キャピタルの向上は、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の継承の促進に寄与する可能性がある。また、両親や祖父母のソーシャル・キャピタルの高さは、両親・祖父母が地域活動に参加する機会を高めることを通じて、子どもが地域活動に触れる機会をも作り出す。子ども会のような活動や場は、子どもにとって参加しやすく、また親子で参加しやすい地域活動であることから、こうした活動を有効活用することが地域資源の共有意識の形成に寄与すると考えられる。このため、親子での地域活動への参加を促すような仕組み作り（家族参加の支援）、地域活動を親子で参加しやすいものにしていく（活動時間の配慮、こども会の活用や親子で参加できるようなイベントの工夫など）、多世代交流の場づくりが地域資源の共有意識（ソーシャル・キャピタル）の世代間継承に有効である。

3-3. 領域のリサーチ・クエスチョンへの回答

領域-Q1. 持続可能な社会に向けての多世代共創の意義とは？

多世代という視点は、ある時点において生きている複数の世代という視点のほか、ある特定の世代が生まれてから生を終えるまでの間に、他の世代と様々な接点を持ち、その接点を通じていくつもの世代がつながっているという異時点間での関係をも有する視点である。このため、ある

特定の時点に着目して多世代的なアプローチを検討することに加え、ある世代が作り上げたものを次世代に継承し、次の世代がそれを活用できるようにしていくという動学的なアプローチを考えることも必要となる。

本プロジェクトの意義・成果は、社会や地域との関わりにおいて重要な役割を果たすソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識について、世代間の継承可能性を示した点にあり、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識を次世代に円滑に継承することで、世代が変わっても地域資源の価値を維持し増進するための取組が継続されていく可能性を提示している。このことは、20年や30年といったスパンではなくさらに長期のスパンで多世代共創的な活動が行われ、社会の持続可能性を高めていく可能性があることを示しており、「多世代共創」という視点が持続的な社会の実現において有効なアプローチであることの1つの証左となると考えられる。

領域-Q2. 特に若い世代が多世代共創的活動に参加するインセンティブとは？

若い世代は、日常生活において、様々な他世代に接し他世代のことを考えるきっかけが少ないのが現状である。そして、そのような機会を持たないまま成長することは、その後の多世代共創的活動への参画に対してネガティブな影響を与える可能性がある。一方で、本プロジェクトにおける分析の結果、子どもの頃に両親・祖父母と地域活動に参加し、多様な世代と触れ合う機会をもつことは、その後の地域資源の意識の形成に影響を与えることが明らかとなっている。また、両親・祖父母のソーシャル・キャピタルの高さや地域資源の共有意識の高さは、子どもが地域活動経験をもつきっかけとなり得る。このため、ソーシャル・キャピタルや地域資源に対する共有意識の継承サイクルを維持したりより円滑に行われるようにすることが、若い世代が多世代共創的活動に参画するインセンティブの1つになると考えられる。

領域-Q3. 効果があるのに多世代共創に参加しない場合の世代別の方策とは？

ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識は、地域活動のような多世代共創的活動への参画のモチベーションとなっていると考えられることから、特定の世代においてこうした意識が断絶することがないように継承を促していくことが重要と考えられる。また、地域としての連帯感があり、多世代が交流する場があるような地域では、個人のソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識も高まる可能性があることから、地域全体として多世代共創的活動を活性化させていくことは、参加に後ろ向きな世代の意識の変化にもつながっていく可能性があるのではないかと考えられる。

領域-Q4. 持続可能な社会及び多世代共創における新技術の影響や含意とは？

本プロジェクトの目的とは直接的には関連しない。

領域-Q5. 多世代共創的活動は人々にどのような意識変化をもたらすか？

多世代共創的活動は、自分と異なる世代とともに活動することにより、世代間での意識の共通点や相違点を再認識させるとともに、他の世代に対して何ができるか、他の世代により価値のあるものを残すためには何ができるかという将来世代への互酬性の意識を芽生えさせる可能性がある。本プロジェクトにおける分析結果からも、地域資源の共有意識の高さは将来世代への互酬性の意識にもつながっていく。このため、多世代共創的活動への参画等を通じて、こうした意識が社会全体に浸透・共有・継承されるようになれば、財政赤字、所得格差、生物多様性の確保といった課題に対しても、現在の負担が多少増えても将来世代への負担が少なくなるような取組に対

する合意形成がしやすくなると考えられる。

領域-Q6. 多世代共創が社会に普及・定着するには？

本プロジェクトにおける成果を踏まえると、多世代共創が社会に普及・定着するためには、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の継承が重要な課題と考えられる。実際の地域活動への参画との関係性を考えると、地域資源の共有意識は、地域活動への参画の重要なモチベーションの1つとなっており、意識の継承は、多世代共創の普及・定着を考える場合に重要な課題の一つとなる。実際に地域活動には参加できていなくても地域資源の共有意識の高い人は、機会があればそうした活動に参加するポテンシャルを有していることから、活動内容の周知や活動時間の配慮といったポテンシャルとニーズをマッチングさせる取組は、多世代共創を社会に普及させていくための課題のひとつである。また、地域において多世代が交流する場がある、地域としての連帯感がある、地域活動に熱心な人・団体がある、といったことは地域資源の共有意識を高める要因となっていることから、地域全体のマインドを変えていくことも、多世代共創が普及・定着していくためには重要な要素のひとつと考えられる。

ただし、分析結果を踏まえると、地域資源の共有意識の低い人は、意識の高い人に比べて地域活動に参加しておらず、参加しているとしても地域とのしがらみなど本人の意識とは異なるところがその理由となっている可能性がある。こうした意識の人を強制的に多世代共創的活動に参加させることの効果は不明であり、また、そのような意識を持つ両親の子どもがどのような意識を継承するのかは明らかにできていない。この点については、今後さらに分析を深めていく必要があると考えられる。

領域-Q7. 多世代共創の程度と持続可能な社会への有効性を評価するための指標とは？

持続可能な多世代共創社会を実現するためには、多世代共創的活動に参加する個人の意識（ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識）が世代間で継承されることが重要であり、これは、多世代型ソーシャル・キャピタルの形成にも関連する。このため、世代間での意識の継承が円滑に行われているかどうかを定量的に把握することは、多世代共創の程度を測る1つの指標となり得ると考えられる。

例えば、親子間でのソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の継承度（親世代と子世代とでのソーシャル・キャピタルの比較）、エリアマネジメント活動等における参加者の年齢構成の多様性、活動の継続年数といったものが、多世代共創の程度を測るための指標となり得るのではないかと考えられる。

領域 Q-8. 持続可能な社会及び多世代共創における地域の自然の意味とは？

「地域の自然」を地域の文化的な要素を規定する要因としての自然（気候、地形などの歴史的な風土）と捉えた場合、地域独自の自然から育まれてきた地域独自の文化も、多世代共創を規定する要因の一つと考えることができる。本調査における現地調査においては、地域活動の実践者から、地域の気風がその地域での地域活動の背景にあるとのコメントも得られており、このような地域の気風は、「地域の自然」の中から歴史的な人々の営みを経て生み出されている可能性もある。また、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の継承は、こうした地域の気風によって支えられている可能性もある。こうした点を踏まえると、地域の自然は、多世代共創の実現度を規定する要因となる可能性があり、このことが地域間でのソーシャル・キャピタルの格差、エリアマネジメント等の地域活動の活発さの違いにつながっている可能性も考えられる。

ただし、この点を定量的に明らかにしていくためには、地域の自然の違いと文化との関係、文化の違いと多世代共創との関係など、新たなデータ収集による更なる検証・分析が必要と考えられる。

3-4. 実施項目毎の結果・成果の詳細

3-4-1. 文献調査

(1) ソーシャル・キャピタルの世代間継承に関する先行研究

ソーシャル・キャピタルに関する理論および実証研究のうち、本プロジェクトにおいては、特にソーシャル・キャピタルの世代間継承に着目している先行研究を中心にサーベイを行った。理論分析においてソーシャル・キャピタルの世代間（親子間）継承という観点からの研究を行っているものとしては、Tabellini (2008)¹⁾や Fan (2008)²⁾といった研究が挙げられる。Tabellini (2008)では、子供の厚生を最大にするように親がソーシャル・キャピタルを選択するという仮定の上で、親が子供にどのようなソーシャル・キャピタルを継承させるかを選択するというものを、理論モデルを用いて分析している。結果、ソーシャル・キャピタルの高い親は子供のそれ（ソーシャル・キャピタル）を高めようとする一方、ソーシャル・キャピタルの低い親は子供のそれ（ソーシャル・キャピタル）を高めるための努力をしないということを示している。

実証研究に関しては、世代間での継承可能性を示唆する研究が幾つか行われている。Nunn and Watchekon (2011)³⁾は、サブ・サハラ 17 カ国で行われた調査データを用いて、奴隷貿易においてより深刻な被害を受けた地域のエスニック・グループ出身者を先祖に持つ個人は、他者（親戚、隣人、同じエスニック・グループ）に対する信頼や地方政府に対する信頼が低い傾向にあることを示している。また、Uslaner (2008)⁴⁾は、移民国家である米国のデータを用いて、北欧、ドイツ、英国出身の先祖を持つ個人は、他人を信頼する傾向がある一方で、アフリカ系アメリカ人やヒスパニック／ラテン系アメリカ人は、周りの市民に対してあまり信頼を持たない傾向があることを示した。同じく米国のデータを用いて、Tabellini (2008)⁵⁾は、祖先の出身国の信頼の高さが 3 世代目となる移民の孫の信頼の高さに有意に正の影響を与えていること、より民主的な政治制度を持っていた国を出身国にもつ移民の子孫はより高い信頼を持つことを示している。また、親子での継承について分析を行ったものとしては、Dohmen, et al. (2012)⁶⁾や Guiso, Sapienza and Zingales (2008)⁷⁾等の研究が存在する。Dohmen, et al. (2012)では、ドイツ社会経済パネル調査（SOEP）を用いて、親子間のリスクと信頼に関する姿勢にどのような関係があるのかを分析しており、親がリスク選好型・他人を信頼する傾向がある場合は、子供にも同様の傾向が見られ、親子間のリスク・信頼に関する姿勢には正の相関があることを示している。

このように近年ではソーシャル・キャピタルの世代間継承に焦点をあてた研究はいくつか存在することが分かった。しかし、ソーシャル・キャピタルの世代間継承を促す要因や継承を妨げる要因に踏み込んだ実証研究は見当たらず、また、わが国における地域活動との関係から実証的な研究を行っている研究は、今回の文献調査においては把握することができなかった。

(2) ソーシャル・キャピタルに関するアンケート調査

わが国においてこれまでに実施されたソーシャル・キャピタルに関するアンケート調査に関するサーベイを行った。今回把握した既存調査は表 2 のとおりである。

表 2.既存アンケート調査の概要

調査	調査時期	調査方法	対象	回収数	調査の主な目的
内閣府国民生活局(2003)「平成14年度ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」	2003年2月～3月	郵送/Web	全国	(郵送) 1,878人 (Web) 2,000人	SC構成要素(つきあい、信頼、社会参加)の指標、SC統合指数の作成
内閣府経済社会総合研究所(2005)「コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書」	2005年3月	Web	全国	3,000人	SC(つきあい、信頼、社会参加)の指標作成。SCと生活安心感、コミュニティへの評価との関係性の定量把握
(株)日本総合研究所(2007)「日本のソーシャル・キャピタルと政策～日本総研2007年全国アンケート調査結果報告書～」	2007年8月	Web	全国	3,000人	SC構成要素(信頼、つきあい・交流、社会参加、ボンディング、ブリッジング)の指数作成
滋賀大学・内閣府(2016)「ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化 滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所共同研究 地域活動のメカニズムと活性化に関する研究会報告書」	2015年2月	Web	全国	23,883人	SC 統合指数、つきあい・交流指数、信頼指数、社会参加指数、ボンディング指数、ブリッジング指数の作成。SCと生活満足度や地域活性化との関連性を検証
稲葉陽二(2011)「『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』二〇一〇年社会関係資本全国調査」	2010年9月～10月	郵送	全国	1,599人	SC構成要素(つきあい、信頼、社会参加)の指標、SC統合指数の作成、SCと健康・所得格差の関連の検証
稲葉陽二(2013)「『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』二〇一二年社会関係資本東京都九区調査」	2012年9月～10月	郵送	東京都9区	458人	SC構成要素(つきあい、信頼、社会参加)の指標、SC統合指数の作成、SCと健康・所得格差の関連の検証
農林水産省農村振興局(2007)「地域のつながりや信頼に関するアンケート調査」(農村におけるソーシャル・キャピタル研究会 倉敷市(2006)「都市計画マスタープラン市民アンケート」	2006年12月～2007年1月 2006年9月	世帯に配布 郵送	全国 岡山県倉敷市	3,981人 3,384人	農村SC構成要素の分析・指数作成。農村SCと農業活動や集落活動、生活満足度との関係性の分析 都市計画マスタープランの策定に際する住民意識調査
神戸市(2009)「平成21年度神戸市1万人アンケート」	2009年9月	郵送	兵庫県神戸市	4,955人	「協働と参加」の仕組みづくりや地域の課題解決のための意識調査

これらの調査においてソーシャル・キャピタルをどのような設問から捉えているかを簡潔に整理すると、まず、ソーシャル・キャピタルの主要な構成要素である「信頼」については、一般的に人は信頼できるか、旅先や見知らぬ土地で出会う人を信頼できるかといった設問が多く用いられている。また、「互酬性の規範」については、人を助ければいずれ助けてもらえると思うか、自分にとって利益ではないが地域全体にとって利益があることのために半日提供することが自治会で決められた場合に賛成するか、といったことや寄付や募金活動の状況について問う設問が用いられている。「ネットワーク」に関しては、近所づきあいの程度や相手の数、友人・知人や親類等との普段のつきあいといったことがネットワークを測る為の質問として用いられていることが多く、社会参加に関する質問としては地域での活動やボランティア活動等への参加頻度といったことが設問に用いられる例が多い。こうした設問をアンケート調査内に設けることが既存研究との整合性や比較の上で有用と考えられる。

このほか、地域との関わりでは、住んでいる地域の満足度や永住意向、地域の印象などを質問項目として設けている例が見られた。本プロジェクトでは「地域資源の共有意識」を重要なキーワードの一つとしていることから、これらの設問も参考に、個人の「地域資源の共有意識」を明らかにしていくための設問を検討することが必要と考えられる。

なお、これらの既存のアンケート調査のほとんどは世帯のうちの一人を対象としたアンケートとなっており、これらの調査結果を活用して親子間といった世代間でのソーシャル・キャピタルの関係を分析することが難しいことも明らかとなった。

(3) 現地ケーススタディに関する文献調査

現地調査対象市町村に関しては、特にソーシャル・キャピタルの世代間継承という視点に着目して、文献のサーベイを行った。滋賀県長浜市のケースでは、1980年代のまちの衰退を危惧したまちの若者の中から、1988年に民間資本を中心として第三セクター株式会社黒壁(下記写真参照、

以下黒壁とする）が設立された。長浜市の中心部には、1900年に百三十銀行長浜支店として建築され、またその外壁が黒漆の様相から「黒壁銀行」等の愛称で親しまれていた建物があった。その保存と活用のために民間企業8社と長浜市の協力により、出資金1億3,000万円でスタートさせた。角谷（2009、p178）⁸⁾によると、当初の黒壁は、出資者等を通じて経営者を決めたことや経営者は直接的な収入を得ない等、黒壁銀行を保存するために郊外の長浜楽市との差別化を図る商売を行なう方針をもって始まった。また、代表者には長浜市の職員を派遣するのではなく、他の出資者や議会からの信頼も厚い民間出身の長谷定雄（長浜市の実業家）が就任した。特徴としては、行政からの資金援助を受けているにもかかわらず、基本的には「民間資金」を活用する形でまちづくりを行っている点である。まさに、この1億3,000万円こそがまちの個性を残しながら活性化を目指す手法であり、市民の愛着が生んだ投資資金ともいえる。実際に長谷定雄らは、経営者として自らの器量を試したかった面等もあるが、建物保存を継続していくことに責任を感じ取り組んできた（角谷（2009）、p179）。同社は、この資本金をベースに昔ながらの風景を残しながら空き店舗を次々と整備していき、現在では北国街道沿いの中心市街地に、直営店、共同店、加盟店等約30店舗のグループを展開している。

また、滋賀県長浜市の中心市街地の商店街では、一般に難しいといわれている若者の雇用が一定数実現されており、注目に値する。これについては、角谷の指摘にあるような「黒壁銀行」を中心とした景観等の地域資源を若者も含めた形で継承する組織を組成し、運営していることが一つの要因であると考えられ、地域資源を世代を超えて継承していこうという意識が具体的な活動となって現れている点で、まさにソーシャル・キャピタルの世代間継承の象徴ともいえる。



写真.2 黒壁銀行の概観

さらに、現地調査を行った岡山県倉敷市のケースに関しては、倉敷市より提供いただいた資料

“新旧の賑わいの拠点を擁して魅力と可能性を増す倉敷の町”において、以下のような記述がみられる。

美観地区と呼ばれる江戸時代中頃から形作られてきた伝統的な景観が全国的に有名であるが、もとは有力商人層が台頭し、町家と蔵の町並みが形成されるようになったものである。この有力商人層の代表格であり、同地で大原財閥を築いた大原孫三郎の長男である總一郎が倉敷の町並み保存の立役者といわれている。總一郎が町の人々を巻き込んで町並み保存の活動を活発化させ、ついには1968年に倉敷市伝統美観保存条例が制定された。その後、官民が連携して町並み保存と町づくりに取り組んできた背景がある。特に上記資料には“町並み保存と町づくりに早くから市民が取り組んできた土地柄ゆえか、さらに遡れば自主の気性に富んだ天領領民の気風が受け継がれているからか…、町衆が町を守り盛り立ててきたという市民の思いは熱く、駅北と南、新旧の賑わいの拠点を擁して、活力ある倉敷の町はさらにその魅力と可能性を広げている。”の記載が示すように、ソーシャル・キャピタルの世代間継承に直接的に言及しているものが存在する。

また、現地調査対象市町村以外の国外事例についても下記のような研究が行われている。

山崎（2009、p14-15）によると、市民参加のまちづくりの先進事例として名高いアメリカ・ポートランド市については、他のアメリカの都市と比較してもリベラルな文化が根底にある中、文化のレベルが高いことで知られている。南部開拓時代の来者は拒まないという気風が残っていて、自由で創造的な気質は長く根付いている（山崎、2009、p14-15）。また、古くから同地に住んでいる市民や他所から比較的新しく入ってきた人のほとんどがライフスタイル重視であり、持続可能な生活のために地産地消や教育面を非常に大切にしている傾向にある（山崎、2009、p33）。さらに山崎（2009、p33）は、自分たちのコミュニティをよりよくするために住民同士で協力し合う傾向にあり、地元文化を誇りに思う地域性があると指摘する。

上記のような地域活動を支える組織の行動特性を理解するために、ロビンス（2016）の文献等より、集団の意思決定プロセスや組織におけるコミュニケーションを理解し、現地調査や簡易アンケートの設問設定、分析に役立てた。

3-4-2. WEB アンケート調査項目の検討

(1) 28 年度アンケート調査項目の検討

回答者のもつ「地域資源の共有意識」を明らかにするため、ア) アンケートへの回答に際して地域資源のイメージを回答者に理解しやすくする、イ)「地域資源」の価値を維持し高めるための取組みが地域活動であることを認識しやすくする、といった点に留意して、地域資源の価値を維持し高めるための活動への参加意思や費用負担の意思、将来世代への地域資源の継承の意識等に関する設問を盛り込むこととした。

また、文献調査を踏まえて、ソーシャル・キャピタルの計測に用いられる質問事項（信頼や互酬性、社会参加に関するもの）を盛り込むとともに、親子間でのソーシャル・キャピタルの関係を明らかにするため、表 3 にあるような質問を取り入れることとした。これらの質問は、回答者本人を通じて両親のソーシャル・キャピタル（他人への信頼、地域活動への参画等）を聞くものであり、これらの質問の結果と本人のソーシャル・キャピタルに関する質問とを活用することで、両親や祖父母と回答者本人のソーシャル・キャピタルとの関係を明らかにすることが可能となると考えられる。

表 3. アンケート調査質問事項の例

問12	あなたの両親や祖父母は、一般的に人を信頼する傾向がある人でしたか？
問13	あなたのご両親や祖父母は、近所の人とどの程度のお付き合いをされていましたか。
問14	<p>あなたのご両親や祖父母は、以下のような活動にどの程度参加されていましたか。以下の4つの活動について、それぞれ一つ選択してください。</p> <p>項目1 地域活動 項目2 被災地支援など他地域に対するボランティア活動 項目3 スポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習等） 項目4 その他の団体活動（労働組合、宗教、政治等）</p>
問15	あなたのご両親や祖父母は、人助けをすることについてどのような考えを持っていたと思いますか。
問16	<p>あなた自身の経験について、当てはまるかどうかをお聞きします。</p> <p>項目1 子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加する際に一緒に参加して育った。 項目2 子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加しているのを見て育った。 項目3 子供の頃、親や祖父母が人を助けるのをみて育った。 項目4 子供の頃、家庭内で人助けの大切さを学ぶ機会があった。 項目5 子供の頃、家庭内で地域活動に参加することの大切さを学ぶ機会があった。</p>

以上の質問は、回答者本人の主観的な回答であり、実際の両親や祖父母の意識や行動を把握するものではない。しかし、ア) 両親や祖父母が既に亡くなっている場合には両親・祖父母本人に質問することが不可能であること、イ) 回答者と両親・祖父母が同居していない場合、世帯を対象としたアンケートを行っても本人と両親・祖父母の回答の両方を得ることは難しいこと、を考慮すると、現時点においては、世代間での継承を把握するため妥当な手法であると考えられる。

なお、アンケートにおいては、回答者や回答者の両親に関するプロフィール（年齢（生年）、最終学歴、職業等）のほか、個人のソーシャル・キャピタルの形成要因を明らかにするため、回答者の経済行動に関する意識（リスク回避度、時間選好率）に関する設問を取り入れることとした。

(2) 29 年度アンケート調査項目の検討

29 年度アンケートにおいては、28 年度調査において盛り込めなかった質問項目（友人・知人とのつきあい等）のほか、領域マネジメントグループとの間で実施した意見交換を踏まえ、回答者が居住する地域の状況を把握するための設問を追加することとした。具体的には、表 4にあるような回答者が居住する地域の環境（賑わい、治安、ゴミ問題等）や、地域のソーシャル・キャピタル（地域の連帯感、地域活動の状況等）に関連する質問項目である。さらに、ソーシャル・キャピタルの継承の阻害要因を明らかにするため、子どもの頃の余暇時間の使い方等についても質問を行い、どのような要因が継承の阻害要因となるかを分析する際のデータとして活用することとした。

表 4.29年度アンケート質問項目例

問1	<p>あなたが住んでいる周りの環境についてお聞きします。以下の項目についてどの程度不満を持っていますか。当てはまるものを一つ選択してください。</p> <p>項目1 活気や賑わいのなさ 項目2 空き地や空き家の多さ 項目3 治安の悪さ 項目4 街頭でのゴミや不法廃棄物の多さ 項目5 公園や緑地の少なさ 項目6 近所づきあいの希薄さ 項目7 近所づきあいの濃密さ</p>
問3	<p>あなたが住んでいる地域についてお聞きします。以下の項目について当てはまるかどうかお答えください。</p> <p>項目1 地元の小学校でのイベント（運動会等）の案内が回ってくる 項目2 地元の自治会や町内会等のイベント（盆踊り等）の案内が回ってくる 項目3 市役所や役場からの広報やお知らせが回ってくる 項目4 地域での行事や活動に熱心な人がいる、もしくは団体がある 項目5 多様な世代の人が集まる場（公民館や集会所など）があり、実際に多様な世代の人が集まっている 項目6 新しく引っ越してきた人も地域に馴染んでいる 項目7 新しく引っ越してきた人に対しては警戒心を持っている 項目8 地域としての連帯感がある 項目9 古くから行われている地域のお祭りや伝統行事がある 項目10 暗くなっても安心して一人で出歩くことができる</p>
問21	<p>あなた自身の経験について、当てはまるかどうかをお聞きします。</p> <p>項目1 テレビ 項目2 ファミコン等のテレビゲーム 項目3 パソコン・スマホ（インターネット） 項目4 スポーツ等（野外での活動） 項目5 家族との団欒 項目6 友人との交流</p>

3-4-3. WEB アンケート調査の実施・分析

(1) 28 年度アンケート調査

調査項目の検討結果を踏まえて 29 年 3 月に 1 回目のアンケート調査を実施した。アンケートの実施にあたっては、都市部に居住する人の回答が多くなるなど回収するサンプルの地域バランスが偏ることのないよう、回答者の居住する地域別の回収数を考慮している。なお、28 年度アンケート調査の実施にあたっては、京都大学経済研究所先端政策分析研究センター「エビデンス・ベース社会の構築に向けた人文社会科学の学際融合事業」とも連携して実施しており、回収するサンプル数の充実を図っている。調査期間は 29 年 3 月 1 日から 3 月 10 日までの 10 日間であり、NTT コム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社を通じて実施した。得られた回答者数は 11,371 名である。

回答者の地域分布をみると、「大都市（東京 23 区、政令指定都市）」が 36.7%、「中都市（人口 10 万人以上の都市）」が 23%、「その他の都市（人口 10 万人未満の都市）」が 31.9%、「町・村」が 8.4%となっている。回答者属性については、年齢が 60 代以上の回答者が全体の 36.0%、40～50 代が 38%、20～30 代が 25.9%となっており、男女比は男性が 60.8%、女性が 39.2%となっている。職業については「勤め人（会社・団体などに従業・勤務している人）」が最も多く全体の 52.4%を占め、続いて「仕事はしていない（専業主婦・主夫、学生、引退した）」が 34.5%、「自営業主」

が7.1%であった。学歴については最終学歴が「大学」が46.1%で最も多く、「高等学校など後期中等教育機関」が27.0%、「専門学校」が9.3%、「短期大学」が8.2%、「大学院」が5.6%であった。

(2) 29 年度アンケート調査

29 年度アンケート調査は 29 年 7 月 24 日～28 日の 5 日間にかけて実施し、7498 人からの回答が得られた。回答者の属性をみると、地域分布に関しては「大都市(東京 23 区、政令指定都市)」が 37.9%、「中都市(人口 10 万人以上の都市)」が 23.4%、「その他の都市(人口 10 万人未満の都市)」が 30.4%、「町・村」が 8.3%となっており、28 年度調査における比率から大きな乖離は見られなかった。年齢分布に関しても、60 代以上の回答者が全体の 37.3%、40～50 代が 39%、20～30 代が 23.7%、男女比は男性が 62.4%、女性が 37.6%となっており、こちらも 28 年度調査とほぼ同様の結果となった。職業については「勤め人(会社・団体などに従業・勤務している人)」が 51.9%、「仕事はしていない(専業主婦・主夫、学生、引退した)」が 35.2%、「自営業主」が 7.2%となり、学歴については最終学歴が「大学」が 46.7%、「高等学校など後期中等教育機関」が 27.1%、「専門学校」が 9.0%、「短期大学」が 8.0%、「大学院」が 5.6%であった。このように、29 年度アンケートで回収できたサンプルは、28 年度調査と比較して回答者の属性分布に大きな偏りは見られず、サンプルの偏りは少ないと考えられる。

また、28 年度アンケート調査と 29 年度アンケート調査では同一の質問を設けている。具体的には、一般的な信頼に関する質問（平成 28 年度アンケート問 6、平成 29 年度アンケート問 14「一般的にいて、ほとんどの人は信頼できると考えますか、それとも人と接するには用心するに越したことはないと思いますか。」）と、地域活動への参加に関する質問（平成 28 年度アンケート問 9 項目 1、平成 29 年度アンケート問 4「あなたは地域活動に参加されていますか。参加している場合、どのくらいの頻度で参加されていますか。当てはまるものを一つ選択してください。」）の 2 つである。

この 2 つの質問の回答状況をそれぞれ比較すると、回答分布に大きな変化は見られなかった。また、同一の回答者による回答に大きな変化があるかどうかを確認すると、一般的信頼については、28 年度と 29 年度で回答が同じサンプルは 7498 人中 2288 人（30.5%）、回答順位が 1 ずれている選択肢を選んでいるサンプルは 2759 人（36.8%）、2 ずれている選択肢を選んでいるサンプルは 1329 人（17.7%）であり、3 以上離れた選択肢を選んでいる回答者は 2 割に満たない。地域活動への参加についても、28 年度と 29 年度で同じ回答をしているサンプルは、5102 人（68.0%）であり、2 回の調査において回答傾向が大きく変わっているサンプルの割合は少ない（表 5）。

表 5. 同一質問項目の回答状況

	一般的信頼		地域活動参加の頻度	
	回答者数	比率	回答者数	比率
28年度アンケートにおける回答と同一の回答を選択	2288	30.5%	5102	68.0%
1つずれた選択肢を回答	2759	36.8%	1846	24.6%
2つずれた選択肢を回答	1329	17.7%		
その他	1122	15.0%	550	7.3%
合計	7498	100.0%	7498	100.0%

このことは、アンケートを 2 回に分けたことによる回答への影響は少なく、それぞれのアンケートにおいて回答者は回答者自身の意識を素直に回答していること、また、一般的な信頼の意識については、短期間で大きな変動を見せるような性質のものではないことを示唆していると考えられる。

(3) アンケート・データを用いた分析

28年度、29年度の2回のアンケート調査から得られたデータを元に、以下のような分析考察を行った。

① ソーシャル・キャピタルの指標

ソーシャル・キャピタルには多様な側面があり、既存研究においては様々な指標が使われてきている。既存研究を参考として、実施したアンケート調査ではソーシャル・キャピタルに関する指標となる質問をできるだけ多く取り入れているが、本プロジェクトでは、地域活動という他者との協調行動に特に着目していることから、他人との協調的行動との関わりが深い他者への信頼と互酬性の意識という側面に焦点を当てる。

アンケート調査では、「一般的な信頼（問6）」「旅先での信頼（問7）」「地域の人への信頼（問8）」「互酬性の意識（問11項目1）」を質問しており、信頼に関する前者の3つの質問の回答の単純平均（クロンバックの $\alpha=0.9204$ ）したものを「他人への信頼」、後者を「互酬性の意識」として、ソーシャル・キャピタルの指標として活用する。

② 「地域資源」に対する共有意識

「地域資源」に対する共有意識としては、表6にある6つの質問項目の回答を合成（単純平均）したものを利用する（以下、「地域資源の共有意識」とする）。

表 6. 地域資源の共有意識に用いる質問項目

問2	地域資源についてのあなたのお考えをお聞きます。以下のような考えに、あなたはどの程度同意しますか。
	項目1 自分が積極的に関わることで、地域資源を守ったりより充実させていきたい。 項目2 地域資源は、地域のみんなが協力して、その価値を守ったり充実させていくことが必要だ。
問3	「地域活動」に対する以下の考え方に、あなたはどの程度同意しますか。
	項目1 「地域活動」が積極的に行われることはよいことだ。
	項目2 「地域活動」には積極的に参加したい。
	項目3 「地域活動」には、地域の全員が積極的に参加すべきだ。
	項目4 「地域活動」には、特定の世代の人だけではなく、様々な世代の人が参加すべきだ。

これらの質問に対しては、「同意する」「どちらかといえば同意する」「どちらとも言えない」「どちらかといえば同意しない」「同意しない」の5段階の選択肢の中から1つを選択することとなっており、「同意する」を5、「同意しない」を1として順序変数としている。

この6つの項目についてクロンバックの α を計算すると0.899となり、項目間の関連性は非常に高い。また、主成分分析を行っても、第1主成分の寄与率は0.667と高く、6つの項目すべてと正の相関を持つ。このことから、この6つの項目の合成指標を「地域資源の共有意識」と位置づけ、本プロジェクトにおける分析・考察を進める。地域資源の共有意識は、地域の公共財の保全に労力を提供しようという意思の現れとも解釈でき、地域の公共財の自発的供給のモチベーションとも理解することができる。

③ ソーシャル・キャピタルと「地域資源の共有意識」

このようにして作成した「地域資源の共有意識」とソーシャル・キャピタルとの関係をみると、両者には正の相関関係（「地域資源の共有意識」と「他人への信頼」との相関係数は0.3545、「互酬性の意識」との相関係数は0.394）が見られる。つまり、他人に対する信頼の高い人ほど地域資源の共有意識は高く、互酬性の意識の高い人も同じように地域資源の共有意識は高くなる傾向が見られる。

図1は、他人への信頼に関する質問における回答との関係をみるため、信頼に対する質問（問

6) への回答（1～10の10段階）、互酬性に関する質問（問11項目1）への回答（1～5の5段階）をそれぞれのグループとし、グループごとの地域資源の共有意識の平均値を比較したものである。これを見ると、人は信頼できると回答している人の地域資源の共有意識は、注意深く接する必要があると回答する人に比べて平均的に高く、ソーシャル・キャピタルの高さは「地域資源の共有意識」を高めるという関係を想定することができる。

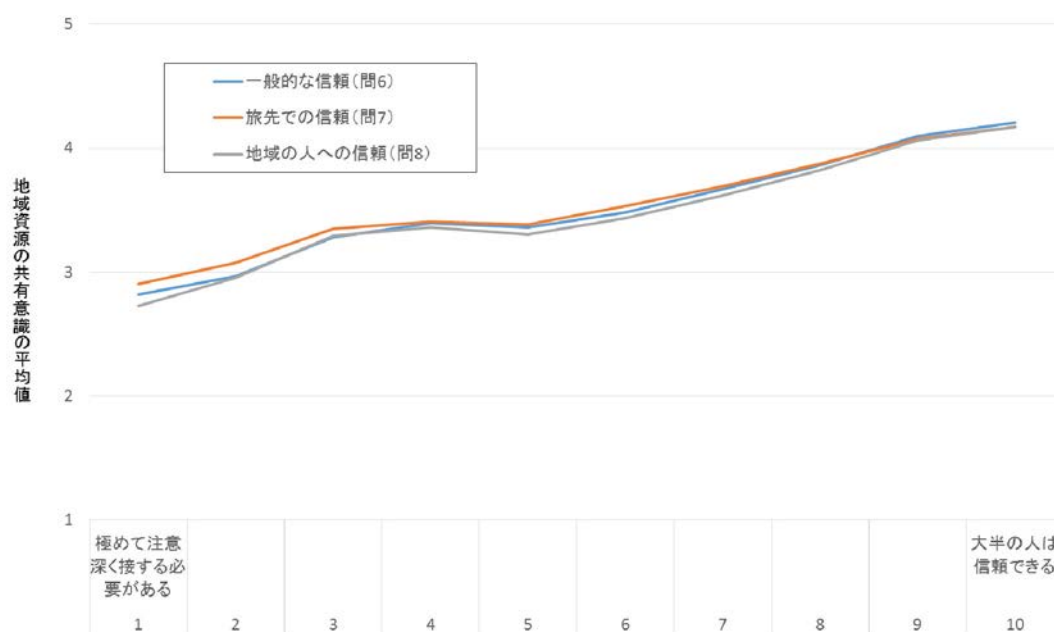


図 1 信頼と地域資源の共有意識との関係

両者の関係をさらに詳細に見るため、信頼に対する質問の回答ごとに、地域資源の共有意識の回答の分布を確認したものが表 7 である。他人への信頼が高い人で地域資源の共有意識が低い人は少ないものの、他人への信頼が低くても地域資源の共有意識は高い人は比較的多く存在するという傾向が見出せる。このことは、ソーシャル・キャピタルの高さは地域資源の共有意識の十分条件であり、ソーシャル・キャピタルを継承することにより、地域資源の共有意識は高まる可能性を示唆する一方で、ソーシャル・キャピタルの継承とは別の要因で、地域資源の共有意識を高めることができる可能性を示唆している。

なお、28 年度アンケートでは、どのような地域資源が特に重要と考えるかを聞いている（問 1）。この問は、「文化センター、公園、広場などの公共施設」「治安、賑わい、景観など、まちや地域の暮らしやすさ」「お祭りや伝統行事などの文化的なもの」「その他」の 4 つの中から、もっとも重要と考える地域資源を選択してもらうものである。回答別に地域資源の意識を比較すると、お祭りや伝統行事などの文化的なものを選択している人の地域資源の共有意識が他の資源に比べて若干高くなっているが、前者 3 つのうちのどれを選択しているかによって大きな差は見られない。しかし、「その他」を選択している回答者については地域資源の共有意識の平均が小さくなっている。アンケートでは「その他」を選択した場合、具体的にその内容を自由記述してもらうことが可能となっている。自由記述の内容を概観すると「特にない」という回答が散見されたことから、特に重要と考える地域資源はないと考える回答者によって、平均値が低くなっていると考えられる。

表 7. 一般的な信頼と地域資源の共有意識の分布

	極めて注 意深く接 する必要 がある	大半の人は信頼できる									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
地域資源の共有意識	4.5-5.0	39	15	77	93	111	267	234	270	136	99
	4.0-4.5	32	23	119	235	289	477	457	343	120	49
	3.5-4.0	34	28	141	360	445	723	645	346	78	34
	3.0-3.5	71	42	222	442	771	1000	441	208	43	26
	2.5-3.0	50	37	119	169	190	207	133	64	10	5
	2.0-2.5	56	29	67	76	73	105	43	21	7	3
	1.5-2.0	27	19	31	23	14	24	12	4	1	1
	1.0-1.5	58	10	21	14	25	31	4	2	1	0
	平均	2.817	2.966	3.280	3.395	3.361	3.480	3.670	3.862	4.096	4.206
合計	367	203	797	1412	1918	2834	1969	1258	396	217	

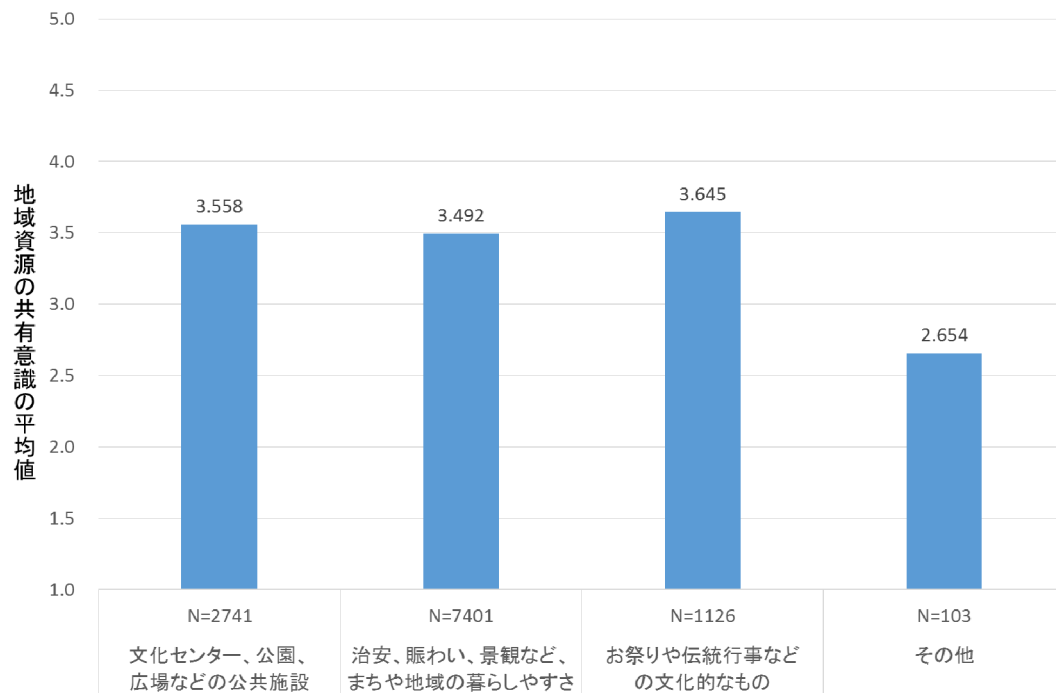


図 2 重要と思う地域資源別にみた地域資源の共有意識

④ ソーシャル・キャピタルと地域資源の共有意識の両親・祖父母からの継承

ソーシャル・キャピタル（他人への信頼と互酬性の意識）や地域資源の共有意識が両親・祖父母から継承されているものかどうかを確認するため、両親・祖父母に関する質問から継承の可能性について検討する。アンケートにおいては、両親や祖父母のソーシャル・キャピタルを把握するため、「あなたのご両親や祖父母は一般的に人を信頼する傾向のある人でしたか？」（28 年度問 12）、「あなたのご両親や祖父母は、人助けをすることについてどのような考えを持っていたと思いますか？」という質問を設けている。これらの質問に対する回答と、本人の他人への信頼、互酬性の意識に対する回答とをクロスさせたものが表 8、表 9 である。

これをみると、両親や祖父母が人を信頼する人だったと回答している人は、その人自身も人を信頼すると回答する傾向があることが分かる。互酬性の意識についてもやはり両親や祖父母が人

助けをすることに積極的な考えを持っていたと回答する人は、その人自身も人助けをすることに
対して同意する傾向が見られる。この傾向は、両親・祖父母から他人への信頼や互酬性の意識が
継承されている可能性があることを示していると考えられる。

表 8. 本人の信頼と両親・祖父母の信頼との関係

問6.一般的にいて、ほとんどの人は信頼できると考えますか、それとも人と接するには用心するに越したことはないと思いますか。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	Total
		極めて注 意深く接 する必要 がある。									大半の人は信頼で きる	
た般問 か1 ？に2 人 を あ な 信 頼 た す の ご 傾 向 親 の あ 祖 父 母 で は し	1 全く当てはまらない	35 (19.4)	10 (5.6)	23 (12.8)	9 (5.0)	30 (16.7)	38 (21.1)	14 (7.8)	6 (3.3)	7 (3.9)	8 (4.4)	180 (100)
	2 どちらかといえば当てはまる	41 (4.6)	31 (3.5)	110 (12.4)	171 (19.2)	164 (18.4)	191 (21.5)	105 (11.8)	62 (7.0)	7 (0.8)	8 (0.9)	890 (100)
	3 どちらとも言えない	95 (3.0)	55 (1.8)	228 (7.3)	450 (14.4)	748 (23.9)	937 (31.5)	376 (12.0)	138 (4.4)	36 (1.2)	16 (0.5)	3,129 (100)
	4 どちらかといえば当てはまらない	50 (1.4)	42 (1.2)	211 (5.9)	457 (12.9)	558 (15.7)	899 (25.3)	762 (21.4)	453 (12.7)	88 (2.5)	35 (1.0)	3,555 (100)
	5 よく当てはまる	58 (2.1)	36 (1.3)	154 (5.5)	246 (8.8)	245 (8.8)	477 (17.1)	629 (22.6)	558 (20.0)	217 (8.9)	139 (5.0)	2,789 (100)
	6 分からない	88 (10.6)	29 (3.5)	71 (8.6)	79 (9.5)	173 (20.9)	242 (29.2)	83 (10.0)	41 (5.0)	11 (1.3)	11 (1.3)	828 100
	Total	367 (3.2)	203 (1.8)	797 (7.0)	1412 (12.4)	1918 (16.9)	2834 (24.9)	1969 (17.3)	1258 (11.1)	396 (3.5)	217 (1.9)	11371 (100.0)

表 9. 本人の互酬性の意識と両親・祖父母の互酬性の意識との関係

問11項目1.人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれる。

		1	2	3	4	5	Total
		同意しない	どちらかとい えば同意しない	どちらとも 言えない	どちらかとい えば同意する	同意する	
て母問 どは1 の、5 の、人 あな 助けた な考 えを 持 つ と 親 に や つ つ 祖 父 母 に は し	1 人助けはすべきではない	41 (46.1)	7 (7.9)	16 (18.0)	11 (12.4)	14 (15.7)	981 (100.0)
	2 人助けはなるべくしないほうがよい	16 (6.0)	20 (10.0)	67 (33.5)	63 (31.5)	34 (17.0)	6403 (100.0)
	3 どちらとも言えない	142 (5.6)	124 (4.9)	1273 (50.0)	717 (28.2)	288 (11.3)	2544 (100.0)
	4 できる範囲で人助けをすべき	149 (2.3)	282 (4.4)	1897 (29.6)	2993 (46.7)	1082 (16.9)	200 (100.0)
	5 積極的に人助けをすべき	19 (1.9)	29 (3.0)	211 (21.5)	342 (34.9)	380 (38.7)	89 (100.0)
	6 分からない	150 (13.0)	57 (4.9)	581 (50.4)	230 (19.9)	136 (11.8)	1154 (100.0)
	Total	517 (4.6)	519 (4.6)	4045 (35.6)	4356 (38.3)	1934 (17.0)	11371 (100.0)

地域資源に対する親の考えや地域活動に対する親の考えを本人（子ども）にアンケートすることは難しく、両親の地域資源の共有意識を把握することは困難である。このため、子どもの頃の経験を通して、その継承可能性を確認する。アンケートにおいては子どもの頃の地域活動経験を問う設問を設けており、表 10 は、その中の問 16 項目 1「子どもの頃、親や祖父母が地域活動に

参加する際に一緒に参加して育った」ことに該当するかどうかと、本人の地域資源への関わりの意識（問2項目1「自分が積極的に関わることで地域資源を守ったりより充実させていきたい」）との関係をみたものである。これをみると、やはり、子どものころに両親や祖父母と地域活動に参加した経験のある人は、その人自身が地域資源に対して積極的な意識を持っている傾向があることが分かる。このことは、地域活動に親子で参加することによって地域資源の共有意識が親子間で継承される可能性を示唆している。

表 10. 地域資源に対する意識と子どもの頃の地域活動経験

		問2項目1.自分が積極的に関わることで地域資源を守ったりより充実させていきたい。					Total
		1 同意しない	2 どちらかといえば同意しない	3 どちらとも言えない	4 どちらかといえば同意する	5 同意する	
や問 祖1 父6 母項 が目 地1 域・子 活動ど にもの 参加頃 するの 親	1 全くあてはまらない	234 (15.9)	243 (15.5)	558 (37.9)	287 (19.5)	152 (10.3)	1474 (100.0)
	2 あまりあてはまらない	99 (4.3)	304 (13.2)	863 (37.4)	798 (34.6)	243 (10.5)	2307 (100.0)
	3 どちらともいえない	164 (4.3)	216 (5.7)	2131 (56.2)	936 (26.3)	287 (7.6)	3794 (100.0)
	4 ややあてはまる	93 (2.9)	265 (8.4)	1114 (35.2)	1280 (40.4)	414 (13.1)	3166 (100.0)
	5 よくあてはまる	40 (6.4)	34 (5.4)	150 (23.8)	209 (33.2)	197 (31.3)	630 (100.0)
	Total	630 (5.5)	1,062 (9.3)	4,816 (42.4)	3,570 (31.4)	1,293 (11.4)	11,371 (100.0)

(4) アンケート・データを用いた定量分析の実施

前述の検討により、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の世代間での継承可能性が示唆された。しかし、親から子への継承可能性を確認するためには、様々な要因を考慮する必要がある。以下では、その形成要因も含めてより詳細な検討を行うため、回帰分析により定量的な検証を行った。

① ソーシャル・キャピタルの形成要因

ソーシャル・キャピタル（他人への信頼、互酬性の意識）の形成要因を明らかにするため、両親・祖父母からの影響のほか、回答者本人の様々な属性（性別、年齢、学歴、就業形態等）を考慮した推定を行う。

具体的には、以下の分析を実施した。

- ・被説明変数：他人への信頼（表 11（推定結果 1-1））
 - (1) 列 通常の回帰分析
 - (2) 列 居住地域の市町村特性を考慮
 - (3) 列 親の信頼を考慮（問 12）
 - (4) 列 親と非同居サンプルに限定
 - (5) 列 40 歳未満で親と非同居サンプルに限定
- ・被説明変数：互酬性の意識（表 12（推定結果 1-2））
 - (1) 列 通常の回帰分析
 - (2) 列 居住地域の市町村特性を考慮
 - (3) 列 親の人助け意識を考慮（問 15）

(4)列 親と非同居サンプルに限定

(5)列 40歳未満で親と非同居サンプルに限定

説明変数には、性別、年齢、配偶者の有無、子どもの有無、持ち家の有無、楽観主義（問 35 項目 1、項目 2 の平均）、人間を超えた力への感謝（問 36 項目 1）、信心深さ（問 36 項目 3）、時間選好率（問 34、今日 6 万円受け取ると回答=1、1 週間後 6 万 50 円受け取ると回答=0）、リスク態度（問 33、クジを引くと回答=1、クジを引かないと回答=0）、学歴、就業形態、世帯年収、世帯金融資産を基礎的な説明変数とし、(2)列以降では、回答者の居住する市区町村の特性を考慮するため、2010 年国勢調査のデータをもとに計算した高齢者比率、DID 人口比率の二つの変数を説明変数として追加している。

両親・祖父母からの継承に関しては、信頼については両親や祖父母の信頼を、互酬性の意識については両親や祖父母の互酬性の意識と人助けに関する子どもの頃の経験を考慮した（問 16 項目 3「子供の頃、親や祖父母が人を助けるのをみて育った。」、項目 4「子供の頃、家庭内で人助けの大切さを学ぶ機会があった。」の 2 つの回答の平均）。

推定結果をみると、両親・祖父母からの影響については、信頼、互酬性の意識ともに有意にプラスとなっており、個人の属性をコントロールしても、親からの影響が認められるという結果となった。また、(4)列では、親と同居していないと回答しているサンプルに限って分析を行っているが、主要な結果は同じであり、親と同居していることで親から影響を受けているわけではないことが示唆される。また、親と非同居で 40 歳未満のサンプルに限定しても親からの影響は有意なままである。このことは、比較的若い段階で両親と離れて暮らすようになって、親からの影響を受けていることを示しており、親からの影響は若年期若しくはそれ以前に受けていることを示している。

その他の説明変数についてみると、楽観主義、人間を超えた力への感謝、信心深さといった個人の性格は、信頼に対してプラスの影響を与えている。また、高卒未満ダミーが有意にマイナスとなることから、教育も信頼の意識の形成に影響を与えていると考えることができる。世帯年収や金融資産については、少ない場合にマイナスに影響している。

互酬性に意識についても、楽観主義、人間を超えた力への感謝、信心深さという個人の性格がプラスの影響を与えている。信頼を被説明変数とした場合は時間選好率、リスク態度は有意ではなかったが、時間選好率の高い人（今が大事な人、割引率が大きい人）、リスクを取ろうとする人は互酬性の意識が高くなる傾向がみられる。互酬性の意識は、人に何かをしてあげれば、いつか自分に返ってくる、という将来への不確実性への投資でもあるため、この結果は妥当なものと考えられる。

表 11. 推定結果1-1 (他人への信頼)

被説明変数	(1) 他人への信頼	(2) 他人への信頼	(3) 他人への信頼	(4) 他人への信頼 (親と同居していないサ ンプル)	(5) 他人への信頼 (親と同居していない40 歳未満のサンプル)
女性ダミー	-0.056 (0.038)	-0.050 (0.036)	-0.095 (0.036) ***	-0.094 (0.042) **	-0.075 (0.095)
年齢	-0.002 (0.010)	-0.002 (0.009)	-0.001 (0.010)	-0.007 (0.012)	-0.282 (0.147) *
年齢二乗	0.000 (0.000) **	0.000 (0.000) **	0.000 (0.000) *	0.000 (0.000) *	0.005 (0.002) **
配偶者ありダミー	0.090 (0.055) *	0.099 (0.056) *	0.106 (0.056) *	-0.017 (0.070)	-0.188 (0.127)
離婚ダミー	-0.035 (0.084)	-0.047 (0.086)	-0.006 (0.086)	-0.074 (0.105)	0.091 (0.245)
死別ダミー	-0.090 (0.130)	-0.115 (0.130)	-0.020 (0.130)	-0.106 (0.143)	0.630 (1.615)
子どもダミー	0.101 (0.046) **	0.089 (0.048) *	0.092 (0.047) *	0.096 (0.052) *	0.282 (0.104) ***
持家ダミー	0.079 (0.039) **	0.072 (0.042) *	0.046 (0.043)	0.098 (0.051) *	0.024 (0.090)
楽観主義	0.154 (0.009) ***	0.158 (0.010) ***	0.128 (0.010) ***	0.122 (0.010) ***	0.128 (0.022) ***
人間を越えた力への感謝	0.180 (0.020) ***	0.178 (0.021) ***	0.093 (0.021) ***	0.118 (0.025) ***	0.035 (0.047)
信心深さ	0.045 (0.018) **	0.049 (0.018) ***	0.042 (0.018) **	0.042 (0.020) **	0.116 (0.044) ***
時間選好率	-0.072 (0.035) **	-0.056 (0.038)	-0.056 (0.039)	-0.062 (0.042)	-0.092 (0.073)
リスク態度	0.007 (0.047)	0.009 (0.048)	0.035 (0.049)	0.023 (0.054)	0.055 (0.117)
〔学歴(base:高卒)〕					
高卒未満ダミー	-0.262 (0.128) **	-0.319 (0.127) **	-0.254 (0.134) *	-0.282 (0.150) *	-0.291 (0.226)
専門学校卒ダミー	0.024 (0.060)	0.030 (0.058)	0.016 (0.062)	0.036 (0.069)	0.130 (0.151)
短大・高専卒ダミー	0.010 (0.057)	0.015 (0.056)	0.003 (0.057)	0.020 (0.066)	0.147 (0.133)
大卒以上ダミー	0.051 (0.039)	0.065 (0.042)	0.077 (0.042) *	0.076 (0.049)	0.256 (0.111) **
〔就業形態(base:勤め人)〕					
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.026 (0.040)	-0.025 (0.043)	-0.017 (0.043)	0.000 (0.046)	0.030 (0.100)
自営業主	-0.142 (0.063) **	-0.142 (0.067) **	-0.122 (0.068) *	-0.108 (0.082)	0.258 (0.324)
自由業者	-0.186 (0.109) *	-0.219 (0.119) *	-0.153 (0.112)	-0.162 (0.129)	-0.200 (0.375)
家族従業者	0.227 (0.149)	0.202 (0.144)	0.202 (0.154)	0.140 (0.189)	0.056 (0.261)
在宅就労・内職	-0.313 (0.161) *	-0.339 (0.167) **	-0.309 (0.172) *	-0.392 (0.215) *	-0.692 (0.755)
委託労働・請負	-0.116 (0.165)	-0.048 (0.173)	0.099 (0.177)	0.054 (0.197)	0.213 (0.615)
〔世帯年収(base:400～600万円)〕					
0～400万円	-0.089 (0.042) **	-0.084 (0.043) *	-0.051 (0.043)	-0.061 (0.047)	-0.049 (0.094)
600～1000万円	0.066 (0.044)	0.070 (0.046)	0.074 (0.046)	0.059 (0.049)	0.021 (0.103)
1000万円以上	-0.078 (0.061)	-0.048 (0.067)	-0.046 (0.067)	-0.015 (0.072)	0.256 (0.188)
〔世帯金融資産(base:400～600万円)〕					
0～400万円	-0.147 (0.050) ***	-0.144 (0.052) ***	-0.103 (0.053) *	-0.104 (0.058) *	-0.123 (0.114)
600～1000万円	-0.018 (0.058)	-0.008 (0.059)	0.006 (0.059)	0.028 (0.064)	-0.033 (0.143)
1000万円以上	-0.041 (0.055)	-0.039 (0.058)	-0.034 (0.058)	0.003 (0.063)	-0.199 (0.158)
〔市区町村〕					
高齢者比率		-0.128 (0.423)	-0.134 (0.421)	-0.208 (0.476)	0.438 (1.011)
DID人口比率		-0.194 (0.065) ***	-0.130 (0.065) **	-0.165 (0.076) **	-0.201 (0.182)
両親・祖父母の信頼			0.383 (0.019) ***	0.371 (0.022) ***	0.286 (0.042) ***
定数項	3.553 (0.258) ***	3.703 (0.291) ***	2.851 (0.298) ***	3.157 (0.350) ***	7.525 (2.370) ***
Adj R ²	0.127	0.129	0.162	0.151	0.098
N	11263	10916	10120	7989	1715

注 1) (1) 列～(5) 列はすべて最小二乗法による推定結果。

注 2) () 内は、(1) 列は、不均一分散に頑健なロバスト標準誤差、(2) 列以降はグループ内（市区町村）の相関に頑健なクラスタロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10% の有意水準で有意であることを示す。

表 12. 推定結果1-2 (互酬性の意識)

被説明変数	(1) 互酬性の意識		(2) 互酬性の意識		(3) 互酬性の意識		(4) 互酬性の意識 (親と同居していないサンプル)		(5) 互酬性の意識 (親と同居していない40歳未満 のサンプル)	
女性ダミー	0.123	(0.025) ***	0.129	(0.024) ***	0.082	(0.026) ***	0.069	(0.030) **	0.112	(0.065) *
年齢	-0.004	(0.006)	-0.003	(0.007)	0.000	(0.007)	-0.005	(0.009)	-0.194	(0.104) *
年齢二乗	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)	0.003	(0.002) *
配偶者ありダミー	0.067	(0.035) *	0.071	(0.036) *	0.068	(0.039) *	0.035	(0.048)	0.082	(0.083)
離婚ダミー	0.021	(0.057)	0.028	(0.059)	0.046	(0.063)	0.000	(0.074)	-0.034	(0.231)
死別ダミー	0.003	(0.083)	0.004	(0.086)	0.068	(0.090)	0.032	(0.092)	0.660	(0.453)
子どもダミー	0.075	(0.030) **	0.067	(0.031) **	0.057	(0.032) *	0.054	(0.034)	0.112	(0.068)
持家ダミー	0.042	(0.026) *	0.039	(0.029)	0.054	(0.030) *	0.056	(0.034)	0.032	(0.061)
楽観主義	0.065	(0.005) ***	0.067	(0.006) ***	0.055	(0.006) ***	0.053	(0.007) ***	0.064	(0.014) ***
人間を越えた力への感謝	0.143	(0.013) ***	0.141	(0.014) ***	0.079	(0.015) ***	0.062	(0.016) ***	0.033	(0.035)
信心深さ	0.113	(0.011) ***	0.114	(0.012) ***	0.111	(0.012) ***	0.112	(0.014) ***	0.126	(0.032) ***
時間選好率	-0.099	(0.023) ***	-0.102	(0.024) ***	-0.119	(0.026) ***	-0.127	(0.028) ***	-0.125	(0.061) **
リスク態度	0.247	(0.031) ***	0.256	(0.030) ***	0.226	(0.030) ***	0.211	(0.035) ***	0.355	(0.084) ***
〔学歴 (base: 高卒)〕										
高卒未満ダミー	-0.019	(0.074)	-0.065	(0.078)	-0.002	(0.088)	0.076	(0.103)	0.048	(0.238)
専門学校卒ダミー	-0.062	(0.040)	-0.067	(0.041)	-0.045	(0.044)	-0.076	(0.051)	-0.112	(0.103)
短大・高専卒ダミー	-0.084	(0.038) **	-0.085	(0.038) **	-0.111	(0.039) ***	-0.126	(0.044) ***	0.078	(0.107)
大卒以上ダミー	-0.014	(0.025)	-0.008	(0.027)	-0.028	(0.028)	-0.039	(0.032)	0.076	(0.080)
〔就業形態 (base: 勤め人)〕										
就業なし (学生・主婦・主夫等)	-0.089	(0.026) ***	-0.088	(0.027) ***	-0.085	(0.028) ***	-0.058	(0.032) *	-0.075	(0.073)
自営業主	-0.056	(0.041)	-0.059	(0.043)	-0.062	(0.045)	-0.044	(0.054)	0.180	(0.211)
自由業者	-0.069	(0.068)	-0.073	(0.069)	-0.035	(0.073)	-0.034	(0.084)	0.571	(0.207) ***
家族従業者	0.110	(0.114)	0.113	(0.113)	0.174	(0.124)	0.305	(0.154) **	0.246	(0.296)
在宅就労・内職	-0.118	(0.100)	-0.162	(0.099)	-0.167	(0.108)	-0.169	(0.126)	-0.526	(0.364)
委託労働・請負	-0.101	(0.096)	-0.101	(0.101)	-0.047	(0.102)	-0.111	(0.108)	0.186	(0.334)
〔世帯年収 (base: 400~600万円)〕										
0~400万円	0.017	(0.028)	0.014	(0.028)	0.025	(0.029)	0.017	(0.033)	0.014	(0.076)
600~1000万円	0.017	(0.029)	0.018	(0.031)	0.027	(0.032)	0.015	(0.036)	-0.038	(0.075)
1000~1500万円以上	-0.060	(0.039)	-0.048	(0.038)	-0.064	(0.041)	-0.050	(0.045)	-0.218	(0.116) *
〔世帯金融資産 (base: 400~600万円)〕										
0~400万円	-0.051	(0.033)	-0.051	(0.032)	-0.019	(0.033)	-0.015	(0.037)	-0.038	(0.074)
600~1000万円	0.003	(0.039)	-0.001	(0.039)	0.020	(0.040)	0.015	(0.046)	0.151	(0.090) *
1000~1500万円以上	-0.017	(0.036)	-0.015	(0.036)	-0.029	(0.037)	-0.035	(0.042)	-0.084	(0.102)
〔市区町村〕										
高齢者比率			0.180	(0.281)	0.113	(0.294)	0.055	(0.323)	0.728	(0.728)
DID人口比率			-0.037	(0.043)	-0.010	(0.045)	-0.003	(0.051)	0.100	(0.118)
両親・祖父母の人助けの意識					0.292	(0.020) ***	0.276	(0.022) ***	0.329	(0.046) ***
人助けに関する家庭内経験					0.066	(0.014) ***	0.077	(0.015) ***	0.105	(0.034) ***
cut1	-0.591	(0.164) ***	-0.554	(0.201) ***	0.324	(0.218)	0.038	(0.259)	-2.204	(1.698)
cut2	-0.208	(0.164)	-0.172	(0.202)	0.760	(0.219) ***	0.483	(0.259) *	-1.802	(1.700)
cut3	1.055	(0.164) ***	1.097	(0.202) ***	2.045	(0.219) ***	1.768	(0.261) ***	-0.601	(1.701)
cut4	2.190	(0.165) ***	2.236	(0.203) ***	3.250	(0.221) ***	2.984	(0.263) ***	0.658	(1.696)
pseudo R-sq	0.033		0.034		0.045		0.041		0.068	
N	11263		10916		9801		7765		1651	

注 1) (1) 列~(5) 列はすべて順序プロビットによる推定結果。

注 2) () 内は、(1) 列は、不均一分散に頑健なロバスト標準誤差、(2) 列以降はグループ内 (市区町村) の相関に頑健なクラスタロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10% の有意水準で有意であることを示す。

注 3) 人助けに関する家庭内経験は、

「子供の頃、親や祖父母が人を助けるのをみて育った。」

「子供の頃、家庭内で人助けの大切さを学ぶ機会があった。」

に対する回答 (1.全く当てはまらない~5.よくあてはまる) の単純平均 (クロンバックの $\alpha=0.845$)。

② 地域資源の共有意識の形成要因

地域資源の共有意識についても同様に検討する。前述のとおり、アンケートにおいて両親・祖父母の地域資源の共有意識を詳細に把握することは難しい。このため、子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験を指標として、その継承可能性と意識の形成要因を分析する。子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験については、表 13 にある 3 つの設問の回答を単純平均した指標を用いている (クロンバックの $\alpha=0.899$)。

表 13. 子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験

問16	以下の質問では、あなた自身の経験について、当てはまるかどうかをお聞きます。
項目1	子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加する際に一緒に参加して育った。
項目2	子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加しているのを見て育った。
項目5	子供の頃、家庭内で地域活動に参加することの大切さを学ぶ機会があった。

基本的な説明変数はソーシャル・キャピタルの推定と同様であるが、前述のようにソーシャル・キャピタルは地域資源の共有意識の十分条件である可能性があり、ソーシャル・キャピタルが高い人は地域資源の共有意識も高くなるという関係が考えられる。この点を考慮するため、推定においては、他人への信頼、互酬性の意識を説明変数に加えて、以下の推定を行った。

・被説明変数：地域資源の共有意識（表 14（推定結果 1-3））

- (1) 列 通常の回帰分析
- (2) 列 居住地域の市町村特性を考慮
- (3) 列 子どもの頃の地域活動経験
- (4) 列 親と非同居サンプルに限定
- (5) 列 40 歳未満で親と非同居サンプルに限定

推定結果をみると、追加した他人への信頼、互酬性の意識は有意にプラスとなることから、ソーシャル・キャピタルが地域資源の共有意識を高めているという仮説と整合的な結果となっている。また、(3)列以降で考慮している子どもの頃の地域活動経験は有意にプラスであり、親や祖父母との地域活動への共同参加や地域活動に対する親や両親の積極的参加、地域活動の重要性に関する教育が、本人の地域活動の共有意識を高めていることが分かる。

他の変数についてみると、楽観主義などはソーシャル・キャピタルと同様に有意にプラスとなった。ソーシャル・キャピタルと異なるのは、子どもダミーや持家ダミーの結果があまり安定的ではなかったのに比べて、どちらも安定的に有意にプラスとなる点である。地域資源の共有意識となると地域との関わりがその形成に影響を与えと考えられることから、子どもがいる、持ち家を持っているといった地域とのつながりの強さにつながる要素は、地域資源の共有意識を高める要因となることを示していると考えられる。

以上の結果は、ソーシャル・キャピタルが親から子へと継承されること、地域資源の共有意識も子どもの頃の経験に影響を受けることを示している。特に、地域資源の共有意識は、ソーシャル・キャピタルの継承や子どもの頃における地域活動に関する親や祖父母からの影響により、影響を受けると考えることができる。

表 14. 推定結果1-3（地域資源の共有意識）

被説明変数	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)	
	地域資源の共有意識		地域資源の共有意識		地域資源の共有意識		地域資源の共有意識		地域資源の共有意識	
							(親と同居していないサンプル)		(親と同居していない40歳未満のサンプル)	
女性ダミー	-0.011	(0.015)	-0.007	(0.015)	-0.016	(0.015)	-0.031	(0.018) *	0.002	(0.038)
年齢	-0.036	(0.004) ***	-0.036	(0.004) ***	-0.035	(0.004) ***	-0.038	(0.005) ***	-0.008	(0.058)
年齢二乗	0.000	(0.000) ***	0.000	(0.000) ***	0.000	(0.000) ***	0.000	(0.000) ***	0.000	(0.001)
配偶者ありダミー	0.017	(0.021)	0.022	(0.021)	0.022	(0.020)	0.041	(0.028)	-0.056	(0.051)
離婚ダミー	0.004	(0.033)	0.002	(0.033)	0.002	(0.032)	0.038	(0.039)	0.178	(0.116)
死別ダミー	-0.019	(0.047)	-0.010	(0.046)	-0.021	(0.046)	-0.008	(0.051)	-0.277	(0.333)
子どもダミー	0.085	(0.018) ***	0.081	(0.018) ***	0.077	(0.018) ***	0.063	(0.019) ***	0.111	(0.040) ***
持家ダミー	0.051	(0.015) ***	0.045	(0.016) ***	0.047	(0.016) ***	0.050	(0.019) ***	0.080	(0.037) **
楽観主義	0.034	(0.003) ***	0.035	(0.004) ***	0.030	(0.003) ***	0.032	(0.004) ***	0.034	(0.008) ***
人間を越えた力への感謝	0.086	(0.008) ***	0.087	(0.008) ***	0.078	(0.008) ***	0.072	(0.009) ***	0.076	(0.021) ***
信心深さ	0.054	(0.007) ***	0.054	(0.007) ***	0.043	(0.007) ***	0.042	(0.007) ***	0.052	(0.018) ***
時間選好率	0.015	(0.014)	0.017	(0.014)	0.016	(0.014)	0.011	(0.015)	0.088	(0.032) ***
リスク態度	0.205	(0.019) ***	0.202	(0.019) ***	0.197	(0.019) ***	0.200	(0.021) ***	0.403	(0.046) ***
他人への信頼	0.076	(0.005) ***	0.075	(0.005) ***	0.072	(0.005) ***	0.077	(0.005) ***	0.071	(0.013) ***
互酬性の意識	0.206	(0.008) ***	0.206	(0.008) ***	0.198	(0.008) ***	0.189	(0.010) ***	0.218	(0.022) ***
〔学歴(base:高卒)〕										
高卒未満ダミー	0.025	(0.049)	0.005	(0.050)	0.017	(0.050)	0.046	(0.060)	-0.043	(0.120)
専門学校卒ダミー	0.027	(0.023)	0.022	(0.023)	0.010	(0.023)	0.009	(0.026)	0.070	(0.055)
短大・高専卒ダミー	0.024	(0.023)	0.022	(0.023)	0.008	(0.023)	0.001	(0.026)	0.027	(0.065)
大卒以上ダミー	0.032	(0.015) **	0.032	(0.016) **	0.023	(0.016)	0.025	(0.018)	0.062	(0.045)
〔就業形態(base:勤め人)〕										
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.033	(0.016) **	-0.032	(0.016) **	-0.033	(0.016) **	-0.018	(0.018)	0.017	(0.040)
自営業主	0.026	(0.025)	0.029	(0.024)	0.023	(0.024)	0.025	(0.028)	0.057	(0.126)
自由業者	-0.057	(0.037)	-0.057	(0.038)	-0.042	(0.038)	-0.031	(0.045)	0.036	(0.121)
家族従業者	0.073	(0.063)	0.056	(0.063)	0.045	(0.063)	0.025	(0.075)	0.094	(0.117)
在宅労働・内職	-0.049	(0.056)	-0.061	(0.060)	-0.061	(0.058)	-0.156	(0.066) **	-0.084	(0.166)
委託労働・請負	-0.169	(0.063) ***	-0.161	(0.060) ***	-0.159	(0.060) ***	-0.168	(0.069) **	-0.497	(0.210) **
〔世帯年収(base:400～600万円)〕										
0～400万円	-0.057	(0.017) ***	-0.055	(0.016) ***	-0.047	(0.016) ***	-0.048	(0.019) **	-0.047	(0.040)
600～1000万円	-0.001	(0.017)	0.002	(0.017)	0.002	(0.017)	0.005	(0.018)	0.022	(0.040)
1000万円以上	-0.029	(0.024)	-0.023	(0.024)	-0.025	(0.024)	-0.021	(0.027)	-0.135	(0.071) *
〔世帯金融資産(base:400～600万円)〕										
0～400万円	-0.028	(0.020)	-0.029	(0.021)	-0.027	(0.020)	-0.020	(0.022)	-0.016	(0.046)
600～1000万円	-0.009	(0.023)	-0.005	(0.022)	-0.001	(0.022)	-0.014	(0.024)	-0.068	(0.052)
1000万円以上	0.007	(0.021)	0.007	(0.021)	0.009	(0.021)	0.007	(0.023)	0.071	(0.058)
〔市区町村〕										
高齢者比率			0.274	(0.159) *	0.262	(0.158) *	0.224	(0.178)	0.027	(0.438)
DID人口比率			-0.008	(0.025)	0.013	(0.025)	0.006	(0.029)	-0.018	(0.067)
子どもの頃の地域活動経験					0.098	(0.007) ***	0.094	(0.008) ***	0.077	(0.020) ***
定数項	2.308	(0.100) ***	2.229	(0.113) ***	2.064	(0.114) ***	2.155	(0.141) ***	1.466	(0.956)
Adj R ²	0.296		0.296		0.310		0.302		0.296	
N	11263		10916		10916		8581		1883	

注 1) (1) 列～(5) 列はすべて最小二乗法による推定結果。

注 1) () 内は、(1) 列は、不均一分散に頑健なロバスト標準誤差、(2) 列以降はグループ内（市区町村）の相関に頑健なクラスタロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

③ 追加調査を用いた検証

以上の分析は、回答者本人から見た両親や祖父母の評価を基にしている。しかし、回答者本人の考え方によってバイアスがかかっている可能性があり、必ずしも両親や祖父母本人の意識とは異なるかもしれない。この点に対処するために、アンケート回答者の両親に対して実施した追加調査の結果を用いた分析を行った。

この追加調査は、京都大学経済研究所先端政策分析研究センター「エビデンス・ベース社会の構築に向けた人文社会科学の学際融合事業」により実施したものであり、28 年度アンケート回答者に、両親に協力してもらうことの可否を質問し、可と回答した回答者に両親のメールアドレスを紹介してもらい、そのメールアドレス宛にアンケート回答画面の URL を送付し、回答してもらうという形式をとっている。

得られた回答は、父親 378 サンプル、母親 592 サンプル（うち、父親と母親の両方から回答が得られたサンプルは 302 サンプル）であり、サンプル数は多くないものの、両親本人の回答であ

ることから、上述の課題には対応した分析が可能と考えられる。この追加調査では、他人への信頼、互酬性の意識については、28年度アンケートにおける質問と同一のものを利用しており、これらの質問に対する回答を用いることで、両親の意識と本人の意識との関係を分析することができる。

推定結果（表 15（推定結果 2-1））をみると、父親の信頼、母親の信頼をそれぞれ入れた(1)列、(2)列では、有意な結果が得られている。両方を入れた(3)列では、父親の信頼については有意な結果となっていないが、これまでの結果とほぼ整合的な結果となっており、両親の信頼の意識が子どもの信頼の意識と関連していることが分かる。また、互酬性の意識についても同様の結果となった（表 16（推定結果 2-2））。

この結果は、ソーシャル・キャピタルの親子間での継承可能性をサポートするものであり、本プロジェクトにおけるアンケート調査の結果を用いた分析結果の妥当性をサポートする結果と考えられる。

表 15. 推定結果2-1（他人への信頼）

被説明変数	(1) 他人への信頼	(2) 他人への信頼	(3) 他人への信頼
女性ダミー	-0.024 (0.266)	-0.021 (0.186)	0.022 (0.289)
年齢	-0.017 (0.082)	-0.018 (0.053)	0.054 (0.088)
年齢二乗	0.000 (0.001)	0.000 (0.001)	0.000 (0.001)
配偶者ありダミー	-0.117 (0.451)	-0.274 (0.311)	-0.345 (0.487)
離婚ダミー	0.498 (0.698)	0.211 (0.506)	0.393 (0.805)
死別ダミー	-0.729 (1.063)	-1.480 (0.797) *	-1.670 (1.312)
子どもダミー	0.319 (0.389)	0.152 (0.264)	0.427 (0.401)
持家ダミー	-0.212 (0.252)	-0.378 (0.195) *	-0.411 (0.308)
楽観主義	0.133 (0.057) **	0.182 (0.042) ***	0.151 (0.061) **
人間を越えた力への感謝	0.167 (0.131)	0.167 (0.092) *	0.235 (0.151)
信心深さ	0.120 (0.107)	0.172 (0.079) **	0.172 (0.123)
時間選好率	0.225 (0.211)	-0.018 (0.157)	0.192 (0.239)
リスク態度	0.128 (0.298)	0.110 (0.193)	0.359 (0.319)
〔学歴(base: 高卒)〕			
高卒未満ダミー	0.063 (0.991)	0.400 (0.585)	0.657 (0.962)
専門学校卒ダミー	0.375 (0.365)	-0.153 (0.313)	0.203 (0.476)
短大・高専卒ダミー	0.300 (0.417)	0.293 (0.333)	0.098 (0.533)
大卒以上ダミー	0.121 (0.289)	0.128 (0.213)	-0.039 (0.343)
〔就業形態(base: 勤め人)〕			
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.011 (0.289)	-0.071 (0.197)	0.013 (0.323)
自営業主	-0.012 (0.686)	0.009 (0.354)	-0.037 (0.792)
自由業者	-2.415 (0.762) ***	-2.341 (0.634) ***	-1.956 (0.816) **
家族従業者	0.089 (0.640)	0.010 (0.542)	0.040 (0.737)
在宅就労・内職	-0.559 (0.704)	-0.955 (0.604)	0.034 (0.482)
委託労働・請負	0.072 (0.508)	-0.031 (1.153)	0.466 (0.533)
〔世帯年収(base: 400～600万円)〕			
0～400万円	-0.317 (0.309)	-0.464 (0.244) *	-0.702 (0.355) **
600～1000万円	0.349 (0.336)	0.194 (0.235)	0.399 (0.371)
1000万円以上	0.011 (0.378)	0.249 (0.270)	0.081 (0.414)
〔世帯金融資産(base: 400～600万円)〕			
0～400万円	0.020 (0.287)	0.280 (0.211)	0.291 (0.328)
600～1000万円	0.029 (0.319)	0.004 (0.228)	0.045 (0.351)
1000万円以上	-0.317 (0.293)	-0.257 (0.209)	-0.312 (0.344)
〔市区町村〕			
高齢者比率	-2.325 (3.130)	0.881 (2.098)	1.059 (3.658)
DID人口比率	-0.438 (0.460)	-0.125 (0.327)	0.118 (0.536)
父親の信頼(実際)	0.133 (0.054) **		0.030 (0.080)
母親の信頼(実際)		0.189 (0.042) ***	0.162 (0.080) **
定数項	3.599 (2.358)	2.448 (1.454) *	0.114 (2.507)
Adj R ²	0.120	0.180	0.177
N	334	526	264

注 1) (1) 列～(3) 列はすべて最小二乗法による推定結果。

注 2) () 内は、グループ内(市区町村)の相関に頑健なクラストロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

表 16. 推定結果2-2 (互酬性の意識)

被説明変数	(1) 互酬性の意識	(2) 互酬性の意識	(3) 互酬性の意識
女性ダミー	-0.124 (0.153)	-0.112 (0.111)	-0.291 (0.166) *
年齢	0.088 (0.051) *	0.052 (0.037)	0.102 (0.056) *
年齢二乗	-0.001 (0.001) *	-0.001 (0.000)	-0.001 (0.001) *
配偶者ありダミー	0.171 (0.233)	-0.107 (0.191)	0.236 (0.262)
離婚ダミー	0.320 (0.402)	0.196 (0.353)	0.479 (0.395)
死別ダミー	-0.193 (0.363)	-0.432 (0.437)	-0.262 (0.411)
子どもダミー	0.181 (0.211)	0.391 (0.173) **	0.159 (0.239)
持家ダミー	-0.180 (0.143)	-0.192 (0.120)	-0.112 (0.163)
楽観主義	0.117 (0.035) ***	0.102 (0.026) ***	0.121 (0.040) ***
人間を越えた力への感謝	0.110 (0.087)	0.109 (0.061) *	0.139 (0.095)
信心深さ	0.298 (0.072) ***	0.230 (0.053) ***	0.308 (0.072) ***
時間選好率	0.275 (0.133) **	-0.047 (0.101)	0.147 (0.144)
リスク態度	0.270 (0.200)	0.170 (0.130)	0.138 (0.230)
〔学歴 (base: 高卒)〕			
高卒未満ダミー	0.594 (0.456)	0.371 (0.366)	1.048 (0.472) **
専門学校卒ダミー	0.288 (0.258)	-0.262 (0.213)	0.213 (0.304)
短大・高専卒ダミー	0.134 (0.256)	-0.079 (0.198)	0.124 (0.306)
大卒以上ダミー	0.138 (0.196)	-0.228 (0.130) *	0.062 (0.212)
〔就業形態 (base: 勤め人)〕			
就業なし (学生・主婦・主夫等)	0.037 (0.157)	-0.126 (0.126)	0.059 (0.178)
自営業主	0.496 (0.435)	0.046 (0.221)	0.183 (0.474)
自由業者	-0.707 (0.506)	-0.476 (0.373)	-0.640 (0.509)
家族従業者	0.649 (0.223) ***	0.353 (0.358)	0.589 (0.273) **
在宅就労・内職	-0.420 (0.458)	0.205 (0.454)	-0.154 (0.448)
委託労働・請負	0.751 (0.322) **	0.911 (0.560)	1.000 (0.357) ***
〔世帯年収 (base: 400～600万円)〕			
0～400万円	-0.017 (0.180)	-0.032 (0.148)	-0.068 (0.205)
600～1000万円	0.008 (0.191)	0.054 (0.143)	0.091 (0.208)
1000万円以上	-0.145 (0.212)	0.078 (0.162)	-0.120 (0.241)
〔世帯金融資産 (base: 400～600万円)〕			
0～400万円	-0.180 (0.166)	0.080 (0.136)	-0.178 (0.198)
600～1000万円	0.054 (0.191)	0.283 (0.151) *	0.189 (0.209)
1000万円以上	0.098 (0.185)	0.185 (0.143)	0.144 (0.211)
〔市区町村〕			
高齢者比率	3.485 (1.794) *	1.136 (1.409)	5.043 (2.175) **
DID人口比率	-0.194 (0.269)	-0.250 (0.209)	-0.026 (0.333)
父親の人助けの意識(実際)	0.142 (0.073) *		-0.047 (0.101)
母親の人助けの意識(実際)		0.166 (0.054) ***	0.262 (0.095) ***
cut1	3.169 (1.333) **	1.321 (1.006)	4.306 (1.564) ***
cut2	3.653 (1.326) ***	1.718 (1.000) *	4.848 (1.549) ***
cut3	4.937 (1.336) ***	3.053 (1.001) ***	6.218 (1.556) ***
cut4	6.200 (1.346) ***	4.255 (1.003) ***	7.514 (1.567) ***
pseudo R ²	0.125	0.100	0.158
N	334	526	264

注 1) (1) 列～(3) 列はすべて順序プロビットによる推定結果。

注 2) () 内は、グループ内 (市区町村) の相関に頑健なクラストロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

④ 頑健性の確認

ここでは、これまでの分析において考慮した要因以外の様々な要因を考慮した分析を行い、結果の頑健性を確認する。

a) 親の属性の考慮

これまでの推定結果を踏まえると、学歴や就業上の地位は信頼や互酬性の意識と関連をもつ。特に教育については、教育水準の高さがソーシャル・キャピタルの高さに影響を与えているとすると、教育水準の高い親の子供は一般的に教育水準が高くなることから、教育という経路を通じて親と子でのソーシャル・キャピタルの相関につながっている可能性も考えられる。そこで、親の属性を考慮した推定を行った (表 17 (推定結果 3))。

表 17. 推定結果3（両親の様々な属性を考慮した場合の頑健性の確認）

被説明変数	(1) 他人への信頼	(2) 互酬性の意識	(3) 地域資源の共有意識
女性ダミー	-0.082 (0.039) **	0.074 (0.022) ***	-0.027 (0.015) *
年齢	-0.002 (0.011)	-0.003 (0.006)	-0.035 (0.004) ***
年齢二乗	0.000 (0.000)	0.000 (0.000)	0.000 (0.000) ***
配偶者ありダミー	0.078 (0.060)	0.050 (0.033)	0.002 (0.021)
離婚ダミー	-0.041 (0.089)	0.044 (0.054)	-0.024 (0.033)
死別ダミー	-0.060 (0.133)	0.045 (0.074)	-0.039 (0.046)
子どもダミー	0.111 (0.049) **	0.055 (0.027) **	0.081 (0.019) ***
持家ダミー	0.031 (0.044)	0.046 (0.026) *	0.048 (0.016) ***
楽観主義	0.131 (0.010) ***	0.048 (0.005) ***	0.031 (0.003) ***
人間を越えた力への感謝	0.093 (0.022) ***	0.075 (0.013) ***	0.079 (0.008) ***
信心深さ	0.049 (0.019) ***	0.097 (0.011) ***	0.045 (0.007) ***
時間選好率	-0.062 (0.040)	-0.091 (0.022) ***	0.011 (0.014)
リスク態度	0.036 (0.049)	0.169 (0.026) ***	0.174 (0.020) ***
両親・祖父母の信頼	0.395 (0.020) ***		
両親・祖父母の人助けの意識		0.238 (0.018) ***	
人助けに関する家庭内経験		0.055 (0.012) ***	
他人への信頼			0.071 (0.005) ***
互酬性の意識			0.195 (0.008) ***
子どもの頃の地域活動経験			0.103 (0.008) ***
〔学歴(base: 高卒)〕			
高卒未満ダミー	-0.226 (0.138)	-0.011 (0.076)	0.015 (0.051)
専門学校卒ダミー	0.023 (0.065)	-0.023 (0.038)	0.015 (0.024)
短大・高専卒ダミー	-0.014 (0.060)	-0.064 (0.034) *	0.016 (0.024)
大卒以上ダミー	0.085 (0.045) *	-0.002 (0.026)	0.017 (0.017)
〔就業形態(base: 勤め人)〕			
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.021 (0.045)	-0.084 (0.025) ***	-0.027 (0.016) *
自営業主	-0.128 (0.072) *	-0.033 (0.039)	0.023 (0.025)
自由業者	-0.130 (0.120)	-0.032 (0.063)	-0.042 (0.039)
家族従業者	0.177 (0.158)	0.144 (0.105)	0.056 (0.062)
在宅就労・内職	-0.357 (0.190) *	-0.191 (0.090) **	-0.064 (0.061)
委託労働・請負	0.099 (0.177)	-0.043 (0.085)	-0.085 (0.053)
〔世帯年収(base: 400～600万円)〕			
0～400万円	-0.054 (0.044)	0.015 (0.025)	-0.053 (0.017) ***
600～1000万円	0.088 (0.047) *	0.010 (0.027)	0.009 (0.017)
1000万円以上	-0.040 (0.069)	-0.041 (0.035)	-0.026 (0.024)
〔世帯金融資産(base: 400～600万円)〕			
0～400万円	-0.090 (0.055)	-0.022 (0.028)	-0.026 (0.021)
600～1000万円	0.027 (0.062)	0.008 (0.034)	-0.007 (0.022)
1000万円以上	-0.020 (0.058)	-0.025 (0.031)	-0.002 (0.021)
〔市区町村〕			
高齢者比率	0.072 (0.431)	0.050 (0.263)	0.367 (0.164) **
DID人口比率	-0.131 (0.068) *	-0.004 (0.039)	0.030 (0.027)
〔父親の属性〕			
年齢	0.001 (0.004)	0.000 (0.002)	0.001 (0.002)
高卒未満ダミー	-0.014 (0.044)	-0.002 (0.027)	0.004 (0.018)
専門学校卒ダミー	-0.053 (0.116)	-0.013 (0.063)	-0.005 (0.047)
短大・高専卒ダミー	-0.142 (0.106)	-0.053 (0.058)	0.071 (0.042) *
大卒以上ダミー	-0.042 (0.048)	0.013 (0.026)	0.019 (0.018)
就業なし	0.126 (0.060) **	0.074 (0.035) **	0.040 (0.025)
自営業主	-0.023 (0.045)	0.013 (0.027)	-0.037 (0.018) **
自由業者	-0.074 (0.121)	-0.107 (0.079)	0.000 (0.053)
家族従業者	-0.066 (0.146)	0.154 (0.073) **	0.015 (0.051)
在宅就労・内職	0.066 (0.214)	0.092 (0.108)	0.074 (0.076)
委託労働・請負	0.114 (0.183)	0.103 (0.116)	0.007 (0.059)
〔母親の属性〕			
年齢	0.002 (0.004)	0.005 (0.002) *	0.000 (0.002)
高卒未満ダミー	0.011 (0.048)	0.038 (0.026)	0.032 (0.017) *
専門学校卒ダミー	0.006 (0.081)	-0.059 (0.051)	0.048 (0.032)
短大・高専卒ダミー	0.089 (0.066)	-0.004 (0.041)	0.019 (0.026)
大卒以上ダミー	-0.049 (0.071)	-0.022 (0.039)	0.089 (0.029) ***
就業なし	0.018 (0.040)	-0.061 (0.021) ***	-0.028 (0.015) *
自営業主	0.064 (0.072)	-0.026 (0.039)	0.031 (0.027)
自由業者	-0.165 (0.278)	0.046 (0.144)	0.112 (0.095)
家族従業者	0.066 (0.082)	-0.080 (0.045) *	0.036 (0.030)
在宅就労・内職	0.053 (0.108)	-0.031 (0.063)	0.015 (0.042)
委託労働・請負	-0.163 (0.214)	0.046 (0.101)	-0.129 (0.068) *
定数項	2.542 (0.323) ***	1.571 (0.201) ***	1.977 (0.126) ***
Adj R ²	0.165	0.115	0.316
N	9404	9100	10112

注 1) (1)列～(3)列はすべて最小二乗法による推定結果。

注 2) () 内は、グループ内(市区町村)の相関に頑健なクラストロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

注 3) サンプルの中には父親や母親の年齢が本人の年齢との関係で整合的ではないサンプルが存在したため、ここでは、こうしたサンプルは対象から除外している。

ここで考慮している変数は、父親・母親の年齢、学歴、就業状況である。推定結果をみると、これらの変数を加えても主要な結果には変化はみられない。また、追加したほとんどの変数は有意な結果にならない。このことは、両親のソーシャル・キャピタルそのものが子どものソーシャル・キャピタルに影響を与えている可能性を示している。

b) 居住地の移動、地域環境からの影響

前述の分析では、回答者の居住する市区町村の高齢者比率、DID 人口比率（都市化の程度）を考慮しているが、実際に回答者が居住している地域の詳細な状況や環境は考慮できていない。他人への信頼、互酬性の意識、地域資源の共有意識といったものは、両親・祖父母といった家庭内からの影響だけではなく、その地域に住んでいる周囲の人々が受け継いでいる文化や風土といったものが影響している可能性もある。また、地域資源の共有意識は、その地域に長く住んでいることで、地域への愛着が深まり、より強い共有意識を持つようになる可能性が考えられる。一方で、生まれ育った地域から離れ、新しい土地で生活を送るようになると居住する地域とのつながりが薄まり、地域資源の共有意識が低下してしまう可能性も考えられる。

こうした点を考慮するため、居住地の移動や現住地での居住年数、さらに居住している地域の近隣の状況や環境を考慮した推定を行うことで、これまでの分析結果の頑健性をチェックする。地域の近隣の状況については、29 年度アンケートにおいて用いた以下の設問の回答を用いる（表 18）。この設問は、回答者に対して居住している地域全体のソーシャル・キャピタルの状況を問うものである。このため、回答者の主観により影響される可能性もあるものの、この設問を用いることで、回答者の地域のソーシャル・キャピタルの状況がある程度考慮することができると考えられる。この設問は「1: 当てはまる」「2: どちらとも言えない」「3: 当てはまらない」「4: わからない」という 4 つの選択肢から回答するものとなっており、「1: 当てはまる」の場合を 1 とするダミー変数を作成して分析に用いる。

地域の環境については、29 年度アンケートにおいて質問した地域環境への不満に対する質問（問 1）から「活気賑わいのなさ」「空き地や空き家の多さ」という 2 項目に関する回答を変数として考慮している。この質問は、「1: 非常に不満」から「5: 不満はない」の 5 段階で回答するものとなっており、数値が大きいほど不満がないことになる。

表 18. 居住している地域の近隣の状況に関する質問項目

問3. あなたが居住している地域についてお聞きます。以下の項目に当てはまるかどうかお答えください。

- 項目1 地元の小学校でのイベント(運動会等)の案内が回ってくる
- 項目2 地元の自治会や町内会等のイベント(盆踊り等)の案内が回ってくる
- 項目3 市役所や役場からの広報やお知らせが回ってくる
- 項目4 地域での行事や活動に熱心な人がいる、もしくは団体がある
- 項目5 多様な世代の人が集まる場(公民館や集会所など)があり、実際に多様な世代の人が集まっている
- 項目6 新しく引っ越してきた人も地域に馴染んでいる
- 項目7 新しく引っ越してきた人に対しては警戒心を持っている
- 項目8 地域としての連帯感がある
- 項目9 古くから行われている地域のお祭りや伝統行事がある
- 項目10 暗くなってからでも安心して一人で出歩くことができる

まず、他人への信頼と互酬性の意識について検証を行う（表 19（推定結果 4-1）、表 20（推定結果 4-2））。

- (1) 列 回答者が 15 歳までの居住地と異なる所に住んでいる場合のダミーを追加
- (2) 列 現在の居住地の居住年数を考慮
- (3) 列 地域の状況に対する回答を考慮
- (4) 列 地域環境に対する不満を考慮

他人への信頼についての結果をみると、15歳頃までの居住地域が異なるかどうかに関わらず、両親・祖父母の信頼は有意なままであり、親からの継承が頑健性のあるものであることを示している。これは、信頼の形成が子どもの頃にある程度決定していることをサポートする結果と言える。また、異なるところに住んでいること、居住年数については有意な結果になっておらず、地域への定住が他人への信頼には影響していない。地域からの影響についてみると、「地元自治会のイベントの案内がくる」「地域としての連帯感がある」「暗くなってからでも一人で出歩ける」については有意にプラス、「引っ越してきた人に対する警戒心がある」については有意にマイナスとなっている。これらの変数は地域内のソーシャル・キャピタルの状況をあらわすものであり、「地元自治会のイベントの案内がくる」「地域としての連帯感がある」といった変数がプラスの影響を与えることは個人のソーシャル・キャピタルが地域のソーシャル・キャピタルからの影響を受けている可能性を示している。

互酬性の意識についての結果を見ると、信頼の場合と同じような傾向がみられるが、15歳頃までの居住地と異なる所に住んでいることが、互酬性の意識の高さにはマイナスの影響を与えるという結果となっている。地域からの影響については、「多様な世代が集まる場がある」「地域としての連帯感がある」の二つの項目が有意にプラスとなっており、これも地域のソーシャル・キャピタルの高さが個人の互酬性の意識の高さに影響を与えている可能性を示していると考えられる。

表 19. 推定結果4-1 (他人への信頼)

	(1)		(2)		(3)		(4)	
女性ダミー	-0.096	(0.036) ***	-0.063	(0.044)	-0.086	(0.054)	-0.081	(0.054)
年齢	-0.001	(0.010)	-0.003	(0.013)	0.000	(0.015)	0.001	(0.015)
年齢二乗	0.000	(0.000) *	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)
配偶者ありダミー	0.101	(0.057) *	0.083	(0.072)	0.128	(0.088)	0.131	(0.087)
離婚ダミー	-0.007	(0.086)	-0.043	(0.107)	-0.023	(0.130)	-0.019	(0.130)
死別ダミー	-0.023	(0.131)	-0.216	(0.166)	-0.130	(0.187)	-0.127	(0.187)
子どもダミー	0.092	(0.047) *	0.120	(0.060) **	0.072	(0.072)	0.068	(0.072)
持家ダミー	0.051	(0.044)	0.047	(0.055)	-0.013	(0.064)	-0.014	(0.064)
楽観主義	0.128	(0.010) ***	0.129	(0.011) ***	0.091	(0.014) ***	0.089	(0.014) ***
人間を越えた力への感謝	0.092	(0.022) ***	0.133	(0.026) ***	0.156	(0.031) ***	0.149	(0.031) ***
信心深さ	0.043	(0.018) **	0.045	(0.023) *	0.042	(0.028)	0.045	(0.028)
時間選好率	-0.055	(0.039)	-0.062	(0.048)	-0.047	(0.053)	-0.051	(0.053)
リスク態度	0.036	(0.049)	0.030	(0.061)	0.087	(0.069)	0.102	(0.070)
〔学歴(base: 高卒)〕								
高卒未満ダミー	-0.253	(0.134) *	-0.350	(0.162) **	-0.490	(0.176) ***	-0.496	(0.176) ***
専門学校卒ダミー	0.015	(0.062)	-0.066	(0.075)	-0.060	(0.092)	-0.054	(0.091)
短大・高専卒ダミー	0.002	(0.057)	-0.069	(0.069)	-0.096	(0.076)	-0.102	(0.076)
大卒以上ダミー	0.075	(0.042) *	0.037	(0.049)	-0.012	(0.055)	-0.011	(0.056)
〔就業形態(base: 勤め人)〕								
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.018	(0.043)	-0.058	(0.054)	-0.045	(0.061)	-0.053	(0.061)
自営業主	-0.119	(0.068) *	-0.216	(0.081) ***	-0.207	(0.092) **	-0.198	(0.091) **
自由業者	-0.153	(0.112)	-0.229	(0.142)	-0.127	(0.170)	-0.136	(0.169)
家族従業者	0.205	(0.155)	0.280	(0.180)	0.304	(0.205)	0.285	(0.207)
在宅就労・内職	-0.309	(0.172) *	-0.295	(0.212)	-0.303	(0.264)	-0.330	(0.265)
委託労働・請負	0.099	(0.177)	0.016	(0.223)	-0.265	(0.286)	-0.264	(0.288)
〔世帯年収(base: 400～600万円)〕								
0～400万円	-0.051	(0.043)	-0.047	(0.052)	-0.040	(0.059)	-0.039	(0.059)
600～1000万円	0.074	(0.046)	0.031	(0.056)	0.034	(0.064)	0.033	(0.064)
1000万円以上	-0.046	(0.067)	-0.042	(0.077)	-0.096	(0.089)	-0.098	(0.089)
〔世帯金融資産(base: 400～600万円)〕								
0～400万円	-0.103	(0.053) *	-0.072	(0.063)	-0.097	(0.073)	-0.104	(0.073)
600～1000万円	0.006	(0.059)	0.039	(0.072)	0.040	(0.083)	0.034	(0.083)
1000万円以上	-0.033	(0.058)	0.004	(0.068)	-0.022	(0.080)	-0.026	(0.079)
〔市区町村〕								
高齢者比率	-0.112	(0.422)	-0.651	(0.501)	-0.594	(0.612)	-0.275	(0.622)
DID人口比率	-0.131	(0.065) **	-0.118	(0.078)	-0.093	(0.090)	-0.124	(0.091)
両親・祖父母の信頼	0.383	(0.019) ***	0.366	(0.024) ***	0.328	(0.028) ***	0.327	(0.028) ***
15歳の頃までと異なる市区町村に居住	0.019	(0.035)	-0.020	(0.046)	-0.003	(0.051)	-0.015	(0.051)
現居住地での居住年数			-0.005	(0.015)	-0.007	(0.018)	-0.008	(0.018)
〔地域の状況〕								
地元小学校でのイベントの案内がくる					-0.060	(0.058)	-0.055	(0.058)
地元自治会のイベントの案内がくる					0.157	(0.073) **	0.157	(0.073) **
役場からの広報がくる					0.020	(0.066)	0.016	(0.066)
地域活動に熱心な人・団体がいる					0.005	(0.063)	0.005	(0.063)
多様な世代が集まる場がある					0.082	(0.065)	0.076	(0.065)
引っ越してきた人が地域に馴染んでいる					0.087	(0.061)	0.067	(0.062)
引っ越してきた人に対する警戒心がある					-0.573	(0.080) ***	-0.562	(0.080) ***
地域としての連帯感がある					0.305	(0.066) ***	0.298	(0.066) ***
古くからのお祭りや伝統行事がある					-0.068	(0.056)	-0.067	(0.056)
暗くなってからでも一人で出歩ける					0.289	(0.052) ***	0.269	(0.052) ***
〔地域環境への不満〕								
活気や賑わいのなさ							0.052	(0.033)
空き地や空き家の多さ							0.039	(0.032)
定数項	2.839	(0.299) ***	2.951	(0.379) ***	3.162	(0.465) ***	2.830	(0.469) ***
Adj R ²	0.162		0.167		0.185		0.186	
N	10120		6707		4888		4888	

注 1) (1) 列～(4) 列はすべて最小二乗法による推定結果。

注 2) () 内は、グループ内(市区町村)の相関に頑健なクラストロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

表 20. 推定結果4-2 (互酬性の意識)

	(1)	(2)	(3)	(4)
女性ダミー	0.086 (0.026) ***	0.085 (0.033) **	0.072 (0.039) *	0.073 (0.039) *
年齢	0.000 (0.007)	-0.001 (0.009)	-0.008 (0.010)	-0.008 (0.011)
年齢二乗	0.000 (0.000)	0.000 (0.000)	0.000 (0.000)	0.000 (0.000)
配偶者ありダミー	0.088 (0.039) **	0.141 (0.051) ***	0.160 (0.063) **	0.159 (0.063) **
離婚ダミー	0.053 (0.063)	0.179 (0.079) **	0.129 (0.098)	0.128 (0.098)
死別ダミー	0.084 (0.090)	0.122 (0.115)	0.187 (0.127)	0.186 (0.126)
子どもダミー	0.057 (0.032) *	0.011 (0.042)	0.007 (0.051)	0.007 (0.051)
持家ダミー	0.034 (0.031)	0.000 (0.038)	-0.034 (0.043)	-0.034 (0.043)
楽観主義	0.056 (0.006) ***	0.062 (0.008) ***	0.046 (0.009) ***	0.046 (0.009) ***
人間を越えた力への感謝	0.081 (0.015) ***	0.080 (0.018) ***	0.077 (0.022) ***	0.078 (0.022) ***
信心深さ	0.109 (0.012) ***	0.090 (0.015) ***	0.079 (0.018) ***	0.079 (0.018) ***
時間選好率	-0.119 (0.026) ***	-0.120 (0.031) ***	-0.136 (0.037) ***	-0.135 (0.037) ***
リスク態度	0.221 (0.030) ***	0.221 (0.040) ***	0.249 (0.045) ***	0.249 (0.045) ***
〔学歴(base: 高卒)〕				
高卒未満ダミー	-0.011 (0.088)	-0.066 (0.120)	-0.157 (0.138)	-0.156 (0.138)
専門学校卒ダミー	-0.043 (0.044)	-0.026 (0.054)	0.046 (0.067)	0.046 (0.067)
短大・高専卒ダミー	-0.107 (0.038) ***	-0.115 (0.047) **	-0.152 (0.057) ***	-0.152 (0.057) ***
大卒以上ダミー	-0.023 (0.028)	-0.026 (0.033)	-0.020 (0.038)	-0.020 (0.038)
〔就業形態(base: 勤め人)〕				
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.084 (0.028) ***	-0.119 (0.035) ***	-0.086 (0.042) **	-0.086 (0.042) **
自営業主	-0.077 (0.046) *	-0.124 (0.057) **	-0.113 (0.066) *	-0.114 (0.066) *
自由業者	-0.036 (0.073)	-0.110 (0.089)	-0.116 (0.096)	-0.114 (0.096)
家族従業者	0.161 (0.124)	0.124 (0.154)	0.192 (0.182)	0.195 (0.182)
在宅就労・内職	-0.166 (0.108)	-0.190 (0.128)	-0.337 (0.161) **	-0.333 (0.162) **
委託労働・請負	-0.047 (0.103)	-0.064 (0.132)	-0.095 (0.146)	-0.093 (0.146)
〔世帯年収(base: 400～600万円)〕				
0～400万円	0.026 (0.029)	0.042 (0.036)	0.053 (0.043)	0.053 (0.043)
600～1000万円	0.026 (0.032)	0.045 (0.039)	0.046 (0.048)	0.046 (0.048)
1000～1500万円以上	-0.065 (0.041)	-0.047 (0.050)	-0.088 (0.060)	-0.088 (0.060)
〔世帯金融資産(base: 400～600万円)〕				
0～400万円	-0.019 (0.033)	0.038 (0.042)	0.019 (0.053)	0.019 (0.053)
600～1000万円	0.018 (0.041)	0.063 (0.051)	0.035 (0.058)	0.035 (0.058)
1000～1500万円以上	-0.030 (0.037)	0.027 (0.047)	0.032 (0.056)	0.032 (0.056)
〔市区町村〕				
高齢者比率	0.010 (0.297)	-0.084 (0.386)	-0.273 (0.445)	-0.289 (0.449)
DID人口比率	-0.003 (0.045)	-0.006 (0.056)	-0.047 (0.065)	-0.046 (0.066)
両親・祖父母の人助けの意識	0.292 (0.020) ***	0.300 (0.026) ***	0.272 (0.031) ***	0.272 (0.031) ***
人助けに関する家庭内経験	0.066 (0.014) ***	0.080 (0.017) ***	0.092 (0.022) ***	0.092 (0.022) ***
15歳の頃までと異なる市区町村に居住	-0.087 (0.024) ***	-0.125 (0.032) ***	-0.069 (0.036) *	-0.068 (0.036) *
現居住地での居住年数		-0.004 (0.011)	0.007 (0.014)	0.007 (0.014)
〔地域の状況〕				
地元小学校でのイベントの案内がくる			-0.032 (0.041)	-0.032 (0.041)
地元自治会のイベントの案内がくる			0.029 (0.051)	0.028 (0.051)
役場からの広報がくる			-0.006 (0.050)	-0.006 (0.050)
地域活動に熱心な人・団体がいる			-0.030 (0.046)	-0.030 (0.046)
多様な世代が集まる場がある			0.112 (0.042) ***	0.113 (0.042) ***
引っ越してきた人が地域に馴染んでいる			0.038 (0.043)	0.040 (0.044)
引っ越してきた人に対する警戒心がある			-0.026 (0.053)	-0.027 (0.053)
地域としての連帯感がある			0.168 (0.046) ***	0.169 (0.046) ***
古くからのお祭りや伝統行事がある			-0.037 (0.041)	-0.036 (0.041)
暗くなってからでも一人で出歩ける			0.052 (0.035)	0.053 (0.035)
〔地域環境への不満〕				
活気や賑わいのなさ				-0.016 (0.022)
空き地や空き家の多さ				0.009 (0.023)
cut1	0.267 (0.219)	0.313 (0.264)	-0.135 (0.332)	-0.157 (0.348)
cut2	0.703 (0.220) ***	0.730 (0.263) ***	0.294 (0.331)	0.272 (0.347)
cut3	1.989 (0.220) ***	2.011 (0.263) ***	1.617 (0.330) ***	1.595 (0.346) ***
cut4	3.195 (0.222) ***	3.238 (0.266) ***	2.874 (0.335) ***	2.851 (0.350) ***
pseudo R-sq	0.046	0.048	0.051	0.051
N	9801	6465	4768	4768

注 1) (1) 列～(4) 列はすべて順序プロビットによる推定結果。

注 2) () 内は、グループ内(市区町村)の相関に頑健なクラスターバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

次に、地域資源の共有意識についても同様の分析を行う（表 21（推定結果 4-3））。

- (1) 列 回答者が 15 歳までの居住地と異なるところに住んでいる場合のダミーを追加
- (2) 列 回答者の子どもの頃の地域の大人（家族以外）の地域活動参加を考慮
- (3) 列 現在の居住地の居住年数を考慮
- (4) 列 地域の状況に対する回答を考慮
- (5) 列 地域環境に対する不満を考慮

結果をみると、すべての場合において、子どもの頃の地域活動経験は有意にプラスとなっている。この結果は、子どもの頃に地域活動を経験していることが、その地域を離れても地域資源の共有意識の高さにつながることを示しており、子どもの頃に地域活動に接する機会を与えることの重要性を示唆する結果と考えられる。

また、15 歳ごろまでの居住地と異なる場所に住んでいることの係数は有意にマイナスとなっており、居住地の移動により地域資源の共有意識には負の影響があることが分かる。しかし、この場合においても子どもの頃の地域活動経験は有意であるため、居住地の移動にかかわらず、子どもの頃に地域活動経験を持つことの重要性が示される。

(2) 列では、29 年度アンケートにおいて質問した家族以外の大人からの影響を考慮している。29 年度アンケート問 20 項目 1 は「子どもの頃、地域の大人（自分の家族以外）が地域活動に参加しているのを見て育った」ということが自分の経験に当てはまるかどうかを質問しており、この回答を変数に追加することで、家族以外の大人からの影響を考慮することができる。この質問の回答だけでは、家族以外の地域の大人からの影響を十分に反映できていない可能性もあるが、この変数の係数は有意ではなく、また、この変数を加えたことにより他の変数への影響も見られない。このため、地域資源の共有意識の形成における家族からの影響は頑健な結果と考えることができる。

現在の居住地の居住年数を考慮した (3) 列では、居住年数が長くなることで地域資源の共有意識が高まることが予想されたが、推定結果をみると有意にマイナスとなっている。このため、居住年数が長くなることが地域資源の共有意識の高まりにつながるわけではない。

(4) 列の結果をみると、「地域での行事や活動に熱心な人がいる、もしくは団体がある」「多様な世代の人が集まる場（公民館や集会所など）があり、実際に多様な世代の人が集まっている」「新しく引っ越してきた人も地域に馴染んでいる」「地域としての連帯感がある」「古くからの祭りや伝統行事がある」については有意にプラスとなっている。このため、こうした地域のソーシャル・キャピタルの高さは個人の地域資源の共有意識を高める要因となっていると考えられ、個人の地域資源の共有意識の形成においても地域からの影響がある可能性が考えられる。

(5) 列では、の追加した 2 つの地域環境に対する不満に関する変数については係数が有意にマイナスとなっている。これは、地域環境に不満がある人の方が地域資源の共有意識が高くなることを意味している。信頼や互酬性の意識に関しては、これらの要因は有意な影響を与えていなかったが、地域の環境が悪化することで、地域資源の重要性に対する認識が高まり、またそれが損なわれていることへの危機意識から、地域資源の共有意識が高まる可能性を示している。

以上の分析結果は、他人への信頼や互酬性の意識が両親・祖父母から継承されていること、また地域資源の共有意識については、子どもの頃の地域活動経験がその形成に影響を与えていることが、居住している地域の状況を考慮した上でも統計的にも有意なものであることを示している。同時に、他人への信頼や互酬性の意識、地域資源の共有意識の形成には、地域からの影響もあることを示しており、家庭内での継承と地域全体での取組が重要であることを示唆している。

表 21. 推定結果4-3（地域資源の共有意識）

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
女性ダミー	-0.014 (0.015)	-0.034 (0.019) *	-0.035 (0.019) *	-0.045 (0.022) **	-0.047 (0.022) **
年齢	-0.035 (0.004) ***	-0.036 (0.005) ***	-0.034 (0.005) ***	-0.034 (0.005) ***	-0.035 (0.005) ***
年齢二乗	0.000 (0.000) ***	0.000 (0.000) ***	0.000 (0.000) ***	0.000 (0.000) ***	0.000 (0.000) ***
配偶者ありダミー	0.031 (0.021)	0.028 (0.026)	0.012 (0.026)	-0.027 (0.032)	-0.029 (0.032)
離婚ダミー	0.005 (0.032)	-0.003 (0.042)	-0.020 (0.042)	-0.042 (0.052)	-0.047 (0.052)
死別ダミー	-0.014 (0.046)	-0.017 (0.058)	-0.030 (0.058)	-0.080 (0.064)	-0.083 (0.064)
子どもダミー	0.077 (0.018) ***	0.049 (0.023) **	0.054 (0.023) **	0.038 (0.027)	0.040 (0.027)
持家ダミー	0.037 (0.016) **	0.049 (0.020) **	0.064 (0.020) ***	0.020 (0.023)	0.021 (0.023)
楽観主義	0.030 (0.003) ***	0.032 (0.004) ***	0.031 (0.004) ***	0.031 (0.005) ***	0.033 (0.005) ***
人間を越えた力への感謝	0.079 (0.008) ***	0.082 (0.010) ***	0.083 (0.010) ***	0.067 (0.012) ***	0.070 (0.012) ***
信心深さ	0.042 (0.007) ***	0.037 (0.008) ***	0.036 (0.008) ***	0.022 (0.010) **	0.021 (0.010) **
時間選好率	0.016 (0.014)	0.009 (0.017)	0.008 (0.017)	0.022 (0.019)	0.023 (0.019)
リスク態度	0.195 (0.019) ***	0.200 (0.024) ***	0.197 (0.024) ***	0.178 (0.027) ***	0.170 (0.027) ***
他人への信頼	0.072 (0.005) ***	0.068 (0.006) ***	0.068 (0.006) ***	0.062 (0.007) ***	0.063 (0.007) ***
互酬性の意識	0.198 (0.008) ***	0.200 (0.010) ***	0.199 (0.010) ***	0.213 (0.013) ***	0.212 (0.013) ***
〔学歴(base:高卒)〕					
高卒未満ダミー	0.014 (0.050)	0.062 (0.068)	0.064 (0.068)	0.128 (0.073) *	0.132 (0.073) *
専門学校卒ダミー	0.011 (0.023)	0.027 (0.028)	0.026 (0.029)	0.055 (0.033) *	0.052 (0.033)
短大・高専卒ダミー	0.010 (0.023)	-0.004 (0.028)	-0.007 (0.028)	-0.009 (0.032)	-0.006 (0.032)
大卒以上ダミー	0.025 (0.016)	0.011 (0.019)	0.006 (0.019)	0.032 (0.022)	0.031 (0.021)
〔就業形態(base:勤め人)〕					
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.032 (0.016) **	-0.037 (0.020) *	-0.036 (0.020) *	-0.016 (0.023)	-0.012 (0.023)
自営業主	0.017 (0.024)	0.013 (0.031)	0.016 (0.031)	0.040 (0.034)	0.034 (0.034)
自由業者	-0.043 (0.038)	-0.044 (0.049)	-0.043 (0.048)	-0.031 (0.055)	-0.026 (0.055)
家族従業者	0.040 (0.063)	0.046 (0.067)	0.057 (0.066)	0.044 (0.074)	0.055 (0.074)
在宅労・内職	-0.061 (0.058)	-0.067 (0.074)	-0.066 (0.075)	-0.029 (0.082)	-0.013 (0.081)
委託労働・請負	-0.159 (0.060) ***	-0.170 (0.083) **	-0.169 (0.082) **	-0.119 (0.082)	-0.121 (0.081)
〔世帯年収(base:400～600万円)〕					
0～400万円	-0.048 (0.016) ***	-0.056 (0.020) ***	-0.054 (0.020) ***	-0.032 (0.023)	-0.032 (0.023)
600～1000万円	0.001 (0.017)	-0.006 (0.022)	-0.005 (0.022)	0.036 (0.025)	0.037 (0.025)
1000万円以上	-0.026 (0.024)	-0.032 (0.031)	-0.031 (0.031)	-0.027 (0.035)	-0.026 (0.036)
〔世帯金融資産(base:400～600万円)〕					
0～400万円	-0.027 (0.020)	-0.047 (0.025) *	-0.046 (0.025) *	-0.055 (0.028) *	-0.051 (0.028) *
600～1000万円	-0.002 (0.022)	-0.030 (0.027)	-0.031 (0.027)	-0.024 (0.030)	-0.021 (0.030)
1000万円以上	0.009 (0.021)	-0.003 (0.026)	-0.002 (0.026)	-0.010 (0.030)	-0.008 (0.030)
〔市区町村〕					
高齢者比率	0.214 (0.159)	0.461 (0.203) **	0.481 (0.203) **	0.392 (0.222) *	0.213 (0.222)
DiD人口比率	0.017 (0.025)	0.075 (0.031) **	0.077 (0.031) **	0.075 (0.034) **	0.093 (0.034) ***
子どもの頃の地域活動経験	0.098 (0.007) ***	0.090 (0.010) ***	0.090 (0.010) ***	0.077 (0.012) ***	0.075 (0.012) ***
15歳の頃までと異なる市区町村に居住	-0.041 (0.015) ***	-0.038 (0.019) **	-0.062 (0.020) ***	-0.080 (0.021) ***	-0.073 (0.021) ***
子どもの頃の周囲の大人の地域活動		0.008 (0.009)	0.009 (0.009)	-0.001 (0.010)	0.000 (0.010)
現居住地での居住年数			-0.023 (0.006) ***	-0.027 (0.008) ***	-0.027 (0.008) ***
〔地域の状況〕					
地元小学校でのイベントの案内がくる				0.033 (0.022)	0.031 (0.022)
地元自治会のイベントの案内がくる				0.023 (0.027)	0.023 (0.026)
役場からの広報がくる				-0.027 (0.026)	-0.026 (0.026)
地域活動に熱心な人・団体がいる				0.080 (0.023) ***	0.080 (0.023) ***
多様な世代が集まる場がある				0.063 (0.023) ***	0.067 (0.023) ***
引っ越してきた人が地域に馴染んでいる				0.048 (0.023) **	0.060 (0.023) ***
引っ越してきた人に対する警戒心がある				0.039 (0.032)	0.034 (0.032)
地域としての連帯感がある				0.098 (0.024) ***	0.102 (0.024) ***
古くからのお祭りや伝統行事がある				0.058 (0.020) ***	0.057 (0.020) ***
暗くなってからでも一人で出歩ける				-0.039 (0.020) *	-0.029 (0.020)
〔地域環境への不満〕					
活気や賑わいのなさ					-0.030 (0.012) **
空き地や空き家の多さ					-0.022 (0.012) *
定数項	2.092 (0.114) ***	2.027 (0.149) ***	2.088 (0.149) ***	2.279 (0.169) ***	2.468 (0.172) ***
Adj R ²	0.311	0.312	0.313	0.334	0.337
N	10916	7234	7234	5155	5155

注 1) (1) 列～(5) 列はすべて最小二乗法による推定結果。

注 2) () 内は、グループ内(市区町村)の相関に頑健なクラストロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

(5) 地域資源の共有意識と地域活動との関係の考察

次に、ソーシャル・キャピタルの継承や子どもの頃の地域活動経験等により形成される地域資源の共有意識と地域活動との関係について分析・考察する。

① 地域資源の共有意識と地域活動への参加

地域資源の共有意識と地域活動への参加(問9項目1)との相関をみてみると、両者の相関係

数は0.450である。図3は、参加の程度ごとに地域資源の共有意識の平均を比較したものであり、参加頻度が高い人ほど地域資源の共有意識が高い傾向があることが分かる。この結果からは、地域資源の共有意識の高さが地域活動への参加につながっている可能性と、地域活動への参加が地域資源の共有意識を高めている可能性の両方が示唆される。しかし、参加していない人の地域資源の共有意識を、居住している地域において地域活動があることを知っている人と知らない人とに分けて比較すると、地域活動があることを知っている人の方が地域資源の共有意識は高い。これは、地域資源の共有意識の高さが、地域活動の存在の認知にもつながっている可能性を示していると考えられ、地域資源の共有意識を高めることは、地域活動への参加を促す方策の1つとなり得、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の継承が、多世代共創的活動の活発化に寄与する可能性を示していると考えられる。

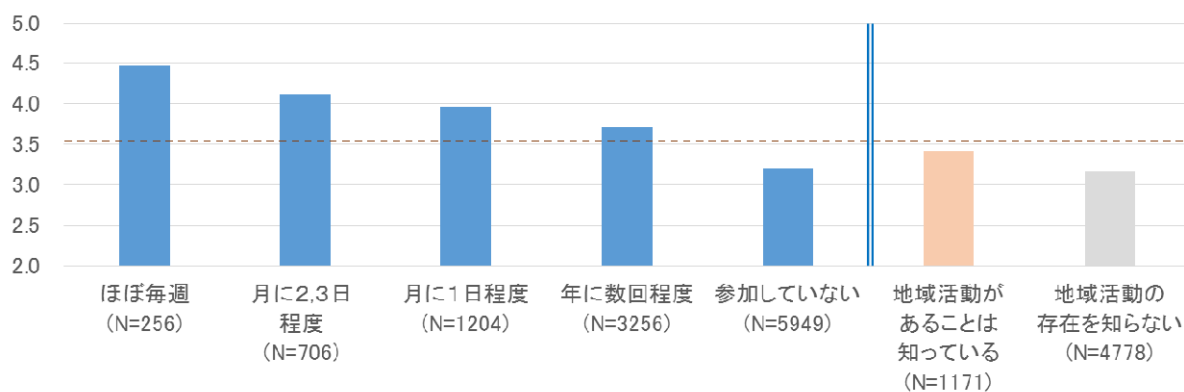


図3 地域活動への参加頻度と地域資源の共有意識

また、アンケートでは、地域活動の参加者に活動参加の理由を聞いており、この地域活動への参加理由に関する自由記述の欄をみると、本人の自由意志ではなく、地域内でのしがらみ等から強制的、いやいや参加している人がいることがわかった。そこで、自由回答の記述内容から、強制的若しくはいやいや参加（不本意ながら参加）していると思われる人を抽出し、こうした人たちの地域資源の共有意識が、自発的に参加している人と異なっているかどうかを比較した。

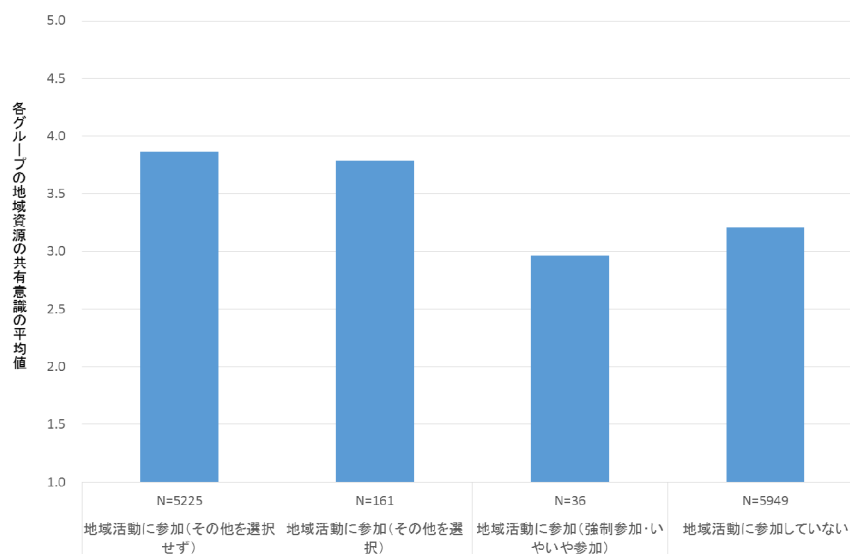


図4 強制参加・いやいや参加の人の地域資源の共有意識

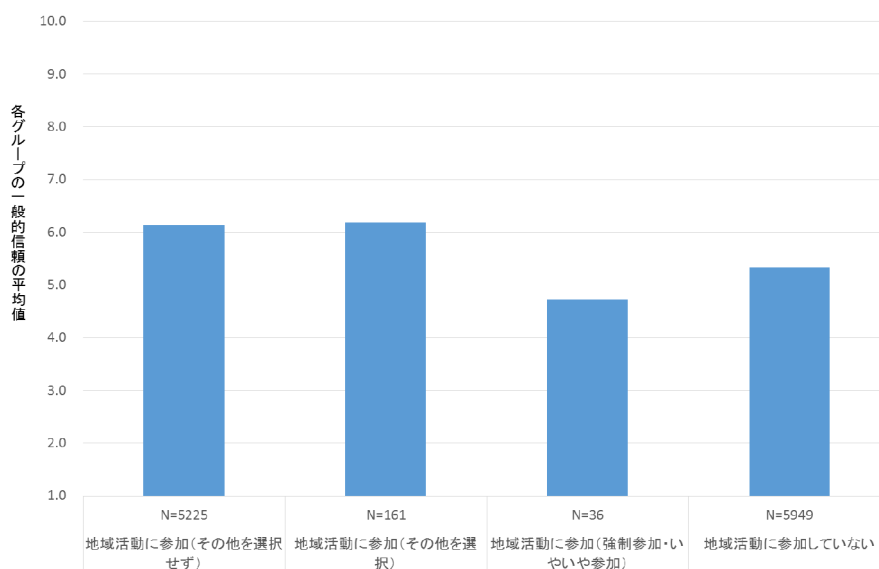


図 5 強制参加・いやいや参加の人の一般的な信頼

地域活動に参加している人（参加理由にその他を選んでいる人）、地域活動に参加している人（参加理由にその他を選んでいる人）、地域活動に参加している人（強制・いやいや参加と思われる人）、地域活動に参加していない人、の4つのグループに分けて比較すると、地域活動に参加していない人の地域資源の共有意識の平均値が低くなっていることが分かる（図 4）。しかし、強制参加・いやいや参加の人はそれ以上に低い。強制参加・いやいや参加と思われる人のサンプル数は36人と非常に少ないため、結果の解釈には留意が必要であるが、地域活動に参加していても、地域のしぐらみや人間関係によって参加せざるを得ない人の地域資源の共有意識は、自発的に参加している人よりも低い可能性がある。また、一般的信頼についても同様の傾向が見られ、強制参加・いやいや参加の人は自発的に参加している人に比べて、他人に対する信頼も低くなる傾向が見られる（図 5）。

以上の結果は、地域のつながりや人間関係から不本意ながらも地域活動に参加している人は、自発的に参加している人と比べてソーシャル・キャピタルは必ずしも高くはなく、地域資源の共有意識も持たない可能性があることを示唆するとともに、地域活動への参加が地域資源の共有意識を高めることにつながらない場合もあることを示している。このように活動に参加していても意識の低い人の意識をどのようにすれば変えていくことができるのかは、今後さらなる分析や検証が必要な課題であると考えられる。

② 地域活動の存在を知りながら、活動に参加していない人の理由

28年度アンケートでは、地域活動が行われていることを知っている人に活動の内容をどの程度把握しているかを聞いている（問9-5）。また、この質問に「ある程度活動内容を知っている」「活動内容を具体的に把握している」と回答し、かつ、地域活動には参加していない人を対象に、活動に参加していない理由を聞いている。この質問の回答を用いて、それぞれの選択肢を選んだ人の地域資源の共有意識の平均値を比較すると、「活動内容が地域のため役立つものとは思えないから。」「活動に参加しても自分にはあまり具体的なメリットがないと思うから。」を選択している回答者の地域資源の共有意識は、参加していない人の平均とくらべても低くなる（表 22）。一方、その他の理由を選んだ人の平均値は全サンプルの平均値よりも高い。その他の自由記述をみると、体調や病気などの理由を上げている人が多く、参加したいという意欲はあるものの参加できない人もいることが分かる。

このため、地域活動に参加しない人には、参加意欲はあるものの仕事や家庭の事情、健康上の理由で参加出来ない人、地域資源の共有意識が低く参加意欲がない人、というタイプがあることが考えられる。前者のタイプについては、地域活動に参加しやすくするような環境やきっかけをつくることで、その参加を促すことができると考えられ、地域活動の参加方法をより柔軟にすることが活動参加につながっていくと考えられる。

表 22. 地域活動の存在を知らずに参加していない人の理由別にみた地域資源の共有意識

	仕事や家庭内のことに忙しくて参加する時間的な余裕がないから。(N=543)	自分の趣味や余暇活動に時間を使いたいから。(N=435)	活動内容が地域のため役立つものとは思えないから。(N=69)	自分が参加しなくても活動には影響がないから。(N=389)	活動に参加しても自分にはあまり具体的なメリットがないと思うから。(N=185)	その他 (N=122)	参加していない人の平均	全サンプルの平均
地域資源の共有意識の平均値	3.473	3.377	3.116	3.293	3.071	3.589	3.412	3.515

後者のタイプについては、即効的な対応は難しい。「活動内容が地域のため役立つものとは思えないから。」「活動に参加しても自分にはあまり具体的なメリットがないと思うから。」を選択している回答者の子どもの頃の両親・祖父母との地域活動参加経験を、全体の傾向と比較すると、全く当てはまらないと回答する人の割合が全体の割合に比べて高くなっている（表 23）。子どもの頃の地域活動経験がないことが、地域活動に対するこうしたネガティブな評価につながっている可能性があり、このことは、子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験が大人になってからの地域資源の共有意識に影響を与えているという前述の結果をサポートする結果となっている。このため、子どもの頃の地域活動経験を高めることで、将来的に地域活動の意義を認める人を増やしていくことにつながり、即効性はないものの有効な対応策となる可能性があると考えられる。

表 23. 地域活動への評価が低い人の子どもの頃の地域活動経験

	全体		後ろ向き理由回答者	
		比率		比率
選択肢1 全く当てはまらない。	1,474	13.0	46	19.9
選択肢2 あまり当てはまらない。	2,307	20.3	46	19.9
選択肢3 どちらともいえない。	3,794	33.4	75	32.5
選択肢4 やや当てはまる。	3,166	27.8	53	22.9
選択肢5 よく当てはまる。	630	5.5	11	4.8

③ 多世代型の地域活動と同世代型の地域活動

29 年度アンケートでは、地域活動に参加している人に、参加している活動が同世代型（ほぼ同じ世代（年齢層）が参加している）か、多世代型（様々な世代が参加している（年齢差が 20 歳以上））か、を質問している（問 5）。

同世代型と回答した人に他の世代の人が活動に参加していない理由を、多世代型と回答した人に多様な世代が参加している理由を聞くと、同世代型については、他の世代の人が活動内容に関心を持っていないから、という選択肢を選んだ人の割合がもっと高く（54.3%）、多世代型については、様々な世代の人が参加しやすいような曜日や時間帯に活動が行われているから（43.2%）、

様々な世代の人たちに活動内容を周知したり活動参加を積極的に促しているから(41.2%)が多い(表 24、表 25)。

表 24. 同世代型地域活動において他の世代が参加していない理由

(MA)問6-1. 他の世代の人が活動に参加していない理由について、当てはまると思われるものを以下の中からお選びください。

		実数	%
	全体	1023	100.0
1	他の世代の人に活動内容を周知したり活動参加を促したりしていないから	252	24.6
2	他の世代の人が活動内容に関心をもっていないから	555	54.3
3	他の世代の人が参加しにくい曜日や時間帯に活動が行われているから	319	31.2
4	特定の世代の人しか参加できないルールがあるから	66	6.5
5	その他	56	5.5

表 25. 多世代型地域活動において他の世代が参加している理由

(MA)問7-1. 様々な世代の人が活動に参加している理由について、当てはまると思われるものを以下の中からお選びください。

		実数	%
	全体	2301	100.0
1	様々な世代の人たちに活動内容を周知したり活動参加を積極的に促しているから	949	41.2
2	活動内容に様々な世代の人が関心を持っているから	654	28.4
3	様々な世代の人が参加しやすいような曜日や時間帯に活動が行われているから	995	43.2
4	親が参加することでその子どもが入ってきやすい仕組みがあるから	476	20.7
5	その他	120	5.2

多世代型の地域活動に参加している人について、活動している地域活動の評価がどのようになっているかを理由別に比較すると、「活動内容に様々な世代の人が関心を持っているから」を選んでいる人の活動評価は全体と比較して前向きな評価になっており、「活動内容が世の中の変化に応じて変わっている」「初めての人も活動に参加しやすい」といった項目の評価が高い。しかし、その他を選択している人のうち、自由記述で「強制・いやいや」といったネガティブな記述をしている人についてみると、全体的に評価は後ろ向きである。

表 26. 他の世代が参加している理由別の活動の評価

	全体平均	様々な世代の人たちに活動内容を周知したり活動参加を積極的に促しているから	活動内容に様々な世代の人が関心を持っているから	様々な世代の人が参加しやすいような曜日や時間帯に活動が行われているから	親が参加することでその子どもが入ってきやすい仕組みがあるから	その他	その他(自由回答で「強制・いやいや」といった内容を記述)
N=	2,301	949	654	995	476	120	48
活動内容に関する意思決定が行いやすい	2.66	2.52	2.44	2.53	2.56	3.48	3.98
メンバー間での交流が円滑である	2.65	2.50	2.38	2.56	2.53	3.31	3.73
将来的に活動が存続するか不安がある	2.77	2.72	2.80	2.82	2.79	2.78	2.75
活動内容に変化がない	2.54	2.54	2.65	2.53	2.56	2.22	1.98
活動内容が世の中の変化に応じて変わっている	2.96	2.85	2.77	2.94	2.90	3.63	3.94
初めての人も活動に参加しやすい	2.78	2.67	2.56	2.68	2.73	3.29	3.94

注)回答は「1:非常にそう思う」「2:どちらかといえばそう思う」「3:どちらとも言えない」「4:どちらかといえば

そう思わない」「5:まったくそう思わない」の5段階。

このため、時代の変化に対応して様々な世代の人が関心を持つような活動内容になるよう工夫していくことが、活動参加者のモチベーションを高める上でも重要な課題の一つであり、そのことが多様な世代の参加と活動の持続可能性を高めることにつながると考えられる。

(6) ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の継承の促進・阻害要因の考察

次に、どのような環境や要因が、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の継承の促進要因・阻害要因となるのかを明らかにするため、家族との同居、子どもの頃の余暇時間の使い方等を考慮した分析を行う。

① 同居による効果

世代間継承の促進を考えるに当たっての一つの視点として、与える側と受け取る側がともに多くの時間を共有することが、継承のしやすさに影響を与えると考えられる。アンケート調査では、15歳頃までの両親・祖父母との同居経験を問う設問を設けており、この設問への回答を利用して、同居経験の有無が、信頼や互酬性の意識、地域資源の共有意識に影響を与えるかを検証した(表 27、表 28、表 29)。

ここでは、「ずっと同居していた」「ほとんどの期間同居していた」とした場合には1を、それ以外の回答については0をとるダミー変数として考慮している。なお、両親については、それぞれ父親と母親の双方が同居していた場合に1をとるダミー変数、3世代同居については、両親に加え祖父と祖母の両方が同居していた場合に1をとるダミー変数となっている。また、同居そのものの効果に加え、両親・祖父母の意識との相乗効果を考慮するため、交差項を考慮した推定も行っている。

信頼についてみると、両親との同居経験は有意にプラスとなっている。しかし、3世代同居経験については有意な結果となっていない。また、交差項を考慮した場合、交差項が有意にプラスとなるが、同居経験は有意にマイナスとなる。このことは信頼の意識の高い両親と同居していたことが本人の信頼の意識を高めることにつながっている可能性を示唆しており、両親からの直接の影響が重要であることを示唆している。互酬性の意識については、3世代同居経験がプラスとなっているが、交差項を考慮した場合には有意にはなっていない。逆に両親との同居経験については交差項を考慮した場合には、信頼の場合と同様に交差項はプラス、同居経験についてはマイナスとなっている。地域資源の共有意識については、両親・祖父母の地域資源の共有意識そのものの指標がないため、同居経験のみを考慮した推定を行っているが、両親との同居、3世代同居のいずれの場合にも有意にプラスとなる。

これらの結果を踏まえると、他人への信頼や互酬性の意識については両親からの影響がより重要である可能性がある。一方、地域資源の共有意識については、両親に加えて祖父母と一緒に同居していることがプラスの影響を与えている可能性がある。3世代での同居が地域資源の共有意識にプラスの影響を与えるのは、3世代で同居することによって地域活動に参加する経験を得る機会が増えることがその背景として考えられ、地域資源の共有意識の形成促進に向けては3世代での同居、もしくは、祖父母とも一緒に地域活動に参加する機会をつくることも有用と考えられる。

表 27. 推定結果5-1（同居による効果、他人への信頼）

	(1)	(2)	(3)	(4)
女性ダミー	-0.101 (0.036) ***	-0.095 (0.036) ***	-0.100 (0.036) ***	-0.095 (0.036) ***
年齢	-0.003 (0.009)	-0.002 (0.010)	-0.003 (0.009)	-0.001 (0.010)
年齢二乗	0.000 (0.000) *	0.000 (0.000) *	0.000 (0.000) *	0.000 (0.000) *
配偶者ありダミー	0.113 (0.056) **	0.106 (0.056) *	0.115 (0.056) **	0.105 (0.056) *
離婚ダミー	0.003 (0.086)	-0.006 (0.086)	0.004 (0.086)	-0.008 (0.086)
死別ダミー	-0.007 (0.130)	-0.020 (0.130)	-0.018 (0.129)	-0.020 (0.130)
子どもダミー	0.088 (0.047) *	0.093 (0.047) *	0.087 (0.047) *	0.092 (0.047) *
持家ダミー	0.041 (0.043)	0.047 (0.043)	0.044 (0.043)	0.047 (0.043)
楽観主義	0.129 (0.010) ***	0.128 (0.010) ***	0.128 (0.010) ***	0.128 (0.010) ***
人間を越えた力への感謝	0.086 (0.022) ***	0.092 (0.021) ***	0.088 (0.022) ***	0.093 (0.021) ***
信心深さ	0.046 (0.018) **	0.043 (0.018) **	0.045 (0.018) **	0.042 (0.018) **
時間選好率	-0.058 (0.039)	-0.056 (0.039)	-0.058 (0.039)	-0.057 (0.039)
リスク態度	0.041 (0.049)	0.036 (0.049)	0.036 (0.049)	0.036 (0.049)
〔学歴(base: 高卒)〕				
高卒未満ダミー	-0.238 (0.133) *	-0.255 (0.134) *	-0.239 (0.133) *	-0.261 (0.133) *
専門学校卒ダミー	0.018 (0.062)	0.016 (0.062)	0.016 (0.062)	0.016 (0.062)
短大・高専卒ダミー	-0.001 (0.057)	0.003 (0.057)	-0.006 (0.057)	0.002 (0.057)
大卒以上ダミー	0.072 (0.042) *	0.077 (0.042) *	0.071 (0.042) *	0.077 (0.042) *
〔就業形態(base: 勤め人)〕				
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.022 (0.043)	-0.017 (0.043)	-0.021 (0.043)	-0.018 (0.043)
自営業主	-0.127 (0.068) *	-0.121 (0.068) *	-0.126 (0.068) *	-0.120 (0.068) *
自由業者	-0.152 (0.112)	-0.153 (0.112)	-0.147 (0.111)	-0.152 (0.112)
家族従業者	0.207 (0.156)	0.203 (0.155)	0.208 (0.156)	0.205 (0.154)
在宅就労・内職	-0.310 (0.173) *	-0.309 (0.172) *	-0.307 (0.173) *	-0.311 (0.172) *
委託労働・請負	0.101 (0.178)	0.098 (0.178)	0.099 (0.178)	0.096 (0.178)
〔世帯年収(base: 400～600万円)〕				
0～400万円	-0.048 (0.043)	-0.051 (0.043)	-0.049 (0.043)	-0.050 (0.043)
600～1000万円	0.072 (0.046)	0.074 (0.046)	0.071 (0.046)	0.075 (0.046)
1000万円以上	-0.048 (0.067)	-0.046 (0.067)	-0.052 (0.067)	-0.042 (0.067)
〔世帯金融資産(base: 400～600万円)〕				
0～400万円	-0.107 (0.053) **	-0.103 (0.054) *	-0.103 (0.053) *	-0.104 (0.054) *
600～1000万円	0.004 (0.059)	0.006 (0.059)	0.002 (0.059)	0.005 (0.059)
1000万円以上	-0.041 (0.058)	-0.034 (0.058)	-0.039 (0.057)	-0.036 (0.058)
〔市区町村〕				
高齢者比率	-0.126 (0.421)	-0.137 (0.421)	-0.100 (0.421)	-0.130 (0.421)
DID人口比率	-0.124 (0.065) *	-0.132 (0.066) **	-0.122 (0.065) *	-0.133 (0.066) **
両親・祖父母の信頼	0.377 (0.020) ***	0.383 (0.020) ***	0.248 (0.041) ***	0.396 (0.020) ***
両親との同居経験	0.135 (0.039) ***		-0.435 (0.160) ***	
3世代同居経験		-0.020 (0.047)		0.306 (0.223)
信頼との交差項(両親との同居)			0.161 (0.044) ***	
信頼との交差項(3世代同居)				-0.086 (0.056)
定数項	2.802 (0.298) ***	2.856 (0.299) ***	3.248 (0.327) ***	2.810 (0.298) ***
Adj R ²	0.163	0.162	0.164	0.162
N	10120	10120	10120	10120

注 1) (1)～(4)列はすべて最小二乗法による推定。

注 2) () 内は、グループ内（市区町村）の相関に頑健なクラストロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

表 28. 推定結果5-2（同居による効果、互酬性の意識）

	(1)		(2)		(3)		(4)	
女性ダミー	0.084	(0.026) ***	0.082	(0.026) ***	0.084	(0.026) ***	0.082	(0.026) ***
年齢	0.000	(0.007)	0.000	(0.007)	0.000	(0.007)	0.000	(0.007)
年齢二乗	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)
配偶者ありダミー	0.065	(0.039) *	0.069	(0.039) *	0.065	(0.039) *	0.068	(0.039) *
離婚ダミー	0.042	(0.063)	0.046	(0.063)	0.043	(0.063)	0.046	(0.063)
死別ダミー	0.063	(0.089)	0.068	(0.090)	0.061	(0.090)	0.067	(0.090)
子どもダミー	0.058	(0.032) *	0.056	(0.032) *	0.058	(0.032) *	0.056	(0.032) *
持家ダミー	0.056	(0.030) *	0.053	(0.030) *	0.057	(0.030) *	0.053	(0.030) *
楽観主義	0.055	(0.006) ***	0.055	(0.006) ***	0.055	(0.006) ***	0.055	(0.006) ***
人間を越えた力への感謝	0.081	(0.015) ***	0.080	(0.015) ***	0.082	(0.015) ***	0.080	(0.015) ***
信心深さ	0.110	(0.012) ***	0.110	(0.012) ***	0.110	(0.012) ***	0.110	(0.012) ***
時間選好率	-0.118	(0.026) ***	-0.118	(0.026) ***	-0.117	(0.026) ***	-0.117	(0.026) ***
リスク態度	0.223	(0.030) ***	0.224	(0.031) ***	0.223	(0.030) ***	0.222	(0.031) ***
〔学歴(base: 高卒)〕								
高卒未満ダミー	-0.008	(0.088)	-0.001	(0.088)	-0.006	(0.088)	0.000	(0.088)
専門学校卒ダミー	-0.046	(0.044)	-0.045	(0.044)	-0.046	(0.044)	-0.045	(0.044)
短大・高専卒ダミー	-0.110	(0.038) ***	-0.111	(0.039) ***	-0.109	(0.038) ***	-0.110	(0.039) ***
大卒以上ダミー	-0.027	(0.028)	-0.029	(0.028)	-0.026	(0.028)	-0.029	(0.028)
〔就業形態(base: 勤め人)〕								
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.084	(0.028) ***	-0.085	(0.028) ***	-0.083	(0.028) ***	-0.085	(0.028) ***
自営業主	-0.061	(0.045)	-0.065	(0.046)	-0.062	(0.046)	-0.066	(0.046)
自由業者	-0.036	(0.073)	-0.035	(0.073)	-0.038	(0.073)	-0.036	(0.073)
家族従業者	0.172	(0.124)	0.169	(0.124)	0.172	(0.123)	0.170	(0.123)
在宅就労・内職	-0.166	(0.108)	-0.167	(0.108)	-0.164	(0.108)	-0.168	(0.108)
委託労働・請負	-0.047	(0.102)	-0.044	(0.103)	-0.049	(0.103)	-0.045	(0.103)
〔世帯年収(base: 400～600万円)〕								
0～400万円	0.025	(0.029)	0.025	(0.029)	0.023	(0.029)	0.024	(0.029)
600～1000万円	0.028	(0.032)	0.026	(0.032)	0.027	(0.032)	0.026	(0.032)
1000～1500万円以上	-0.064	(0.041)	-0.067	(0.041)	-0.065	(0.041)	-0.067	(0.041)
〔世帯金融資産(base: 400～600万円)〕								
0～400万円	-0.018	(0.034)	-0.019	(0.033)	-0.016	(0.034)	-0.018	(0.033)
600～1000万円	0.021	(0.040)	0.019	(0.040)	0.020	(0.040)	0.019	(0.040)
1000～1500万円以上	-0.026	(0.037)	-0.028	(0.037)	-0.026	(0.037)	-0.028	(0.037)
〔市区町村〕								
高齢者比率	0.113	(0.295)	0.117	(0.294)	0.113	(0.294)	0.110	(0.294)
DID人口比率	-0.011	(0.045)	-0.003	(0.045)	-0.011	(0.045)	-0.004	(0.045)
両親・祖父母の人助けの意識	0.295	(0.020) ***	0.290	(0.020) ***	0.242	(0.041) ***	0.281	(0.022) ***
人助けに関する家庭内経験	0.066	(0.014) ***	0.065	(0.014) ***	0.063	(0.014) ***	0.065	(0.014) ***
両親との同居経験	-0.041	(0.029)			-0.315	(0.166) *		
3世代同居経験			0.055	(0.031) *			-0.201	(0.195)
意識との交差項(両親との同居)					0.075	(0.045) *		
意識との交差項(3世代同居)							0.066	(0.051)
cut1	0.316	(0.218)	0.331	(0.219)	0.123	(0.258)	0.296	(0.219)
cut2	0.752	(0.219) ***	0.766	(0.219) ***	0.559	(0.259) **	0.731	(0.219) ***
cut3	2.037	(0.219) ***	2.051	(0.219) ***	1.844	(0.260) ***	2.016	(0.219) ***
cut4	3.243	(0.221) ***	3.257	(0.221) ***	3.050	(0.262) ***	3.222	(0.221) ***
pseudo R-sq	0.046		0.046		0.046		0.046	
N	9801		9801		9801		9801	

注 1) (1)～(4)列はすべて順序プロビットによる推定。

注 2) () 内は、グループ内（市区町村）の相関に頑健なクラストロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

表 29. 推定結果5-3（同居による効果、地域資源の共有意識）

	(1)		(2)	
女性ダミー	-0.019	(0.015)	-0.016	(0.015)
年齢	-0.036	(0.004) ***	-0.035	(0.004) ***
年齢二乗	0.000	(0.000) ***	0.000	(0.000) ***
配偶者ありダミー	0.026	(0.021)	0.022	(0.020)
離婚ダミー	0.006	(0.032)	0.002	(0.032)
死別ダミー	-0.014	(0.046)	-0.020	(0.046)
子どもダミー	0.074	(0.018) ***	0.076	(0.018) ***
持家ダミー	0.044	(0.016) ***	0.045	(0.016) ***
楽観主義	0.030	(0.003) ***	0.030	(0.003) ***
人間を越えた力への感謝	0.074	(0.008) ***	0.078	(0.008) ***
信心深さ	0.044	(0.007) ***	0.042	(0.007) ***
時間選好率	0.015	(0.014)	0.017	(0.014)
リスク態度	0.200	(0.019) ***	0.194	(0.019) ***
信頼インデックス	0.071	(0.005) ***	0.072	(0.005) ***
互酬性の意識	0.198	(0.008) ***	0.198	(0.008) ***
〔学歴(base: 高卒)〕				
高卒未満ダミー	0.026	(0.050)	0.019	(0.050)
専門学校卒ダミー	0.011	(0.023)	0.011	(0.023)
短大・高専卒ダミー	0.006	(0.023)	0.009	(0.023)
大卒以上ダミー	0.021	(0.016)	0.022	(0.016)
〔就業形態(base: 勤め人)〕				
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.035	(0.016) **	-0.032	(0.016) **
自営業主	0.021	(0.024)	0.020	(0.024)
自由業者	-0.042	(0.038)	-0.042	(0.038)
家族従業者	0.047	(0.063)	0.039	(0.063)
在宅就労・内職	-0.062	(0.058)	-0.061	(0.058)
委託労働・請負	-0.156	(0.060) ***	-0.154	(0.060) **
〔世帯年収(base: 400～600万円)〕				
0～400万円	-0.046	(0.016) ***	-0.048	(0.016) ***
600～1000万円	0.001	(0.017)	0.001	(0.017)
1000万円以上	-0.026	(0.024)	-0.029	(0.024)
〔世帯金融資産(base: 400～600万円)〕				
0～400万円	-0.028	(0.020)	-0.026	(0.020)
600～1000万円	-0.001	(0.022)	-0.002	(0.022)
1000万円以上	0.006	(0.021)	0.009	(0.021)
〔市区町村〕				
高齢者比率	0.263	(0.158) *	0.268	(0.158) *
DID人口比率	0.015	(0.025)	0.021	(0.025)
子どもの頃の地域活動経験	0.098	(0.007) ***	0.096	(0.007) ***
両親との同居経験	0.059	(0.016) ***		
3世代同居経験			0.077	(0.018) ***
定数項	2.042	(0.114) ***	2.051	(0.114) ***
Adj R ²	0.311		0.311	
N	10916		10916	

注 1) (1)～(2)列はすべて最小二乗法による推定。

注 2) () 内は、グループ内（市区町村）の相関に頑健なクラスタロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

② 地域活動経験がある人の特徴

地域活動経験をもつことが地域資源の共有意識の形成に寄与することから、どのような環境にあることが子どもの頃の地域活動経験を促進・阻害するのかを明らかにすることが必要である。29 年度アンケートでは、子供の頃の余暇の過ごし方を質問しており、この回答から、どのような余暇時間の過ごし方が地域活動経験の有無に影響する可能性があるかを確認した。

28 年度アンケートにおける問 16 項目 1「子どもの頃に両親や祖父母が地域活動に参加する際に一緒に参加して育った」に当てはまるかどうかに対する回答をそれぞれのグループとして、各グ

ループの子どもの頃の余暇の使い方についての回答の平均と比較したものが表 30 である。余暇時間の使い方は、5：多くの時間を費やした、4：ある程度の時間を費やした、3：どちらとも言えない、2：あまり時間を費やさなかった、1：時間を費やさなかった、の5段階であることから、平均値が高いほど、その項目に時間を費やした回答者が多いこととなる。なお、「子どもの頃になかった」を選択した人は対象から除外している。

テレビについてみると、親子での参加経験があるかどうかに関わらず、費やした時間に差異は見られない。しかし、ファミコン等のテレビゲームについては当てはまらないと回答する人の方が費やした時間が多くなる傾向が見られる。このようにテレビゲームのように他者との交流があまりない活動や、パソコンやスマホといった交流があってもネットを通じたつながりに多くの時間を費やしたと回答している人は、親子での地域活動への参加経験が乏しくなる傾向がみられる。

一方で、スポーツ等、家族との団らん、友人との交流については、当てはまると回答する人の方が費やした時間が多くなる傾向が見られる。家族との団らんが親子での地域活動への参加に影響しているとも考えられるし、地域活動と一緒に参加することで団らんの機会も増えるということも考えられる。また、友人との交流についても、普段交流している友人が参加することがきっかけとなって自分も親と一緒に参加するようになる可能性のほか、地域活動に参加している他の親子との交流により新しい友人との交流が生まれているとも考えることも可能である。このように因果関係は明らかではないが、家族や友人との直接的な交流は親子での地域活動への参加と関わりがあると考えられる。

表 30. 子どもの頃の余暇の使い方と子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験

	テレビ (N=6946)	ファミコン等 のテレビ ゲーム (N=4549)	パソコン・ス マホ(イン ターネット) (N=3069)	スポーツ等 (野外での 活動) (N=7259)	家族との団 らん (N=7402)	友人との交 流 (N=7415)
全くあてはまらない	3.480	2.931	2.596	2.760	3.176	3.489
あまりあてはまらない	3.352	2.832	2.562	3.101	3.409	3.568
どちらともいえない	3.264	2.821	2.732	3.017	3.311	3.405
ややあてはまる	3.405	2.782	2.497	3.291	3.747	3.841
よくあてはまる	3.433	2.757	2.487	3.646	3.977	4.111

③ 子どもの頃の地域活動経験の決定要因の定量分析

どのような要因が子どもの頃の地域活動体験を促進するのかをより詳細に把握するため、子どもの頃の地域活動体験を被説明変数とし、子ども本人の基本的な属性（性別、生まれた年代、性格（楽観主義、人間を超えた力への感謝、信心深さ）、時間選好率、リスク態度、学歴（子どもの頃に勉強に多くの時間を費やしていたかをみるための代理変数）、子供の頃の余暇の過ごし方のほか、親の属性を考慮した推定を行った（表 31（推定結果 6））。

この結果をみると、両親のソーシャル・キャピタルの高さは、子どもの地域活動体験に有意にプラスの影響を与えている。また、両親の地域活動への参加や地域外でのボランティア活動への参加も有意な結果となっている。また、両親祖父母がともに同居している場合（3世代同居）ダミーを考慮すると、問 16 項目 1「子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加する際に一緒に参加して育った。」については、5%の有意水準で有意にプラスとなった。このことは、推定結果 5-3 の結果とも整合的であり、地域資源の共有意識の形成には3世代での同居が一定の効果を持つと考えられる。

また、子ども頃の余暇の過ごし方についてみると、「テレビ」については有意にマイナスとなり、「スポーツ等（野外での活動）」や「家族との団らん」については有意にプラスとなった。

「テレビ」が有意にマイナスとなるのは、前述の考察とは異なる結果であるが、Putnam(2000)

が米国においてソーシャル・キャピタルが低下している要因の一つとしてテレビをあげていることを踏まえると、テレビに時間を費やすことについてはソーシャル・キャピタルと何らかの関係があることを示しているのかもしれない。また、「ファミコン等のテレビゲーム」「パソコン・スマホ（インターネット）」については有意な結果にはなっていない。

表 31. 推定結果6（子供の頃の地域活動経験）

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
被説明変数	子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加する際に一緒に参加して育った。	子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加する際に一緒に参加して育った。	子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加しているのを見て育った。	子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加しているのを見て育った。	子供の頃、家庭内で地域活動に参加することの大切さを学ぶ機会があった。	子供の頃、家庭内で地域活動に参加することの大切さを学ぶ機会があった。
女性ダミー	0.115 (0.037) ***	0.119 (0.038) ***	0.095 (0.037) ***	0.089 (0.039) **	0.058 (0.037)	0.053 (0.039)
〔生年 (base: 1970年代)〕						
1930年代生まれ	-0.395 (0.130) ***	-0.207 (0.174)	0.050 (0.121)	0.177 (0.172)	0.038 (0.132)	0.340 (0.169) **
1940年代生まれ	-0.134 (0.058) **	-0.138 (0.062) **	-0.098 (0.059) *	-0.095 (0.064)	0.027 (0.058)	0.040 (0.064)
1950年代生まれ	-0.003 (0.048)	-0.034 (0.053)	0.016 (0.049)	-0.005 (0.052)	0.019 (0.049)	0.028 (0.053)
1960年代生まれ	0.019 (0.048)	0.012 (0.050)	0.021 (0.048)	0.022 (0.050)	0.078 (0.048)	0.096 (0.051) *
1980年代生まれ	0.085 (0.051) *	0.123 (0.054) **	0.063 (0.052)	0.087 (0.055)	0.040 (0.052)	0.043 (0.056)
1990年代生まれ	0.148 (0.101)	0.281 (0.123) **	0.037 (0.102)	0.181 (0.120)	0.091 (0.108)	0.169 (0.131)
楽観主義	0.032 (0.009) ***	0.029 (0.009) ***	0.022 (0.009) **	0.017 (0.009) **	0.034 (0.009) ***	0.029 (0.009) ***
人間を越えた力への感謝	0.046 (0.020) **	0.036 (0.021) *	0.062 (0.020) ***	0.061 (0.021) ***	0.044 (0.021) **	0.038 (0.022) *
信心深さ	0.081 (0.018) ***	0.080 (0.019) ***	0.062 (0.018) ***	0.055 (0.018) ***	0.128 (0.018) ***	0.122 (0.019) ***
時間選好率	0.050 (0.035)	0.060 (0.036) *	-0.022 (0.035)	-0.011 (0.036)	-0.010 (0.036)	0.003 (0.037)
リスク態度	0.042 (0.044)	0.028 (0.047)	-0.051 (0.045)	-0.055 (0.049)	0.024 (0.045)	0.028 (0.048)
3世代同居ダミー	0.094 (0.045) **	0.114 (0.048) **	0.057 (0.045)	0.093 (0.048) *	0.056 (0.044)	0.081 (0.047) *
〔子どもの頃の余暇の過ごし方〕						
テレビ	-0.119 (0.036) ***	-0.139 (0.038) ***	-0.080 (0.036) **	-0.088 (0.038) **	-0.158 (0.036) ***	-0.166 (0.038) ***
ファミコン等のテレビゲーム	0.062 (0.049)	0.043 (0.051)	0.054 (0.049)	0.046 (0.051)	0.087 (0.049) *	0.071 (0.051)
パソコン・スマホ(インターネット)	-0.058 (0.056)	-0.033 (0.060)	-0.150 (0.056) ***	-0.125 (0.059) **	-0.068 (0.058)	-0.037 (0.061)
スポーツ等(野外での活動)	0.082 (0.037) **	0.104 (0.038) ***	0.066 (0.037) *	0.075 (0.038) **	0.069 (0.037) *	0.093 (0.038) **
家族との団らん	0.154 (0.041) ***	0.162 (0.043) ***	0.139 (0.041) ***	0.152 (0.043) ***	0.167 (0.042) ***	0.182 (0.043) ***
友人との交流	0.015 (0.044)	0.033 (0.046)	0.007 (0.044)	0.025 (0.046)	-0.028 (0.044)	-0.027 (0.046)
〔学歴 (base: 高卒)〕						
高卒未満ダミー	-0.102 (0.109)	-0.048 (0.118)	-0.215 (0.116) *	-0.149 (0.123)	-0.151 (0.119)	-0.079 (0.124)
専門学校卒ダミー	0.055 (0.061)	0.035 (0.064)	0.034 (0.061)	0.026 (0.065)	0.022 (0.061)	0.007 (0.065)
短大・高専卒ダミー	0.082 (0.057)	0.091 (0.059)	0.026 (0.057)	0.038 (0.060)	0.166 (0.058) ***	0.185 (0.060) ***
大卒以上ダミー	0.053 (0.037)	0.080 (0.040) **	-0.011 (0.038)	0.004 (0.041)	0.051 (0.038)	0.038 (0.041)
〔両親・祖父母〕						
人を信頼する傾向があったか	0.163 (0.020) ***	0.151 (0.020) ***	0.154 (0.020) ***	0.141 (0.021) ***	0.174 (0.020) ***	0.163 (0.021) ***
近所の人とのつきあい	0.089 (0.025) ***	0.088 (0.027) ***	0.093 (0.026) ***	0.091 (0.028) ***	0.070 (0.026) ***	0.077 (0.028) ***
地域活動への参加	0.273 (0.022) ***	0.288 (0.023) ***	0.447 (0.023) ***	0.460 (0.024) ***	0.243 (0.022) ***	0.261 (0.022) ***
地域外でのボランティア活動への参加	0.087 (0.021) ***	0.092 (0.021) ***	0.048 (0.021) **	0.050 (0.021) **	0.153 (0.020) ***	0.160 (0.021) ***
スポーツ・趣味・娯楽活動	0.057 (0.021) ***	0.054 (0.022) **	0.059 (0.021) ***	0.065 (0.022) ***	0.048 (0.021) **	0.043 (0.021) **
その他の団体活動	0.020 (0.018)	0.030 (0.018) *	0.029 (0.018)	0.037 (0.018) **	0.046 (0.018) ***	0.051 (0.018) ***
人助けに対する意識	0.021 (0.029)	0.035 (0.030)	0.052 (0.029) *	0.057 (0.031) *	0.079 (0.030) ***	0.100 (0.032) ***
〔両親との年齢差〕						
父親との年齢差		-0.002 (0.004)		0.004 (0.004)		0.004 (0.004)
母親との年齢差		0.002 (0.004)		-0.004 (0.004)		0.000 (0.004)
〔父親の学歴 (base: 高卒)〕						
高卒未満ダミー		0.044 (0.044)		0.051 (0.043)		-0.013 (0.044)
専門学校卒ダミー		-0.030 (0.114)		-0.072 (0.112)		0.037 (0.120)
短大・高専卒ダミー		0.101 (0.104)		0.046 (0.101)		-0.003 (0.107)
大卒以上ダミー		-0.059 (0.048)		-0.035 (0.048)		-0.062 (0.049)
〔母親の学歴 (base: 高卒)〕						
高卒未満ダミー		-0.061 (0.044)		-0.080 (0.043) *		-0.071 (0.044)
専門学校卒ダミー		-0.061 (0.093)		0.060 (0.091)		-0.089 (0.090)
短大・高専卒ダミー		-0.043 (0.066)		-0.045 (0.069)		0.097 (0.067)
大卒以上ダミー		-0.030 (0.069)		-0.049 (0.070)		0.061 (0.070)
〔父親の就業形態 (base: 勤め人)〕						
就業なし		-0.083 (0.057)		-0.033 (0.058)		0.000 (0.059)
自営業主		0.015 (0.047)		0.016 (0.047)		0.027 (0.047)
自由業者		-0.061 (0.127)		-0.075 (0.116)		0.023 (0.126)
家族従業者		0.466 (0.153) ***		0.371 (0.158) **		0.322 (0.164) **
在宅就労・内職		0.074 (0.208)		0.107 (0.227)		0.081 (0.157)
委託労働・請負		-0.324 (0.214)		-0.289 (0.251)		-0.032 (0.214)
〔母親の就業形態 (base: 勤め人)〕						
就業なし		-0.022 (0.036)		-0.004 (0.037)		-0.008 (0.037)
自営業主		-0.049 (0.068)		0.029 (0.069)		0.048 (0.069)
自由業者		0.036 (0.247)		-0.176 (0.223)		0.113 (0.243)
家族従業者		0.050 (0.083)		0.102 (0.080)		0.068 (0.082)
在宅就労・内職		-0.154 (0.119)		-0.116 (0.124)		-0.183 (0.113)
委託労働・請負		0.121 (0.146)		0.179 (0.159)		0.102 (0.173)
cut1	1.671 (0.124) ***	1.663 (0.164) ***	1.955 (0.126) ***	2.002 (0.166) ***	1.912 (0.133) ***	2.085 (0.169) ***
cut2	2.569 (0.126) ***	2.575 (0.166) ***	2.866 (0.129) ***	2.935 (0.168) ***	2.821 (0.135) ***	3.013 (0.171) ***
cut3	3.557 (0.130) ***	3.567 (0.170) ***	3.910 (0.134) ***	3.960 (0.172) ***	4.192 (0.143) ***	4.397 (0.177) ***
cut4	5.051 (0.141) ***	5.081 (0.179) ***	5.455 (0.145) ***	5.537 (0.182) ***	5.635 (0.156) ***	5.865 (0.189) ***
pseudo R-sq	0.103	0.111	0.144	0.151	0.129	0.139
N	5102	4702	5102	4702	5102	4702

注 1) (1)～(6)列はすべて順序プロビットによる推定。

注 2) () 内は、グループ内（市区町村）の相関に頑健なクラスタロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

また、(2)列、(4)、(6)列では、父親と母親との年齢差、学歴、就業形態を考慮した推定を行っ

ている。母親が高卒未満である場合に有意にマイナス、父親が就業なしの場合に有意にマイナスとなるが、それ以外の変数についてはほとんど有意な結果にはなっておらず、子どもの頃の余暇の過ごし方の結果については(1)、(3)、(5)列の結果とほぼ同様である。

以上の結果も、子どもの地域活動体験に対しても両親・祖父母のソーシャル・キャピタルが影響を与えており、それは親の属性を考慮してもその結果は変わらないことを示している⁽¹⁾。ただし、両親・祖父母のソーシャル・キャピタルが高いと子どものソーシャル・キャピタルも高くなることから、子ども自身のソーシャル・キャピタルの高さが地域活動への参加経験に影響している可能性もあることには留意する必要がある。

④ 子どもの頃の活動参加がその後に与える影響

子どもの頃にどのような活動に参加していたかは、その人自身の若年期からの向社会性や人との交流経験を反映していると考えられ、この点を考慮することで、若年期における行動が大人になってからの他人への信頼、互酬性の意識、地域資源の共有意識をどれだけ予測できるかを分析することが可能となる。

そこで、ここでは、中学生頃までの活動経験を説明変数として考慮した場合の推定を行う。29年度アンケートにおいては、問22「あなたの中学生頃までの経験についてお聞きします。以下の活動に自ら進んで参加していましたか。」という設問を設けており、項目1「クラブ活動」、項目2「生徒会や委員会活動」、項目3「ボーイスカウトやガールスカウト」、項目4「宗教活動」、項目5「子ども会等の地域活動」の5つの活動について質問している。ここでは、「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答した人を1とするダミー変数を作成して、これを説明変数に追加して推定を行った。また、これまでと同様にそれぞれの指標ごとに両親・祖父母からの影響を考慮するとともに、すべての指標について子どもの頃の地域活動経験を説明変数として考慮している。これは、子どもの頃の地域活動経験が、大人になってからの他人への信頼や互酬性の意識に影響を与えているかどうかを確認するためである。

推定結果(表32)をみると、「子ども会等の地域活動」については、他人への信頼、互酬性の意識、地域資源の共有意識のすべてについて有意にプラスとなった。互酬性の意識に対しては、ボーイスカウトやガールスカウトへの参加が有意にプラスの結果となっている。これは、ボーイスカウトやガールスカウトの活動趣旨から鑑みても納得のいく結果である。地域資源の共有意識に対しては、クラブ活動や生徒会や委員会活動についても有意な結果が得られている。

他の変数についてみると、中学生頃の活動参加を考慮しても両親や祖父母からの影響は有意なままであり、両親・祖父母からの継承についての結果の頑健性が確認できる。今回すべての指標について追加した子どもの頃の地域活動経験は、地域資源の共有意識に対しては有意な影響があるものの、信頼や互酬性の意識に対しては有意な結果とはなっていない。このため、子どもの頃の地域活動経験は、信頼や互酬性の意識には直接影響しないものの地域資源の共有意識の形成には直接的に影響する要因と考えることができる。また、子どもの頃の地域活動経験は、両親との関係での地域活動経験であり、両親とは関係なく自主的に地域活動に参加するということも考えられる。子ども会等の地域活動への積極的参加が有意な結果となっているのは、この点の違いが反映されていると考えることができ、子ども自身が主体的に子ども会等へ参加することも他人への信頼、互酬性の意識、地域資源の共有意識の形成に寄与するものであると考えられる。

表 32. 推定結果7（中学生の頃までの活動）

被説明変数	(1)		(2)		(3)	
	他人への信頼		互酬性の意識		地域資源の共有意識	
女性ダミー	-0.085	(0.045) *	0.072	(0.027) ***	-0.041	(0.019) **
年齢	-0.003	(0.012)	0.002	(0.007)	-0.035	(0.005) ***
年齢二乗	0.000	(0.000)	0.000	(0.000)	0.000	(0.000) ***
配偶者ありダミー	0.079	(0.069)	0.092	(0.042) **	0.018	(0.025)
離婚ダミー	-0.049	(0.105)	0.131	(0.064) **	-0.010	(0.042)
死別ダミー	-0.239	(0.166)	0.074	(0.093)	-0.030	(0.057)
子どもダミー	0.097	(0.060)	0.000	(0.035)	0.038	(0.023) *
持家ダミー	0.053	(0.053)	0.031	(0.031)	0.061	(0.020) ***
楽観主義	0.125	(0.011) ***	0.050	(0.006) ***	0.029	(0.004) ***
人間を越えた力への感謝	0.119	(0.026) ***	0.064	(0.015) ***	0.077	(0.010) ***
信心深さ	0.044	(0.023) *	0.077	(0.013) ***	0.037	(0.008) ***
時間選好率	-0.063	(0.048)	-0.090	(0.026) ***	0.010	(0.017)
リスク態度	0.035	(0.061)	0.163	(0.032) ***	0.196	(0.024) ***
両親・祖父母の信頼	0.343	(0.024) ***				
両親・祖父母の人助けの意識			0.245	(0.021) ***		
人助けに関する家庭内経験			0.053	(0.021) ***		
他人への信頼					0.066	(0.006) ***
互酬性の意識					0.197	(0.010) ***
子どもの頃の地域活動経験	0.031	(0.024)	0.009	(0.020)	0.080	(0.009) ***
〔学歴(base: 高卒)〕						
高卒未満ダミー	-0.341	(0.161) **	-0.038	(0.103)	0.065	(0.068)
専門学校卒ダミー	-0.077	(0.075)	-0.028	(0.045)	0.021	(0.028)
短大・高専卒ダミー	-0.079	(0.069)	-0.090	(0.039) **	-0.009	(0.027)
大卒以上ダミー	0.025	(0.049)	-0.024	(0.028)	0.004	(0.019)
〔就業形態(base: 勤め人)〕						
就業なし(学生・主婦・主夫等)	-0.060	(0.054)	-0.098	(0.029) ***	-0.035	(0.020) *
自営業主	-0.219	(0.080) ***	-0.085	(0.047) *	0.018	(0.030)
自由業者	-0.224	(0.143)	-0.096	(0.076)	-0.040	(0.049)
家族従業者	0.278	(0.183)	0.089	(0.125)	0.055	(0.064)
在宅就労・内職	-0.289	(0.211)	-0.158	(0.107)	-0.064	(0.075)
委託労働・請負	0.008	(0.223)	-0.045	(0.106)	-0.172	(0.084) **
〔世帯年収(base: 400～600万円)〕						
0～400万円	-0.041	(0.052)	0.032	(0.030)	-0.053	(0.020) ***
600～1000万円	0.023	(0.055)	0.035	(0.032)	-0.010	(0.022)
1000万円以上	-0.051	(0.077)	-0.041	(0.042)	-0.037	(0.031)
〔世帯金融資産(base: 400～600万円)〕						
0～400万円	-0.068	(0.063)	0.026	(0.035)	-0.044	(0.025) *
600～1000万円	0.042	(0.071)	0.055	(0.041)	-0.029	(0.027)
1000万円以上	-0.005	(0.068)	0.014	(0.039)	-0.005	(0.026)
〔市区町村〕						
高齢者比率	-0.652	(0.490)	0.049	(0.324)	0.516	(0.201) **
DID人口比率	-0.077	(0.077)	0.000	(0.047)	0.087	(0.031) ***
〔中学生頃までの活動〕						
クラブ活動	0.049	(0.047)	-0.019	(0.026)	0.042	(0.017) **
生徒会や委員会活動	0.068	(0.049)	0.016	(0.029)	0.041	(0.019) **
ボーイスカウトやガールスカウト	-0.109	(0.084)	0.100	(0.050) **	-0.011	(0.031)
宗教活動	-0.117	(0.095)	0.028	(0.052)	0.047	(0.037)
子ども会等の地域活動	0.197	(0.047) ***	0.087	(0.027) ***	0.105	(0.018) ***
定数項	2.915	(0.381) ***	1.606	(0.220) ***	2.017	(0.148) ***
Adj R ²	0.171		0.116		0.319	
N	6707		6465		7234	

注 1) (1)～(3)列はすべて最小二乗法による推定。

注 2) () 内は、グループ内（市区町村）の相関に頑健なクラストロバスト標準誤差。***、**、*は、それぞれ 1%、5%、10%の有意水準で有意であることを示す。

⑤ 親子での地域活動参加

どのような地域活動が親子での活動参加を促すのかを検討するため、活動のメンバーと親子での参加意向との関係を確認した。29 年度アンケートでは、地域活動に参加している人に対して、子どもと一緒に活動に参加したいかを質問している（子どものいない人に対してのみ）。この質問への回答と、回答者自身が子どもの頃に地域活動に両親や祖父母と一緒に参加した経験があるか

どうかを聞いた質問とを照らし合わせてみると、子どもの頃に両親や祖父母と一緒に地域活動に参加して育ったと回答する人は、自分も子どもと一緒に地域活動に参加したいと考える傾向がある（表 33、表 34）。このことは、親子での地域活動への参加を促すことは、次の世代における地域活動への親子参加を促すことにもつながることを示唆している。

表 33. 子どもがいる回答者の親子での参加経験の有無

	親子での参加 経験あり	親子での参加 経験なし	合計
同世代型	450 (54.5%)	376 (45.5%)	826
多世代型	1,171 (65.4%)	619 (34.6%)	1,790

表 34. 子どもがいない回答者の親子での参加意向

	親子での参加 意向あり	親子での参加 意向なし	分らない	合計
同世代型	93 (47.2%)	45 (22.8%)	59 (29.9%)	197
多世代型	252 (49.3%)	66 (12.9%)	193 (37.8%)	511

以上の分析を踏まえると、ソーシャル・キャピタルは地域資源の共有意識を高め、それが地域活動への参加につながっていると同時に、子どもとの活動参加にも影響を与える。そして、親との地域活動への共同参加の体験を持った人は、大人になってからも地域資源の共有意識を形成しやすいと考えることができる。

(7) 将来世代への互酬性に関する考察

以下では、将来世代への互酬性の意識に着目し、これとソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識との関係を検討し、これらの全体像についての考察を行った。

平成 28 年度アンケートでは、問 5 項目 1「積極的に地域活動を行って、あとの世代の人たちによりよい地域資源を継承すべきだ。」、問 11 項目 2「子供や孫などの将来世代が、現在自分たちが享受している生活水準や公共サービスを維持するためには、多少なりとも自分たちの負担が増えることは仕方がない。」という設問を設けている。これらの質問は、回答者にとっての将来世代に対する互酬性の意識を問うものである。この将来世代に対する互酬性の意識は、多世代共創を考える際に、重要な要素のひとつと考えられる。自分よりあとに生まれる将来世代には、何かをしてあげても、自分が生きている間に自分への具体的なメリットとなって返ってくる可能性は少ない。にもかかわらず、将来世代のために何かよりよいものを残そう、将来世代の負担を減らそうという意識をもつことは、将来世代への見返りを求めない投資であり、こうした意識が社会に広まることは、多世代共創的活動が持続的に行われるようになるとともに、財政赤字や社会保障費の問題、生物多様性の確保などの地球環境問題の解決にとっても意義のあることと考えられる。

このような将来世代への互酬性の意識は、自分が生きている間に何かよいことが返ってくるという互酬性の意識や地域資源を守りその価値をより高めるためにコミットしようという意識からさらに踏み込んだものであり、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識がその根底にあると考えられる。実際、この将来世代への互酬性と地域資源の共有意識との関係をみてみると、とも正の相関をもつ（相関係数はそれぞれ 0.701、0.467）。また、図 6 は、将来世代への互酬性の意識に対する質問の回答ごとに回答者の地域資源の共有意識の平均を比較したものであるが、これをみると、将来世代への互酬性の意識の高い人は地域資源の共有意識も高く、両者には密接な

つながりがある。

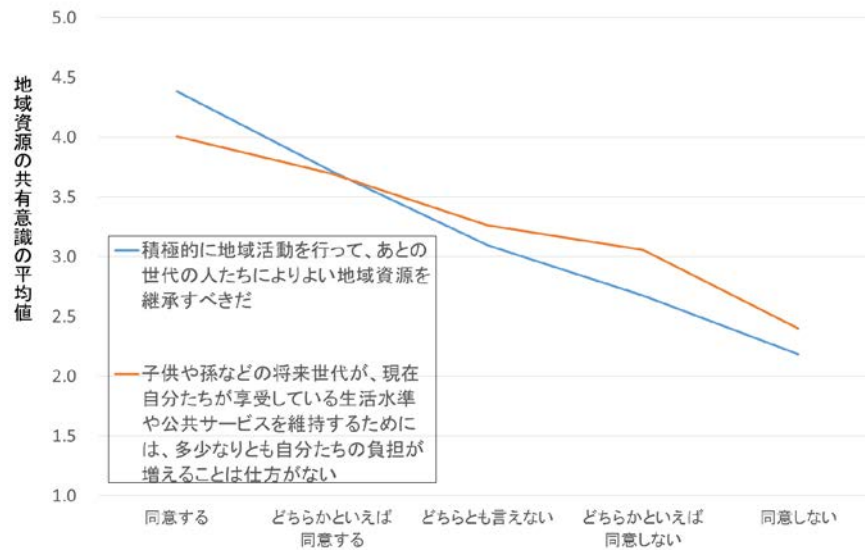


図 6 地域資源の共有意識と将来世代への互酬性との関係

ソーシャル・キャピタル、地域資源の共有意識、将来世代に対する互酬性のそれぞれの意識の関係を総合的に考えるため、共分散構造分析を用いてその相互関係を考える。

これまでの分析により、

○両親・祖父母のソーシャル・キャピタル → 本人のソーシャル・キャピタル

○子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験 → 地域資源の共有意識

という世代間継承に関わるルートのほか、

○ソーシャル・キャピタル → 地域資源の共有意識

○地域資源の共有意識 → 地域活動への参加

という意識と行動の関係が想定される。

また、子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験に関する分析結果を踏まえると、

○両親・祖父母のソーシャル・キャピタル → 子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験

という関係性も想定される。

さらに、地域資源の共有意識は将来世代への互酬性と関連をもち、将来世代への互酬性は、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の中から形成されると想定される。以上のようなソーシャル・キャピタル、地域資源の共有意識、将来世代への互酬性、地域活動と世代間の継承との関係の妥当性を共分散構造分析から確認した。

図 7 は分析結果を示している。 χ^2 検定の結果をみると、モデルが正しいという帰無仮説は 1% の有意水準で棄却されているが、適合度指標をみるとモデルがデータのもつ分散共分散をどの程度説明するかの割合の指標である GFI は 0.859 と 1 に比較的近い。また、一般的に 0.1 を超えてはいけなくとされる RMSEA の値も 0.09 となっていることから、要因間の関係についてはこのモデルによりある程度把握できていると考えられる。

パスごとの関係をみると、

○両親・祖父母のソーシャル・キャピタル

→ 本人の信頼と互酬性の意識

○両親・祖父母のソーシャル・キャピタル

→ 幼少期の家庭内経験（両親・祖父母との地域活動経験、人助けに関する経験）
というパスには強い関係があり、

○信頼と互酬性の意識 → 地域資源の共有意識

○地域資源の共有意識 → 将来世代への互酬性

○地域資源の共有意識 → 地域活動参加

というパスにおいても強い関係があることが示されている。

この結果は、一連の回帰分析の結果とも整合的であり、ソーシャル・キャピタルや地域資源の親子間での継承という経路の重要性をサポートするものである。

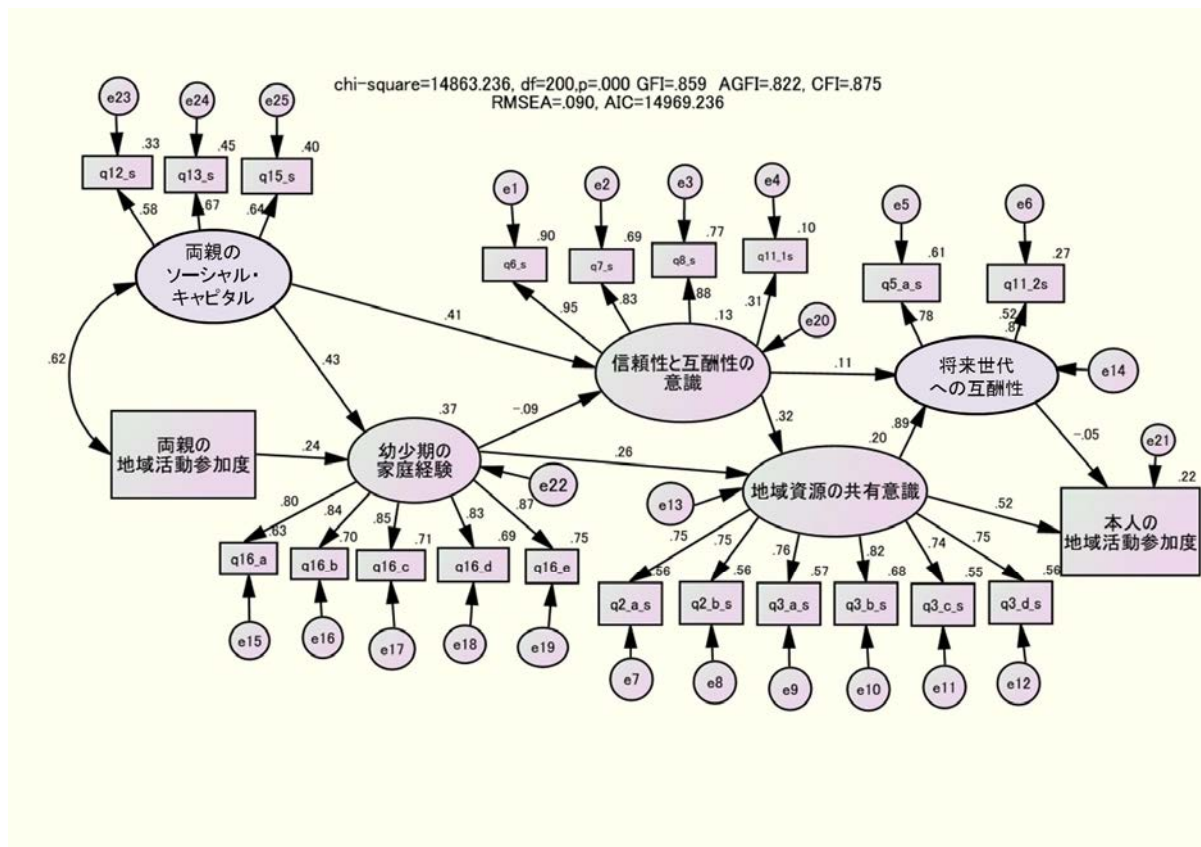


図 7 共分散構造分析の結果

以上の分析結果を踏まえて、ソーシャル・キャピタルの世代間継承、地域資源の共有意識の継承・形成、将来世代への互酬性の形成の関係を整理すると、以下のような関係にまとめることができる。

信頼と互酬性の意識は、両親・祖父母から子どもへと継承される。そして、それぞれがもつ信頼と互酬性の意識は、それぞれの地域資源の共有意識の形成に寄与する。親が地域資源の共有意識を持っている場合、親自身が地域活動に参加する可能性が高まり、そして、そのことは子どもが地域活動経験をもつきっかけとなる。その際、両親・祖父母との同居や家族間でのコミュニケーションの高さは、子どもが地域活動経験を持つようになる促進要因となる。また、地域のソーシャル・キャピタルの高さや、地域の課題の顕在化は、親の地域資源の共有意識を高める要因となることから、こうした要因も子どもの地域活動経験を高める要因となると考えられる。一方、子どもの頃の余暇の使い方として、テレビやパソコン・スマホに多くの時間を費やすことは、地域活動経験を得る機会を損なう可能性があり、地域資源の共有意識の継承を阻害要因となる可能

性がある。また、地域の移動も地域資源の共有意識の形成にはマイナスの影響を与える。しかし、こうした点を考慮しても、子どもの頃の両親・祖父母との地域活動経験は、地域資源の共有意識の形成にとってのプラス要因となっている。このことは、子どもの頃にそうした経験を得ることはその地域を離れたあとでも、新しい居住地において地域資源の共有意識を持つようになる可能性を示しており、いわば「全国どこでも通用する地域マインド」を生み出す要因とも考えることができる。このことは、親子での地域活動への参加等地域活動経験を高めるための取組は、全国的な波及効果をもたらす取組である可能性を示唆している。

また、継承・形成された地域資源の共有意識は、将来世代への互酬性の意識の形成にも寄与する。これらの意識の形成を通じて、持続可能な多世代共創活動が実現しやすい環境が形成されるとともに、将来世代の負担を考慮した意思決定が行われるようになる社会環境の構築につながっていくことが期待される。

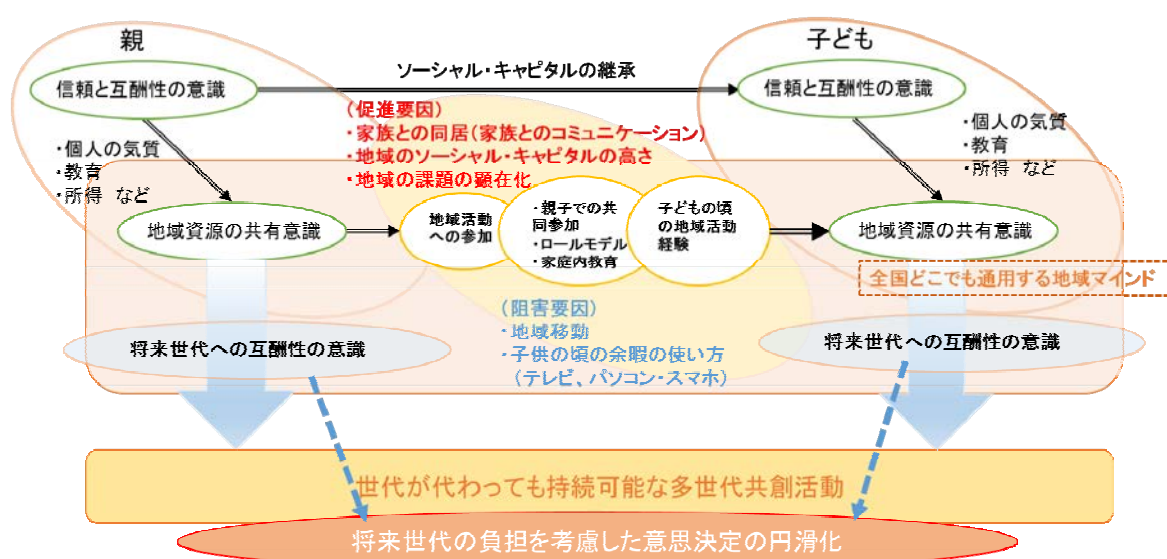


図 8 世代間継承の関係の全体像

3-4-4. 現地ケーススタディ対象市町村の事前調査

滋賀県長浜市（29年1月27日）、宮崎県日南市（29年2月19日）、宮崎県宮崎市（29年2月20日）、岡山県倉敷市（29年3月8日）において行なった事前調査については、地域資源の活用状況や世代間継承に向けた取り組みについて何う内容となったが、うまくいっている地域では、地域資源のなかでも“文化センター、公園、広場などの公共施設・公共空間”等に比べて“まちの暮らしやすさ、治安、賑わい、景観など”を主として重要視していることが明らかとなった。そのほかにも地域に根付く地域の人のDNAが地域資源の活用や継承に影響を与えているのではないかといった見解もみられた。また、これまで多世代交流の場としての役割を担ってきた公民館やカフェ等に現代社会に適した形でのプラスαのコンセプトを掲げた民営の多世代交流施設等の実地調査も行なった。これは若い世代を取り込むための策としても考えられているが、今後はこのような空間・場所についても世代間継承に対して、地域内で影響を与えているのかについて検証することが課題の一つと考えられる。

上記課題を検証するため、29年度においては当初予定していなかった地域を対象とした追加調査を実施した。長野県飯田市（29年9月22日）の調査では、市民参加のDNAを継承する活動を20地区の公民館を中心に行っているとの回答を得た（自治振興の意識が強い）。地区ごとに基

本構想があり、公民館というハード面だけでなく、“公民館活動”という呼び名でソフト面を重要視しているところが注目すべき点であった。さらに活動を行ううえで、上下関係をつくらず、なるべくフラットな関係で組織を動かすこと、高校や中学にも呼びかけて若者の参加を促すとともに地域の活動に主体的に貢献することの意義を、身をもって体験してもらうことが多世代参加を促す成功要因ではないかと考えられている。さらに、徳島県美馬市（29年9月14日）や香川県高松市（29年9月14日）の追加で行った調査によると、小学校から高校までの教育機関と連携し、若者に関心・興味を抱いてもらう教育、啓蒙活動を行っていることがわかった。このように総じて教育機関との協力は非常に重要だとの意見が目立った。

事前調査においては、エリアマネジメント活動の継承がうまくいっていない事例についても情報を収集することを想定していたが、そうした事例に関して関係者にヒアリングを行うことはできなかった。これは活動の継承が行われずに活動が消失してしまった事例については関係者とコンタクトをとることが難しいという点がその主な理由である。しかし、追加ヒアリングでは、活動継承に向けた課題に関する意見も聴取することができた。例えば、高松市の古高松地区では、防災訓練等の活動を中心に地域活動が盛んになっているが、子供や若い世代の訓練への参加意識が低いことや教育機関との連携が活動への多世代参加に向けての課題となっているとの意見が聞かれた。また、教育機関との連携に関しては、飯田市では高校によって意識や熱意の温度差がみられるとの意見が聞かれた。今後は、若い世代の取り込みを学校教育とも連携しながらどのように行っていくかが活動継承に向けた喫緊の課題の一つと考えられる。



写真.3 現地調査（29年9月22日、長野県飯田市）

3-4-5. 現地ワークショップの開催及び住民（簡易）アンケートの実施

（1）現地ワークショップ（研究集会）の実施

現地ワークショップの内、和歌山県御坊市（28年12月4日）では、今後の世代間継承を担う若い世代の流出が激しく、若い世代が集う空間・場所の不足等がそもそもの課題としてあげられた。他地域から流入してきた人材（一時的な訪問も含む）を含めた交流の場所をつくることが必

要だという議論のもと、体験型資料館の設立や SNS による交流等の提案がなされた。

また、29 年 2 月 4 日、和歌山県和歌山市において実施したワークショップでは、エリアマネジメントの専門家による話題提供のほか、「（ソーシャル・キャピタルの世代間継承に向けた）多世代交流の現状・課題・解決策」と題して討議を行なった。ここでは、和歌山県御坊市とは逆の見解がみられ、実際に多世代交流が行われているという地域の事例や生活の中に多世代交流が行われている場所・空間は多くあるといった内容が明らかとなった。また、和歌山県和歌山市にて実施したワークショップの内容については、和歌山大学経済学部地域・国際連携オフィスのホームページ（下記参照）上で公開している。



写真.4 現地ワークショップ（29 年 2 月 4 日、和歌山県和歌山市）

上記を踏まえ、29 年 6 月 11 日に実施した宮崎県宮崎市における現地ワークショップでは、まちづくり活動等の世代間継承に向けた具体的な促進策や体制づくりについて、WEB アンケートや住民（簡易）アンケートの結果を活用しながら、地方自治体担当者を含め討議を行った。



写真.5 現地ワークショップ（29 年 6 月 11 日、宮崎県宮崎市）

和歌山大学経済学部地域・国際連携オフィスホームページ URL：

<https://www.wakayama-u.ac.jp/eco/cpo/news/2017021600056/> （和歌山県和歌山市）

<https://www.wakayama-u.ac.jp/eco/cpo/news/2017082800020/> （宮崎県宮崎市）

(2) 住民（簡易）アンケートの実施

住民（簡易）アンケートについては、ワークショップを開催する地域を対象として実施し、WEBアンケートの調査項目をもとに、設問項目を作成している。WEBアンケートとの主な相違点としては、各種団体を対象とした内容となっており、資金面や人材面といった組織形態についての設問項目を設けている点である。

アンケートは、和歌山県・宮崎県内の NPO 等及び和歌山市内の自治会に対して実施し、NPO 団体については郵送配布・郵送回収、自治会に対しては自治会支所への配布・回収（一部郵送回収）した。主な調査項目は、団体概要、地域資源に対する考え方、団体の活動内容等、活動の継続性、団体の運営形態等である。403 団体へアンケートを配布し、NPO 団体等から 95 団体、自治会からは 95 団体から回答が得られている。

① エリアマネジメント組織の性質と活動の継続可能性

アンケート結果から地域活動を行っている団体の活動資金、議決方法、活動内容、広報手段等）と活動の継続可能性との関係についてその傾向をみてる（図 9）。継続可能性については「貴団体の活動は世代が変わっても継続されると思いますか？」という質問の回答を利用している。まず、活動資金との関係を見ると、自治会については活動資金が「十分にある」と回答している団体では「継続される」が「継続されない」を上回っている。しかし、NPO 団体の場合、「十分でない」と回答する団体のみならず「十分にある」と回答している団体において「継続されない」と回答する団体が「継続される」と回答する団体を上回っている。NPO 団体の場合、目的達成により組織を解散するケースもあるため、収入があること自体は重要であっても、それがそのまま継続可能性につながるわけではないのかもしれない。

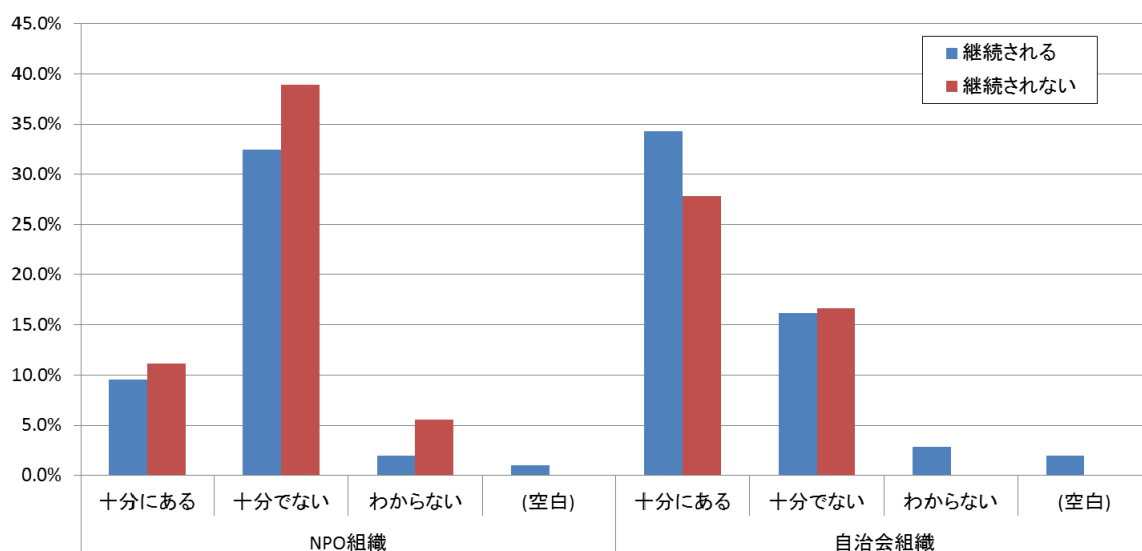


図 9 活動資金と継続可能性（NPO団体：n=95、自治会：n=95）

次に、組織としての意思決定方式との関係を見てみると、NPO 団体と自治会の双方で多数決方式をとっている団体が多い（図 10）。また、多数決という意思決定方法については NPO 団体、

自治会を問わず「組織の継続」が「継続しない」を上回っている点が共通している。このため、意思決定方式としては多数決方式が組織の継続性に関連している可能性がある。一方、「全会一致」については結果が異なっており、NPO 団体では全会一致方式を採用している団体は「継続されない」を選択している方が多いのに対し、自治会組織では全会一致方式を採用している団体はすべて「継続される」と回答している。この理由としては組織としての脆弱性の差異が考えられる。

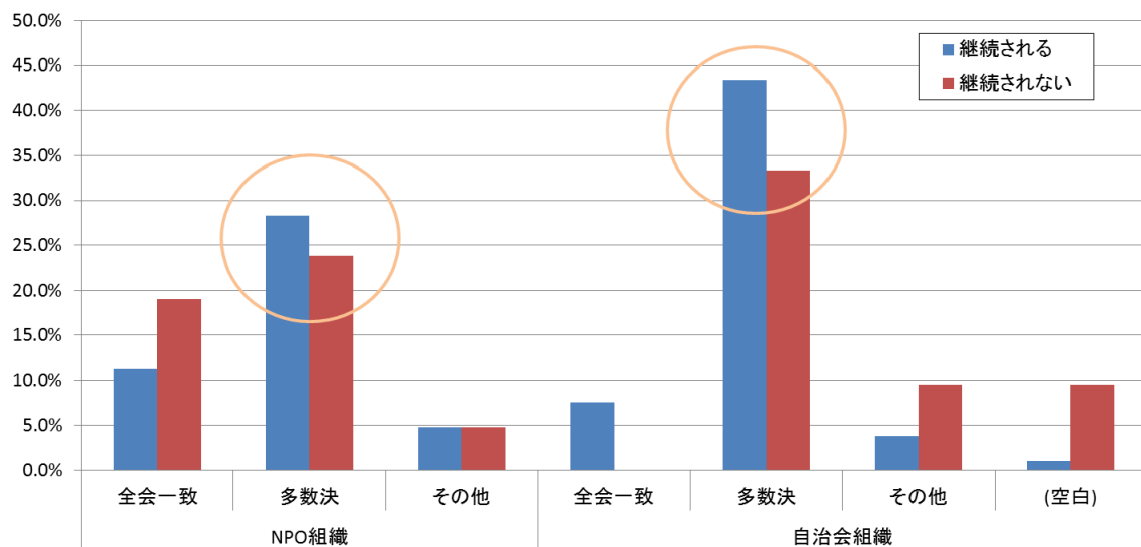


図 10 意思決定方式と継続可能性 (NPO団体 : n=95、自治会 : n=95)

NPO 団体は比較的新しい組織であり、組織に入って初めて知り合う人も多く、またメンバーをやめることも比較的容易であると考えられる。このため、全会一致方式は活動の継続可能性にとっては必ずしもプラスに影響しないかもしれない。一方、自治会はその地域の住人による団体であり、意思決定に齟齬が生じると近所関係もぎくしゃくしかねない。よって、全会一致が、組織の継続に「望ましい」意思決定形態となっている可能性が考えられる。

組織の活動内容との関係をみてみると、NPO 団体においては「地域や社会に対しての貢献」という内容の活動内容、また自治会においては「会員の互助・親睦や交流活動」がそれぞれ「継続される」が「継続されない」を下回っている (図 11)。NPO 団体の場合、活動の目的や活動内容が明確化されており、いわゆる「地域貢献活動」は継続的に個人が長い期間やるものではなく、課題が解決されるまでの間行われればよい、との認識から来るのかもしれない。一方、自治会は、そもそも地縁的組織であるという性格から、会員の相互の親睦自体に対する活動にそれほど継続性を求めている可能性が考えられる。

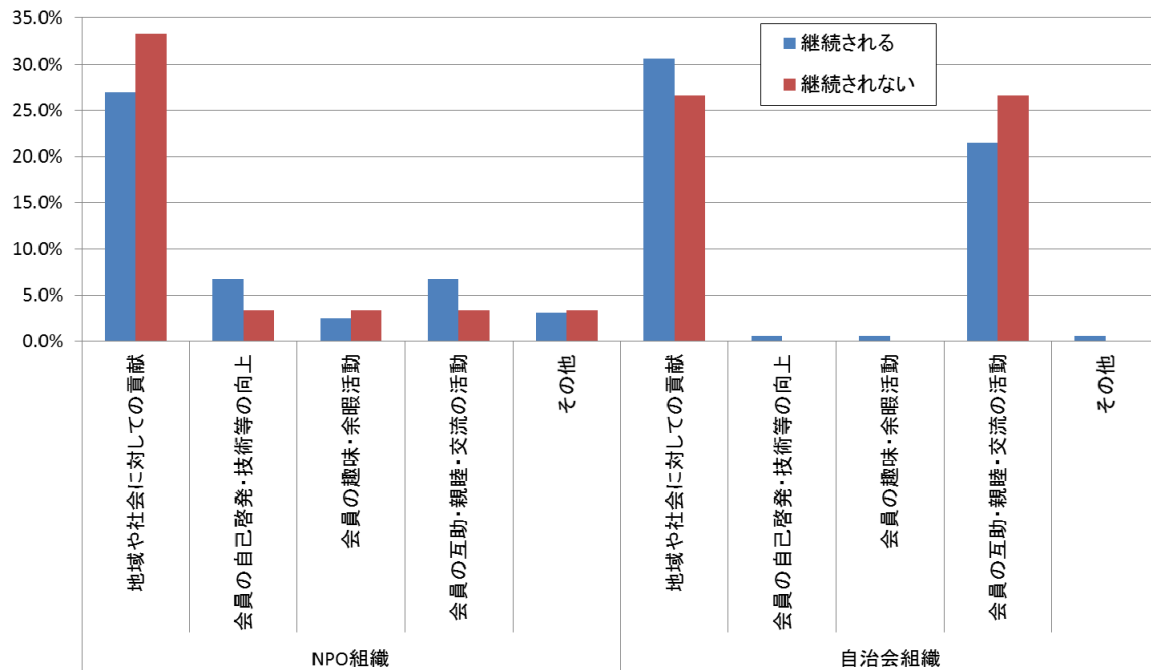


図 11 活動内容と継続可能性 (NPO団体 : n=95、自治会 : n=95)

広報手段との関係をもてみると、NPO 団体では「ホームページ」が主要な広報手段となっている (図 12)。「Facebook」に関しては、NPO 団体では「継続」と多くが回答しているのに対し、自治会は「継続しない」が多数となっている。また NPO 団体は「LINE」を除く多くの SNS などの手法で「継続する」が多数となっており、自治会の場合もこの傾向に変わりはない。これは、どちらの組織においても、こうした SNS 手法が、ある程度定着をしている証左と考えられ、情報発信の方法自体は、活動の継続可能性とは関係がないように思われる。

さらに、多様な世代の参加が活動の継続可能性と関連するかどうかをみるため、多様な世代の参加状況との関係 (問「貴団体の活動には多様な世代が参加しておられますか?」) をみてみると、NPO 団体、自治会を問わず多様な世代が「参加している」と回答する団体の方が「継続される」の回答が多くなっている (図 13)。特に自治会では多様な世代が参加していると回答している団体のすべてが「継続される」と回答しており、若者を含めた多様な世代の参加が組織の継続性を決める重要な要因となっていると考えられる⁽²⁾。

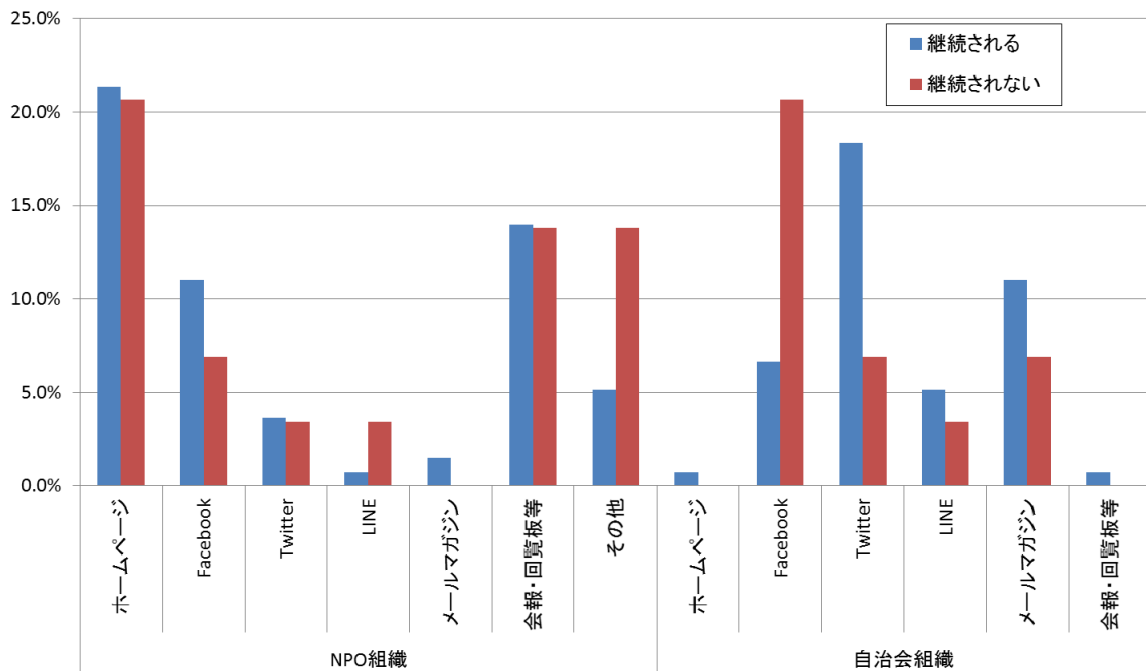


図 12 情報発信と継続可能性 (NPO団体 : n=95、自治会 : n=95)

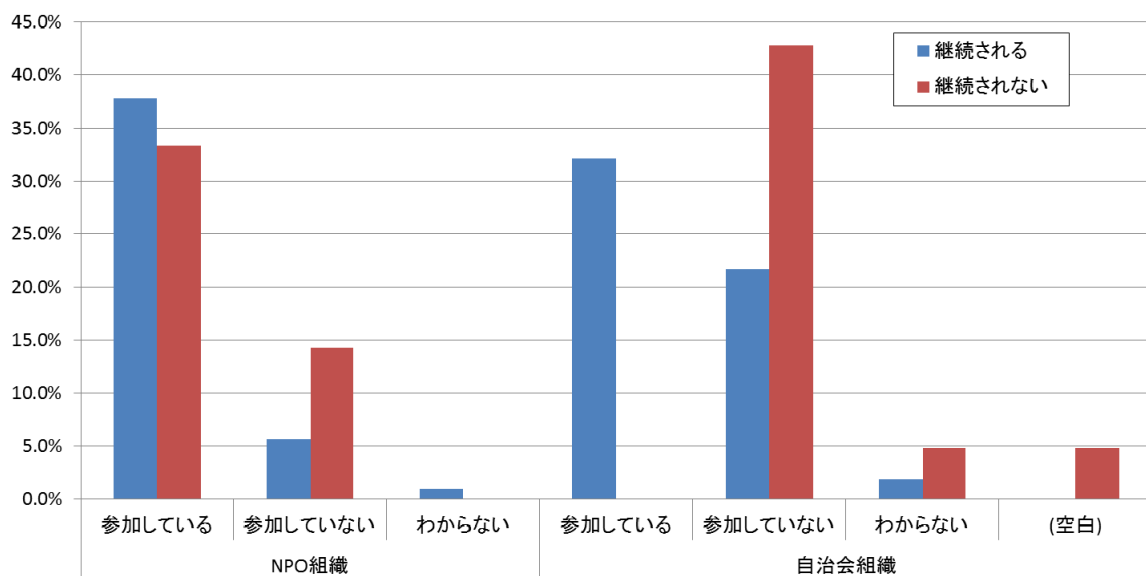


図 13 多様な世代の参加と継続可能性 (NPO団体 : n=95、自治会 : n=95)

また、会員の主な年齢層との関係でみると、「すべての年齢層にわたっている」と回答したケースでは「継続する」と回答する団体が圧倒的に多い (図 14)。NPO 団体では 30 歳代、40 歳代層が中心の場合「継続されない」が多数となっているが、自治会はこの年代が中心の組織は「継続される」が多数となっている。これは、NPO 団体と地縁組織である自治会との会の性質の差異によるものと考えられる。地縁的な性格をもつ自治会では若い層が活動に参加していることが継続可能性に大きな影響を与えている。

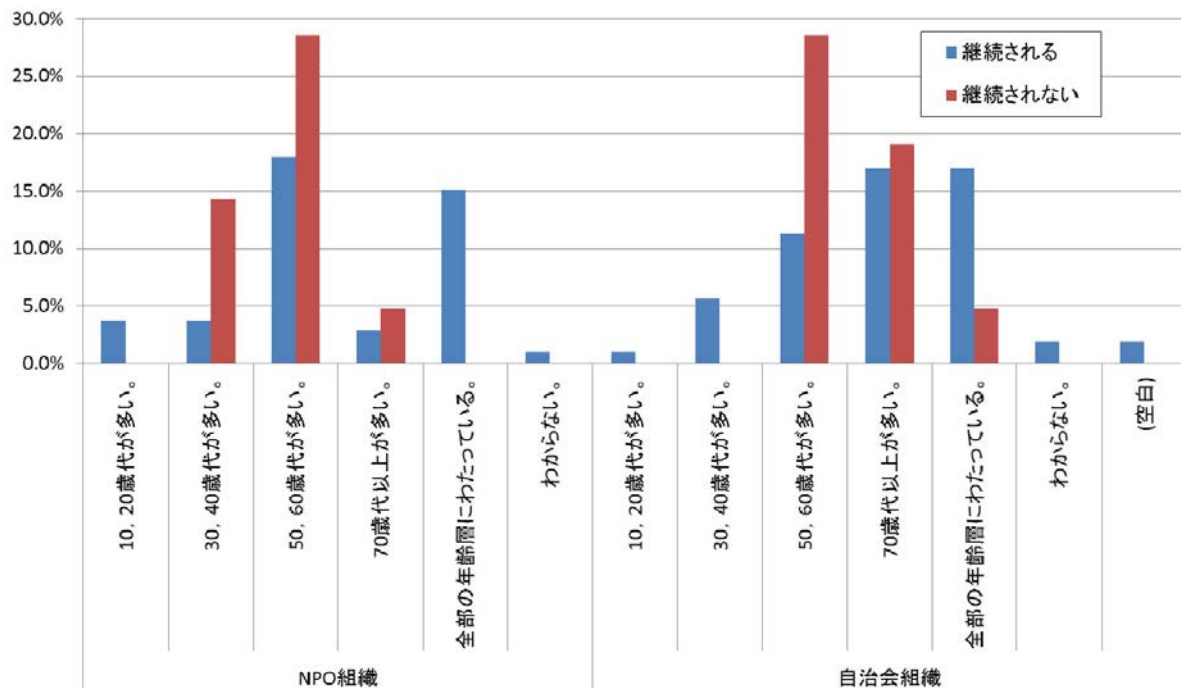


図 14 活動参加者の年代と継続可能性 (NPO団体 : n=95、自治会 : n=95)

以上の結果を踏まえると、組織運営の観点からは議決方法は「継続」との関連があり、多数決方式が継続可能性にプラスに寄与している可能性がある。ここでは議決の方法でみているが、組織の意思決定の方法に現れるような団体内の雰囲気や体制が継続可能性と関連しているのかもしれない。また、情報発信の方法に関しては継続可能性との間に明確な関係はみられないが、多様な世代の参加は、継続可能性を高める要因となると考えられる。

②多様な世代の参加につながる要因

アンケートでは、多様な世代が参加していると回答した団体に対して、その理由として考えられることを質問している（複数回答）。団体別にみると、NPO 団体では、「活動内容に魅力がある」がもっとも高く、次いで「活動内容が地域に認知されている」となっている。自治会では、「活動内容が地域に認知されている」がもっとも高く、次いで「参加しやすい日時に活動がある」となっている。

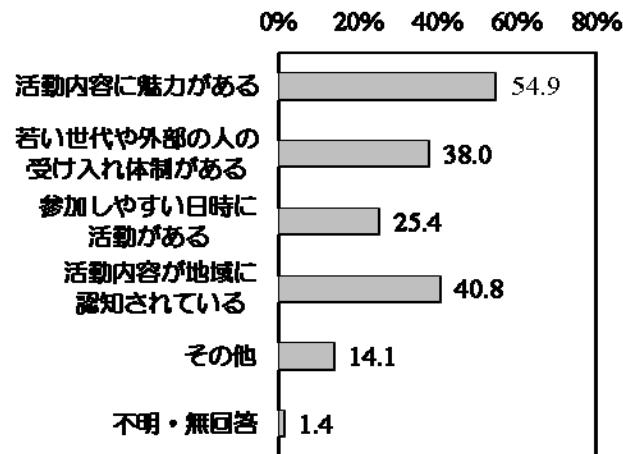


図 15 多様な世代が参加している理由（NPO団体、n=71）

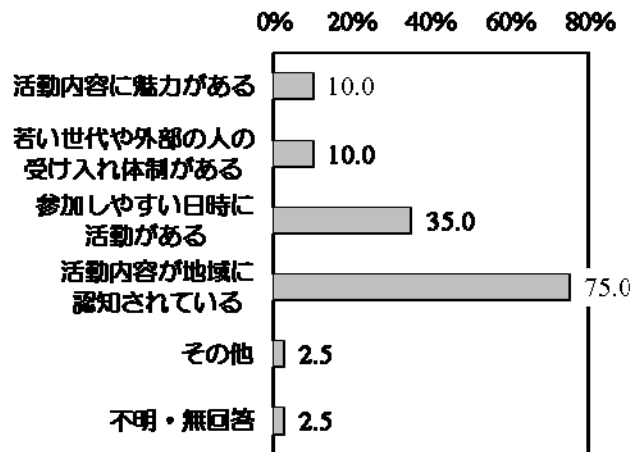


図 16 多様な世代が参加している理由（自治会、n=40）

逆に、多様な世代が参加していない団体にその理由を聞くと、NPO 団体では「その他」が最も多く次いで「活動内容が地域に認知されていない」となっており、自治会では「そもそも地域に若い人がいない」が最も多く、次いで「活動内容に魅力がない」となっている。

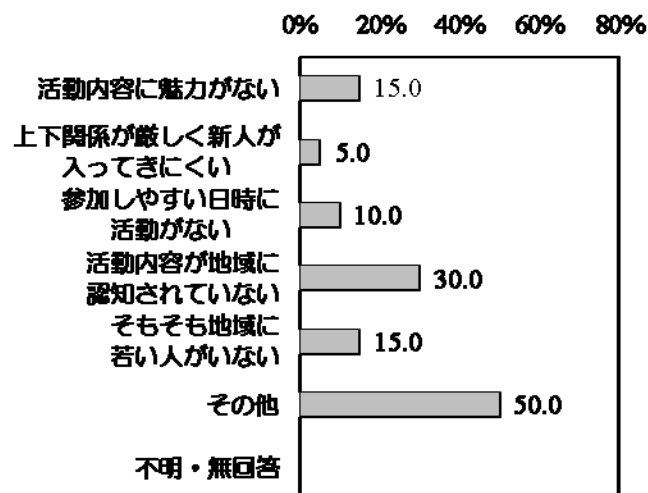


図 17 多様な世代が参加していない理由（NPO団体、n=20）

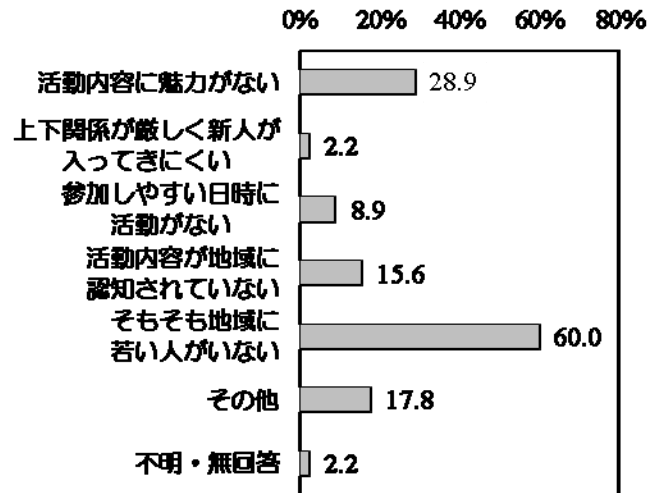


図 18 多様な世代が参加している理由（自治会、n=45）

組織の属性との関係で、どのような組織において多様な世代が参加しているのかをみる。活動年数との関係でみると、NPO 団体に関しては 10 年以上継続している組織の多数が「多世代が参加している」が「参加していない」を上回っている（図 19）。この結果からだけでは因果関係は不明であるが、この結果も多世代型と継続可能性の関係が伺える。一方で、自治会に関しては「55 年継続している組織」を除いて「参加していない」が「参加している」を上回るという結果となった。和歌山市内の自治会の多くではもともと多世代型が少ないために、このような結果になっている可能性が高い。

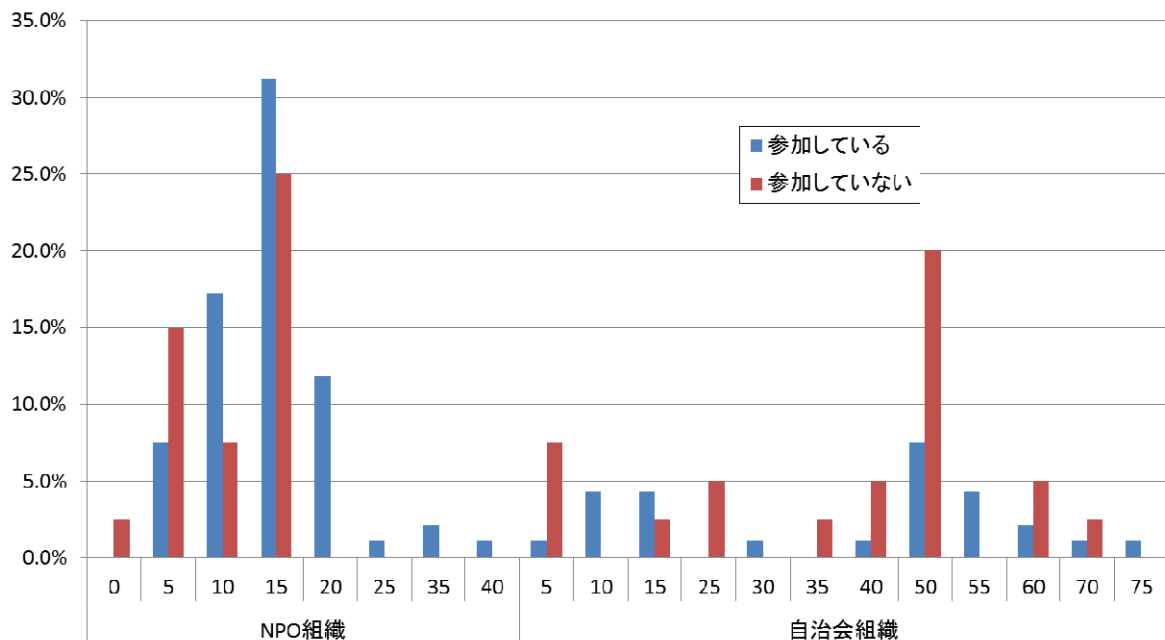


図 19 組織の継続年数と多世代参加の状況

活動内容との関係でみると、NPO 団体については、ほとんどの項目（例：地域や社会に対する貢献）で多様な世代が「参加している」との回答が「参加していない」を上回っている（図 20）。

一方で、自治会についてはほぼすべての分野で「参加していない」が「参加している」を上回った。この結果も、自治会については多様な世代の参加している団体が少ないことがこのような結果につながっている可能性があり、活動内容によって多世代参加のしやすさが変わるかどうかについては明確ではない。

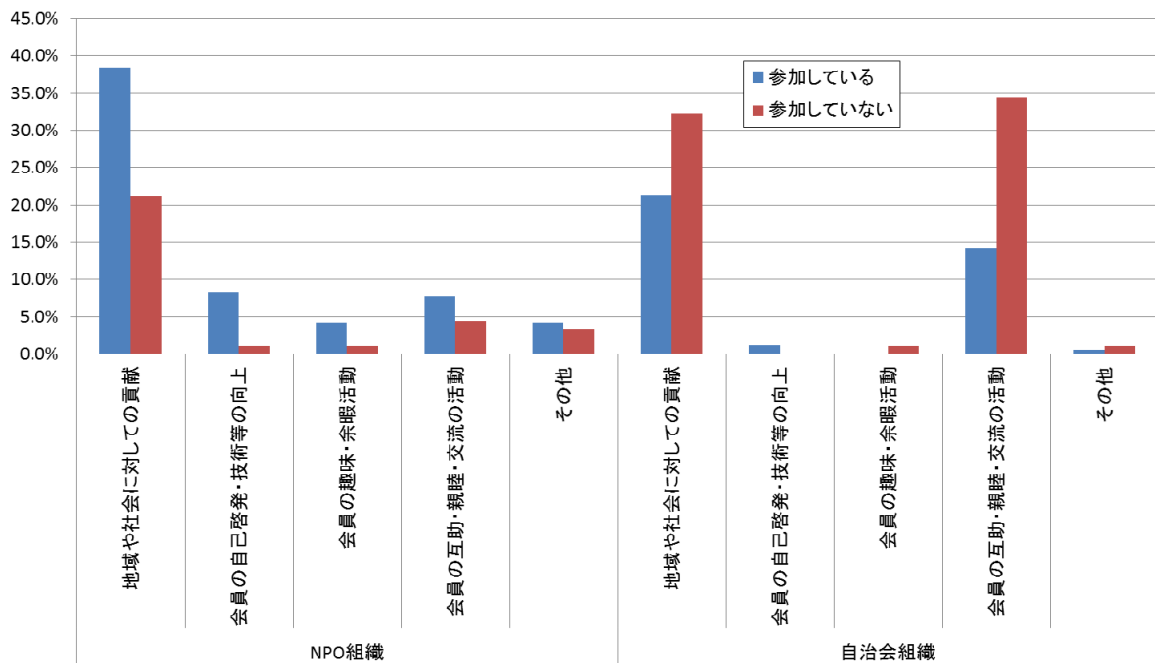


図 20 活動内容と多世代参加の状況

③活動継続の阻害要因

簡易アンケートにおいては、継続が難しいと回答している団体にその理由を回答してもらっている。NPO 団体、自治会別にその回答状況をみると、自治会においては、「次世代を担う若い人材が少ない」が多く、そもそも地域に若い人が少ないことが継続可能性の阻害要因となっている（図 21）。一方、NPO 団体では、「資金の不安定さ」をあげた団体が比較的多くみられた。図 9 でみたように収入が十分にあると回答した団体において継続可能性が高いわけではないが、やはり、活動資金の確保は組織の継続に必要な条件の一つと考えられる。

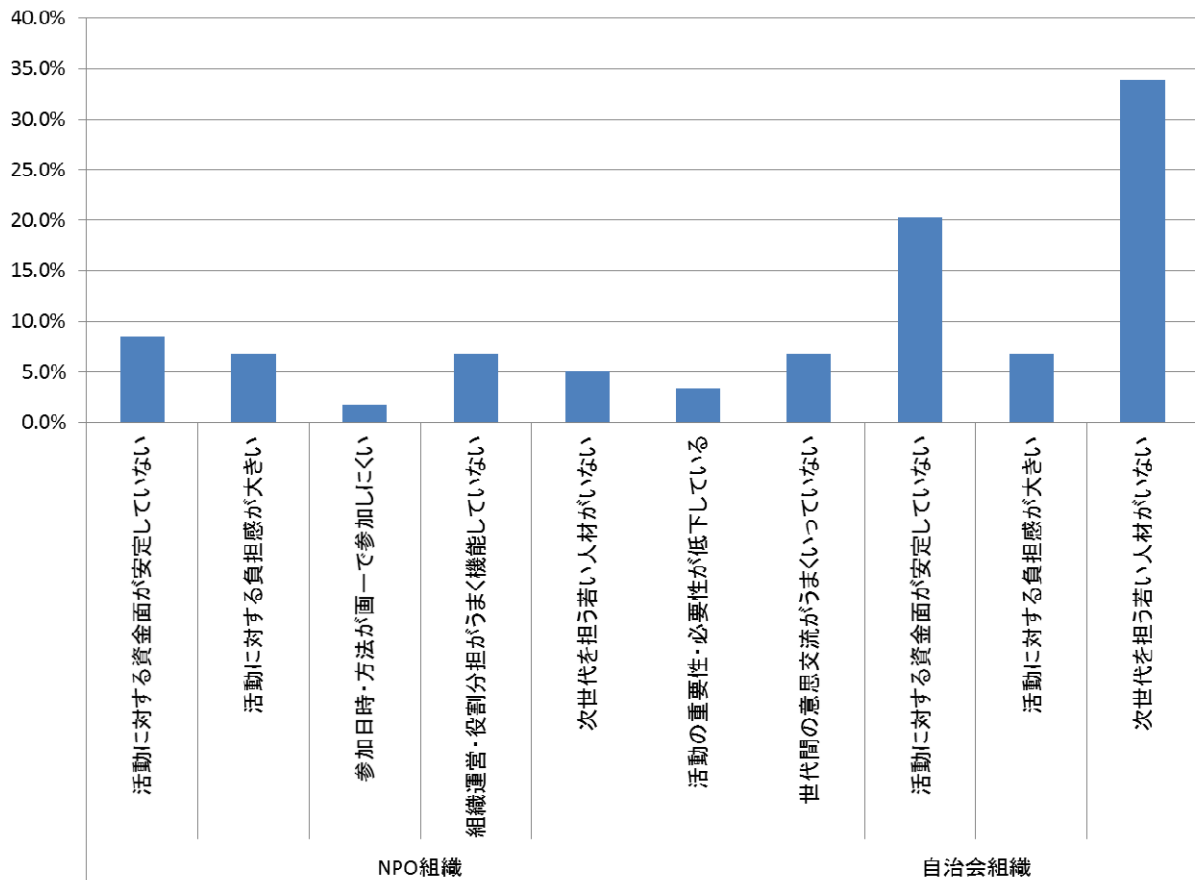


図 21 活動継続が難しい理由

④ 多世代参加と参加のきっかけ

アンケートにおいては、団体の活動に参加している人たちの主な参加のきっかけを質問している（回答は複数回答）。この質問の回答を利用して多世代の参加があると回答している団体における参加者の入会のきっかけをみると、NPO 団体では、「サークル活動として捉え、趣味の一環」が最も多い（図 22）。この結果を踏まえると、多世代型の組織では、サークル的な雰囲気を醸し出している可能性がある。また、「両親やその他の家族の参加」がそれに次いで多くなっている。

自治会に関しては「周辺環境を良くする」「近所づきあいや職場づきあいの一環」「近所の人や地域の人役に立つ（地域貢献）」「両親やその他の家族の参加」の順となっているが、これらの回答に大きな違いは見られない。逆に「多世代が参加していない」組織の入会のきっかけでは、「なんとなく」が突出している。

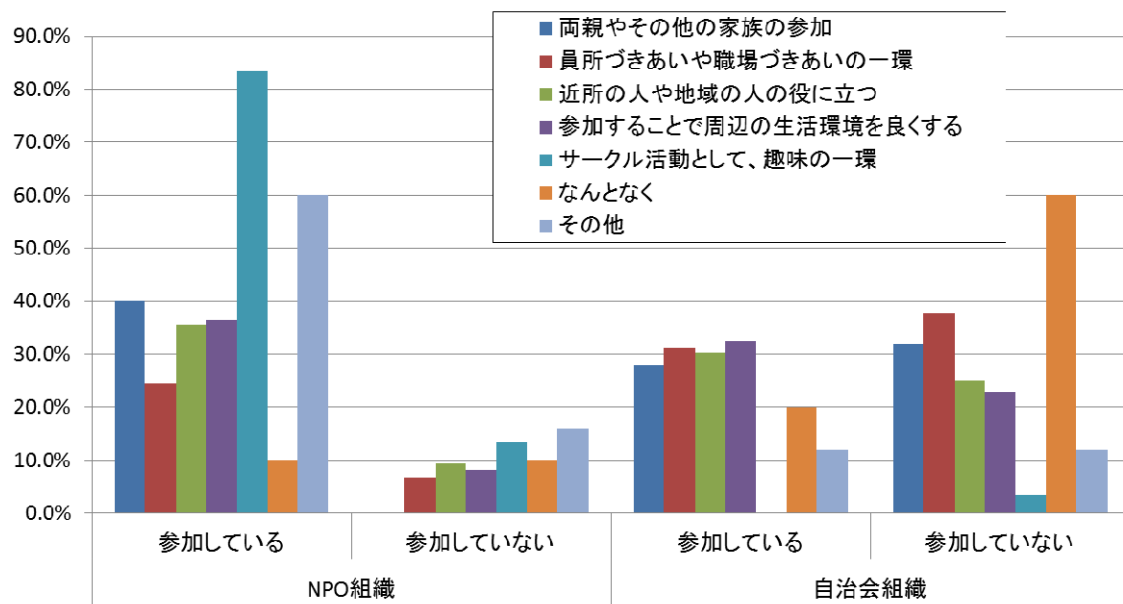


図 22 「多様な世代の参加がある」組織と入会のきっかけ

次に入会のきっかけと活動の継続可能性との関係をみてみると、NPO 団体の場合、「両親やその他の家族の参加」を挙げている団体では、すべての団体が継続すると回答している。NPO 団体は、活動内容への理解・共感が参加のきっかけになりやすいため、一人で参加することとなるケースも多く、その場合には組織の中で孤立する可能性も出てくるためではないかと考えられる。このため、活動参加の際には、家族等知っている人からの誘いが重要である可能性がある。

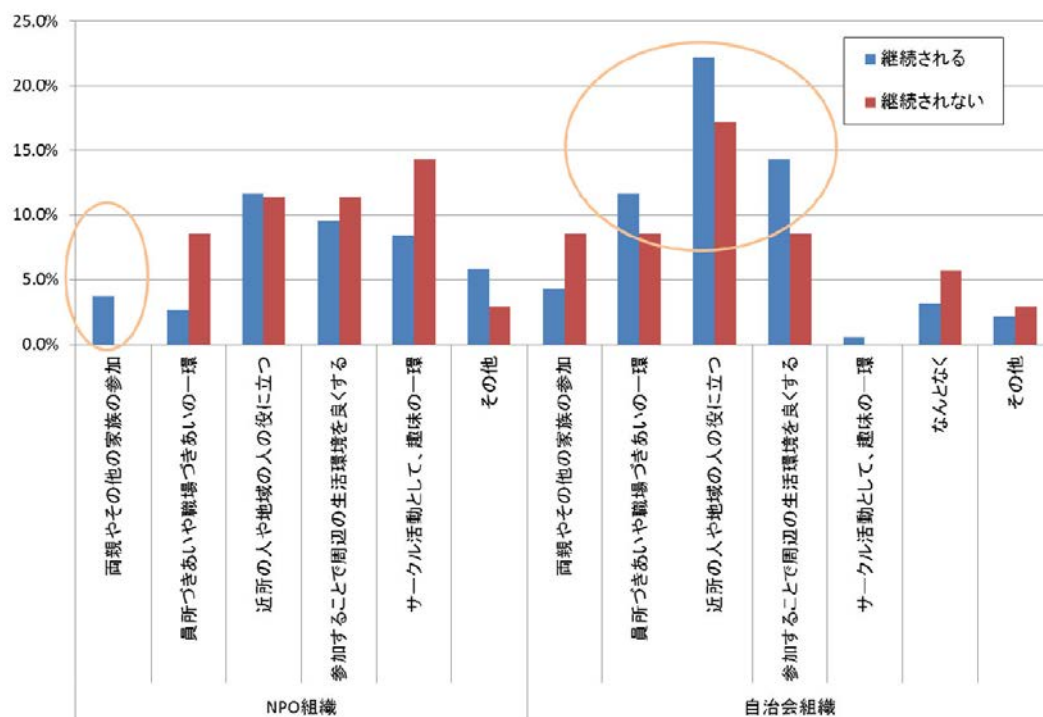


図 23 入会のきっかけと継続可能性

一方、地縁組織である自治会については、「近所の人や地域の人の役に立つ」「参加することで周辺の環境が良くなる」「近所づきあいや職場づきあいの一環」というきっかけが、その後の「継続」要因にも関連しているようである。

また、多様な世代の参加を促すために実施している施策や有効と考えられる施策に関する質問の回答をみると、NPO 団体、自治会の双方において「既存の参加者による勧誘」「参加しやすいイベントの開催」が上位を占めている。この結果も知り合いを通じての参加と参加しやすい環境を作ることが有効な取り組みであることを示している。

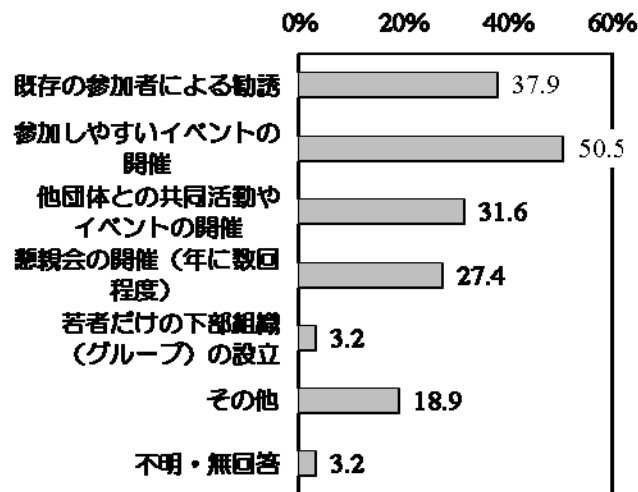


図 24 多様な世代の参加を促すために実施、有効と考える施策（NPO 団体、n=95）

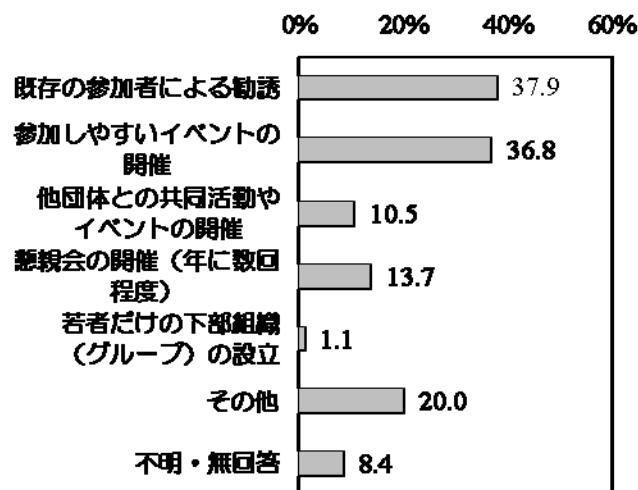


図 25 多様な世代の参加を促すために実施、有効と考える施策（自治会、n=95）

⑤ 簡易アンケート・データを用いた定量的分析

ここでは簡易アンケートのデータをもとに、組織の継続可能性に影響する要因についての定量的な分析を行う。まず、継続可能性に影響を与えている要因を検証するため、継続すると回答した場合には 1、継続しないと回答した場合には 0 として、これを被説明変数としてロジットモデルによる分析を行ったところ、構成員数、収入、多様な世代の参加が継続可能性に対して有意な影響を与えているという結果が得られた。このことは、多様な世代の参加が組織の継続可能性を高める要因の一つであることを示している。

表 35. 組織の継続可能性に関するロジット分析

被説明変数 継続する=1 継続しない=0			
変数	係数	z-値	確率
定数項	-1.596	-1.289	0.197
年齢	0.003	0.168	0.866
構成員数	0.004	2.582	0.010 **
収入	0.000	-1.723	0.085 *
種類Ⅰ(地域貢献)	0.308	0.401	0.689
種類Ⅱ(自己啓発)	0.904	0.936	0.349
種類Ⅲ(会員の趣味)	-0.690	-0.602	0.547
種類Ⅳ(相互の親睦)	-0.212	-0.255	0.799
年齢層	-0.041	-0.150	0.881
多世代型ダミー	1.900	1.968	0.049 **
運営費用	0.242	1.640	0.101
十分な所得	-0.185	-0.428	0.669
意思決定方法	-0.025	-0.059	0.953
自治会ダミー	0.848	1.037	0.300
決定係数	0.188		

また、簡易アンケートでは、地域資源に対する考え方についても質問している。この質問の回答と組織の属性との関係とを同様に分析したところ、自らの地域資源を大切に思うか否かについては、「多世代型で、若者が多い組織」が地域資源を積極的に守りたい、と回答する傾向にあることがわかった。一方、会員数が少ないほどに「他人任せ」な傾向にある。また、今後の「地域資源の継承」について否定的な団体では「平均年齢が高く」、「会員数は少なく」、「年間収入は低い」という傾向がみられる。つまり、高齢化の進んだやや零細な組織ほどに、地域資源の継承に強く同意しない、という結果となった。地域資源の継承については、「人を助ければ、今度は自らを助けてくれる」という相互依存な度合いを示す変数を被説明変数にした場合には、「会員数」「年間収入」がともに統計的に有意であった。符号関係では、会員数が多い団体がプラスだが、一方で年間収入は低い団体の場合には、マイナスであった。

このように、今回の調査結果では、NPO 団体、自治会において多世代型で、若者が多い組織がより地域資源を重視する傾向がある点が読み取れた。この点も組織が多世代型になることが地域活動へのコミットを高める可能性があることを示しており、今後は組織が多世代型になるようなインセンティブ付与を行う必要があると考えられる。

表 36. 組織の属性と地域資源に対する意識

	モデル(1) Q2-1+ 地域資源を守る (自ら行う)+		モデル(2) Q2-3+ 地域資源継承 (他人依存)+		モデル(3) Q4-2+ (継承:継承の 必要なし)+		モデル(4) Q12-1(継承:人 を助ければ自 分にも)+		モデル(5) Q12-2 (組織:将来の負 担増やむなし)+	
変数+	係数+	z-値+	係数+	z-値+	係数+	z-値+	係数+	z-値+	係数+	z-値+
年齢+	-0.013	-4.054+ ***	0.002	0.869	0.014	4.107+ ***	0.000	-0.038	-0.004	-1.265
会員数+	0.000	0.831	-0.001	-2.341+ **	-0.001	-3.158+ **	0.001	2.460+ **+	0.000	1.076
年間収入+	0.000	1.053	0.000	0.374	0.000	-2.226+ **	0.000	-2.812+ **	0.000	0.093
多世代の参 加+	0.807	6.310+ ***	0.180	1.692	-0.134	-1.068	-0.032	-0.309	-0.032	-0.297
決定係数+	0.107	+	0.005	+	0.045	+	0.009	+	0.002	+

注) 被説明変数＝(同意する＝4、どちらかといえば同意する＝3、どちらともいえない＝2、どちらかといえ
ば同意しない＝1、同意しない＝0)

脚注

- (1)魅力的なお祭りや行事が地域にあることや多様な世代が集まる場があることが、両親や祖父母が子どもに地域活動を経験させるインセンティブになっている可能性もある。その場合、両親や祖父母がどのような人かに関係なく子どもが地域活動経験を持つことになる可能性もある。この点を確認するため、15歳頃までと同じ地域に居住しており、かつ、住んでいる地域について「多様な世代が集まる場がある」もしくは「古くからのお祭りや伝統行事がある」と回答している人にサンプルを限定して同様の分析を行った。しかし、この場合においても、両親・祖父母のソーシャル・キャピタルについては有意な結果が得られた。このことは、地域の状況に関わらず、両親・祖父母のソーシャル・キャピタルの高さが、子どもの頃の地域活動経験を高めることにつながっていることを示している。
- (2)この点の因果関係については留意が必要であるが、現地ヒアリング等では多様性が活動の持続可能性に影響しているとの意見があった。また、WEBアンケートの結果においても、参加している地域活動に関して「将来的に活動が存続するか不安がある」ということについてどう考えているか質問をしており、活動参加者の年齢構成が「ほぼ同じ世代(年齢層)が参加している」か「様々な世代が参加している(年齢差が20歳以上)」かに分けて比較すると、多様な世代が参加していると回答している人の方が、「非常にそう思う」の割合が約5%少なく、「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の割合が約7%多かった。このため、活動参加者の年齢層の多様性は活動の持続可能性に影響している可能性が考えられる。

参考文献

- 1) Tabellini, Guido. "The scope of cooperation: Values and incentives." *The Quarterly Journal of Economics*

- 123.3, pp905-950 ,(2008).
- 2) Fan, C. Simon. "Religious participation and children's education: A Social Capital Approach." *Journal of Economic Behavior & Organization* 65.2, pp303-317 (2008).
- 3) Nunn, N. and Wantchekon, L. (2011). "The Slave Trade and the Origins of Mistrust in Africa". *The American Economic Review*, 101(7), 3221-3252.
- 4) Uslaner, E. M. (2008). "Where You Stand Depends upon Where Your Grandparents Sat. Public Opinion Quarterly, 72(4), 725-740
- 5) Tabellini, G. (2008). "Institutions and Culture". *Journal of the European Economic Association*, 6(2-3), 255-294.
- 6) Dohmen, Thomas, et al. "The Intergenerational Transmission of Risk and Trust Attitudes." *The Review of Economic Studies* 79.2, pp645-677, (2012).
- 7) Guiso, Luigi, Paola Sapienza, and Luigi Zingales. " Alfred Marshall Lecture: Social Capital as Good Culture." *Journal of the European Economic Association* 6.2 - 3, pp295-320, (2008).
- 8) 角谷嘉則、『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』、創成社、2009 年。
- 9) “新旧の賑わいの拠点を擁して魅力と可能性を増す倉敷の町”、2017 年 3 月 8 日倉敷市提供。
- 10) 山崎満広、『ポートランドー世界で一番住みたい街をつくる』、学芸出版社、2016 年。
- 11) スティーブン P. ロビンス、『組織行動のマネジメント』、ダイヤモンド社、2016 年。

3-4-6. グループ合同研究会の開催

平成 28 年度においては 29 年 3 月に、京都市新・都ホテル「桂の間」において、合同研究会を開催した。WEB アンケート・グループからは 28 年度 WEB アンケート調査の概要について報告するとともに、現地ケーススタディ・グループからは和歌山市において開催したワークショップ及び実施した現地調査や簡易アンケート調査についての報告が行われた。その後、29 年度のプロジェクトの進め方についてのディスカッションを行い、28 年度アンケート調査の回答者を対象とした第 2 回アンケートを実施するべく調査内容の検討を引き続き進めること、簡易アンケート調査の集計・分析作業や宮崎県宮崎市におけるワークショップの開催に向けて準備を進めることの実施方針が確認された。

平成 29 年度の合同研究会は、29 年 9 月に京都大学東京オフィスにおいて行われた。開催にあたっては、領域マネジメントグループより、服部篤子・領域アドバイザーにご出席いただくとともに、わが国におけるソーシャル・キャピタル研究の第一人者の一人である日本大学法学部稲葉陽二先生のほか、エリアマネジメント活動に関する調査研究を行っている一般財団法人森記念財団関係者等にもご参加いただいた。研究会では、WEB アンケート・グループ及び現地ケーススタディ・グループから 28 年度、29 年度に実施した調査内容の報告のほか、調査・分析結果を踏まえたリサーチ・クエスチョン 1～3 に関する回答についての報告が行われ、参加者による意見交換が行われた。

3-5. 今後の成果の活用・展開に向けた状況

本プロジェクトの成果から、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の親子間での継承のメカニズムが定量的に明らかとなり、特に地域活動への参加に影響を与える地域資源の共有意識の形成には子どもの頃における経験が重要であることが分かった。このことは、将来的に多世代共創社会を形成・維持していくためには、若い世代、特に子どもの頃からの地域活動への参加に焦点を当てた取組が極めて重要であることを示している。「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域における多くのプロジェクトは、具体的なフィールドを対象として、その地域における多世代共創的活動につながる様々な取組を検討・試行している。そして、こうしたプロジェクトの多くは、小中学生や高校生など若い世代を活動に取り込んでいく方策についても検討している。本プロジェクトの成果は、そうした取組がソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の形成や継承につながり、将来的な多世代共創社会の実現に不可欠であることを定量的なデータに基づいて示したものであり、領域の成果の説明においても有益なものと考えられる。

なお、本プロジェクトの成果から見つかった新たな課題は2つあると考えられる。1つは、ソーシャル・キャピタルや地域資源の共有意識の低い人に対する対応である。地域としての連帯感や多様な世代の交流する場の存在は、こういう人々の意識を変えていく可能性はあるが、今回の分析の結果から考えると、このような人たちの子どもたちの意識はそのままでは低いままである可能性がある。こうした人に対して、何かしらの対応策を検討する必要があるのか、有効な手段はあるのかどうかは、新しい検討課題であると考えられる。もう1つの課題は、親子以外での世代間での継承可能性であり、特に学校教育の役割である。今回のアンケート・データを使った分析結果では、子どもの頃に自分の家族以外の大人が地域活動に参加しているのを見て育った、という経験はその後の意識の形成に影響していない（表 21）。しかし、周囲の大人からの影響や学校教育に関する影響も現地ヒアリングでの地域活動参加者の意見を踏まえると若者の意識の形成には重要な要因である可能性がある。こうした課題については、今後新たなデータ収集・分析を通じて明らかにしていく必要があると考えられる。

4. 研究開発の実施体制

4-1. 研究開発実施者

(1) 全体マネジメント・とりまとめグループ（リーダー氏名：要藤正任）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
要藤 正任	ヨウドウ マサ トウ	京都大学	経済研究所先端 政策分析研究セ ンター	特定准教授
矢野 誠	ヤノ マコト	京都大学	経済研究所先端 政策分析研究セ ンター	センター長・教授
中澤 正彦	ナカザワ マサ ヒコ	財務省	関税局調査課	課長

(2) WEB 調査グループ（リーダー氏名：要藤正任）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
要藤 正任	ヨウドウ マサ トウ	京都大学	経済研究所先端 政策分析研究セ ンター	特定准教授
広田 茂	ヒロタ シゲル	京都大学	経済研究所先端 政策分析研究セ ンター	特定教授
小嶋 大造	コジマ タイゾ ウ	京都大学	経済研究所先端 政策分析研究セ ンター	特定准教授
高橋 勇介	タカハシ ユウ スケ	京都大学	経済研究所先端 政策分析研究セ ンター	研究員
橋本 京子	ハシモト キョ ウコ	京都大学	経済研究所先端 政策分析研究セ ンター	研究員
丹羽 寿美子	ニワ スミコ	京都大学	経済学研究科博 士後期課程	RA

(3) 現地ケーススタディ・グループ（リーダー氏名：足立基浩）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
足立 基浩	アダチ モトヒ ロ	和歌山大学	経済学部	教授、副学長

上野 美咲	ウエノ ミサキ	和歌山大学	経済学部	特任助教
中村 真紀	ナカムラ マキ	和歌山大学	経済学部	研究支援員
松田 桃子	マツダ モモコ	和歌山大学	経済学部	研究支援員

4-2. 研究開発の協力者・関与者

氏 名	フリガナ	所 属	役 職	協力内容
御手洗 潤	ミタライ ジュン	京都大学経営 管理大学院	客員教授	現地ケーススタディへの助言、協力
中尾 忠頼	ナカオ タダヨリ	国土交通省大 臣官房人事課 付(前一般財団 法人建設経済 研究所研究員)	人事院行 政官長期 在外研究 員・ブリテ イッシュ コロンビ ア大学	WEB アンケート調査への助言、協 力
櫛間 節夫	クシマ セツオ	宮崎市商店街 振興組合連合 会	事務局長	ワークショップに関する助言、連絡 調整
日高 耕平	ヒダカ ソウヘイ	宮崎市商店街 振興組合連合 会	専務理事	ワークショップに関する助言、連絡 調整
岡田 隆弘	オカダ タカヒロ	株式会社オカ ヘイ	専務取締 役	ワークショップに関する助言、連絡 調整
中筋 章夫	ナカスジ アキオ	和歌山大学／ 西山東地区防 災会	アドバイ ザー	ワークショップ・アンケート調査へ の協力

5. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

5-1. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

5-1-1. 情報発信・アウトリーチを目的として主催したイベント

年月日	名 称	場 所	概要・反響など	参加人数
H29/6/10	「まちづくり等における世代間交流・継承を考える」ワークショップ	ホテルメリージュ鳳凰の間（宮崎県宮崎市）	ワークショップには、まちづくり活動等の世代間継承に向けた促進策、まちづくり活動等の世代間継承に向けた体制づくりという課題について、地元大学生、高校生、商店主、自治体関係者等が参加し、様々な観点から意見交換を行った。	42 名（PJ 実施者除く）

5-1-2. 研究開発の一環として実施したイベント

年月日	名 称	場 所	概要・反響など	参加人数
H29/2/4	「まちづくり等における多世代交流・継承を考える」ワークショップ	和歌山大学松下会館 2 階ホール（和歌山県和歌山市）	まちづくり等の地域活動における世代間の交流とはそもそも何か、また、交流の絆が失われることでどのような社会的な課題が生まれるのか、世代間交流や多世代での活動の継承を促すためには何が必要か等の課題について、PJ 実施者、和歌山県和歌山県内におけるまちづくり活動実践者、和歌山大学の学生等を交えてワークショップを開催し意見交換を行った。	35 名

5-1-3. 書籍、DVD など論文以外に発行したもの

なし

5-1-4. ウェブメディア開設・運営

なし

5-1-5. 学会以外（5-3. 参照）のシンポジウムなどでの招へい講演など

- (1) ソーシャル・キャピタル研究会（日本大学法学部稲葉陽二研究室）、ソーシャル・キャピタルの世代間継承について：全国 WEB 調査等からの知見、平成 29 年 11 月 11 日、日本大学法学部 4 号館地下第 4 会議室 A

5-2. 論文発表

なし

5-2-1. 査読付き（ 0 件）

5-2-2. 査読なし（ 1 件）

- (1) 高橋勇介・要藤正任・小嶋大造「ふるさと納税は寄附かーソーシャル・キャピタルの視点からの実証分析ー」京都大学経済研究所ディスカッション・ペーパー No.1707

5-3. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

5-3-1. 招待講演（国内会議__0__件、国際会議__0__件）

5-3-2. 口頭発表（国内会議__0__件、国際会議__1__件）

- (1) Misaki UENO (Wakayama University)、A study of the relationship between citizen's attributes and degree of involvement of community planning in Japan、2017 Asian Real Estate Society and Global Chinese Real Estate Congress Joint Annual Conference、Lin Hotel in Taichung、29 年 7 月 11 日

5-3-3. ポスター発表（国内会議__0__件、国際会議__0__件）

5-4. 新聞報道・投稿、受賞など

5-4-1. 新聞報道・投稿

- (1) 日高日報、28 年 12 月 6 日



28年12月6日 日高日報 記事

(2) ニュース和歌山、29年2月11日

(3) 宮崎県宮崎市ワークショップ関連

- ・29年6月11日18時45分 NHK 宮崎ニュース 放送
- ・29年6月11日17時45分 宮崎放送 Nスタ 放送
- ・29年6月16日 宮崎日日新聞 記事

5-4-2. 受賞

なし

5-4-3. その他

なし

5-5. 特許出願

5-5-1. 国内出願 (0 件)

5-5-2. 海外出願 (0 件)

6. その他

6-1. WEB アンケート質問票

6-1-1. 28 年度アンケート質問票

地域活動への参加に対する意識・活動状況に関する調査

このアンケート調査ではお住まいの地域に対するあなたの意識や関わりについてお聞きます。小学校区から中学校区の範囲を主に想定していますが、より広い範囲（例えば、同一市町村内）を思い浮かべていただいても構いません。

地域みんなが共有して利用しているものは地域資源と呼ばれています。まちの文化センターや公園などの公共施設はそのよい例です。また、地域の暮らしやすさ、治安、賑わい、景観なども地域資源ですし、お祭りや伝統行事も地域資源と考えられます。

問1

このような地域資源の中で、あなたが特に重要だと思うものはどれですか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 文化センター、公園、広場などの公共施設
- ☐ 治安、賑わい、景観など、まちや地域の暮らしやすさ
- ☐ お祭りや伝統行事などの文化的なもの
- ☐ その他

問2

地域資源についてのあなたのお考えをお聞きます。
以下のような考えに、あなたはどの程度同意しますか。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	同意する	どちらかといえば同意する	どちらとも言えない	どちらかといえば同意しない	同意しない
自分が積極的に関わることで、地域資源を守ったりより充実させていきたい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
地域資源は、地域みんなが協力して、その価値を守ったり充実させていくことが必要だ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分が関わらなくても、自分以外の誰かによって守られると思う。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

次に地域での活動についてお聞きます。
自治会・町内会が行う地域の清掃や商店街組合が行うまちおこしは、地域活動の例で、地域資源を守り充実させるためのものです。
また、ボランティア・グループによる地域の防犯活動や子育て支援活動なども地域活動です。

問3

このような「地域活動」に対する以下の考え方に、あなたはどの程度同意しますか。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	同意する	どちらかといえば同意する	どちらとも言えない	どちらかといえば同意しない	同意しない
「地域活動」が積極的に行われることはよいことだ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
「地域活動」には積極的に参加したい。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
「地域活動」には、地域の全員が積極的に参加すべきだ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
「地域活動」には、特定の世代の人だけではなく、様々な世代の人が参加すべきだ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

地域資源を守ったり充実させるためには、地域に住む人々は何らかの責任を負う必要が生じます。例えば、景観を保全するためには、自分の家の外壁の色を周りの家々の外壁と調和させることが必要になるかもしれません。こうしたことも地域資源を充実させるための負担の一例と考えることができます。

問4

あなたは、以下のそれぞれの地域資源のために、どのような負担をする意志がありますか。 **必須** **いくつでも**

回答方向 	金銭的な負担	地域活動への参加	規則やルールの遵守	負担する意志がない
文化センター、公園、広場などの公共施設	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
治安、賑わい、景観など、まちや地域の暮らしやすさ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
お祭りや伝統行事などの文化的なもの	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

地域活動を行うことにより、地域資源を充実させることができれば、自分たちのあとの世代の人々もその恩恵を享受できるかもしれません

問5

この「地域資源の継承」に関して、あなたの考えをお聞きます。以下の考え方にどの程度同意しますか。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 	同意する	どちらかといえ ば同意する	どちらとも 言えない	どちらかといえ ば同意しない	同意しない
積極的に地域活動を行って、あとの世代の人たちによりよい地域資源を継承すべきだ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
あとの世代に地域資源を残しても自分たちには特段のメリットがないので、地域資源を継承する必要はない。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問6

一般的にいって、ほとんどの人は信頼できると思いますか、それとも人と接するには用心するに越したことはないと思いますか。

必須 **ひとつだけ**

「大半の人は信頼できる」を1、「極めて注意深く接する必要がある」を10とする以下の10段階の尺度で、該当するところを一つ選択してください。

1 大半の人は 信頼できる	2	3	4	5	6	7	8	9	10 極めて注意 深く接する 必要がある
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問7

「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対してはいかがでしょう。 **必須** **ひとつだけ**

1 大半の人は 信頼できる	2	3	4	5	6	7	8	9	10 極めて注意 深く接する 必要がある
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問8

あなたがお住まいになっている地域の人に対してはいかがでしょう。 **必須** **ひとつだけ**

1 大半の人は 信頼できる	2	3	4	5	6	7	8	9	10 極めて注意 深く接する 必要がある
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問9

あなたは、以下のような活動に参加されていますか。参加している場合、どのくらいの頻度で参加されていますか。以下の4つの活動について、それぞれ一つ選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 	ほぼ毎週	月に2～3日 程度	月に1日程度	年に数回程度	活動していない
地域活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
被災地支援など他地域に対するボランティア活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
スポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他の団体活動（労働組合、宗教、政治等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

地域活動について活動されていると回答された方にお聞きます。

問9-2

それはどのような地域活動ですか？以下の中から選択してください（複数の活動に参加している場合は、該当するものをすべて選択してください） **必須** **いくつでも**

- ☐ 文化センター、公園、広場などの公共施設に関する地域活動
- ☐ 治安、賑わい、景観など、まちや地域の暮らしやすさに関する地域活動
- ☐ お祭りや伝統行事などの文化的なものに関する地域活動
- ☐ その他の地域活動

地域活動について活動されていると回答された方にお聞きます。

問9-3

あなたが地域活動に参加されるようになったきっかけは何ですか。 **必須** **いくつでも**

- ☐ 両親やその他の家族が参加していたから
- ☐ 近所づきあいや職場づきあいの一貫として
- ☐ 近所の人や地域の人の役に立つことができるから（地域貢献）
- ☐ 活動に参加することで自分を取り巻く生活環境がよくなったと思ったから
- ☐ その他

問9-4

あなたの生活している地域では、どのような地域活動がありますか？以下の中からお選びください **必須** **いくつでも**

- ☐ 文化センター、公園、広場などの公共施設に関する地域活動
- ☐ 治安、賑わい、景観など、まちや地域の暮らしやすさに関する地域活動
- ☐ お祭りや伝統行事などの文化的なものに関する地域活動
- ☐ その他の地域活動
- ☐ 地域活動は行われていない、もしくは、行われていることを知らない

問9-5

あなたがもっとも詳しく知っている地域活動についてどの程度ご存知ですか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 活動があることは知っているが、具体的にどのような活動が行われているのかは知らない
- ☐ ある程度活動内容を知っている
- ☐ 活動の内容を具体的に把握している

問9-5において「ある程度活動内容を知っている」「活動内容を具体的に把握している」とお答えした方のうち、問9「1. 地域活動」において「活動していない」と回答された方にお聞きます。

問9-6

活動に参加していない理由について、当てはまるものを以下の中からお選びください。 **必須** **いくつでも**

- ☐ 仕事や家庭内のことに忙しくて参加する時間的な余裕がないから
- ☐ 自分の趣味や余暇活動に時間を使いたいから
- ☐ 活動内容が地域のため役立つものとは思えないから
- ☐ 自分が参加しなくても活動には影響がないから
- ☐ 活動に参加しても自分にはあまり具体的なメリットがないと思うから
- ☐ その他

問9-6において「活動内容が地域のため役立つものとは思えないから。」を選択した人にお聞きします。

問9-7

地域活動が地域のために役立つものとは思えない理由について、以下の中からお選びください。 **必須** **いくつでも**

- ☐ 行政が類似の活動を行っており、活動内容が重複しているから
- ☐ 活動の実施体制（規模、質（頻度））が十分でなく、効果があるとは思えないから
- ☐ 活動内容が時代の変化にあわせて変化しておらず現在の課題にうまく対応できていないから
- ☐ その他

問10

あなたはこの一年間に、以下の寄付・募金をされましたか。 **必須** **ひとつだけ**

それぞれについて、以下の中から一つ選択してください（現物での寄付の場合は相当額に換算してください）。

回答方向 ➡	寄付は していません	1円～ 999円	1000円～ 4999円	5000円～ 9999円	1万円～ 49999円	5万円 以上
非営利団体や慈善活動等を行う団体への寄付・募金	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ふるさと納税（自分や両親の出身地など自分とかかわりのある地域に対するもの）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ふるさと納税（それ以外の地域に対するもの）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問11

あなたは、以下のような考えについてどのくらい同意しますか。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	同意する	どちらかといえ ば同意する	どちらとも 言えない	どちらかといえ ば同意しない	同意しない
人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供や孫などの将来世代が、現在自分たちが享受している生活水準や公共サービスを維持するためには、多少なりとも自分たちの負担が増えることは仕方ない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

あなたの子供の頃のことについてお聞きします。あなたが子供の頃を思い出して回答してください。

問12

あなたの両親や祖父母は、一般的に人を信頼する傾向がある人でしたか？ **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 全くあてはまらない
- ☐ あまりあてはまらない
- ☐ どちらともいえない
- ☐ ややあてはまる
- ☐ よくあてはまる
- ☐ 分からない

問13

あなたのご両親や祖父母は、近所の人とどの程度のお付き合いをされていましたか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っていた
- ☐ 日常的に立ち話をする程度のつきあいはしていた
- ☐ あいさつ程度の最小限のつきあひしかしていなかった
- ☐ つきあひは全くしていなかった
- ☐ 分からない

問14

あなたのご両親や祖父母は、以下のような活動にどの程度参加されていましたか。以下の4つの活動について、それぞれ一つ選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	積極的に参加していた	ある程度参加していた	どちらとも言えない	あまり参加していなかった	全く参加していなかった	分からない
地域活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
被災地支援など他地域に対するボランティア活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
スポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他の団体活動（労働組合、宗教、政治等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問15

あなたのご両親や祖父母は、人助けをすることについてどのような考えを持っていたと思いますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 積極的に人助けをすべき
- ☐ 出来る範囲で人助けをすべき
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ 人助けはなるべくしない方がよい
- ☐ 人助けはすべきではない
- ☐ 分からない

問16

以下の質問では、あなた自身の経験について、当てはまるかどうかをお聞きます。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらとも言えない	ややあてはまる	よくあてはまる
子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加する際に一緒に参加して育った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の頃、親や祖父母が地域活動に参加しているのを見て育った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の頃、親や祖父母が人を助けるのを見て育った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の頃、家庭内で人助けの大切さを学ぶ機会があった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の頃、家庭内で地域活動に参加することの大切さを学ぶ機会があった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問17

あなたの両親との15歳ごろまでの同居経験について、父親・母親それぞれについて以下の中から一つお選びください。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	ずっと同居していた	ほとんどの期間同居していた	ある一定の期間同居していた	同居していた時期もあるが、ほとんど同居していなかった	同居していない
父親	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
母親	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問18

あなたの祖父母との15歳ごろまでの同居経験について、祖父・祖母それぞれについて以下の中から一つお選びください。（父方・母方のどちらでも構いません。同居経験の長い方についてお答えください） **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	ずっと同居していた	ほとんどの期間同居していた	ある一定の期間同居していた	同居していた時期もあるが、ほとんど同居していなかった	同居していない
祖父	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
祖母	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

あなたについてお答えください

問20

配偶者の有無をお答えください **必須** ひとつだけ

- ☐ 未婚
- ☐ 既婚（現在配偶者がいる）
- ☐ 既婚（離婚により現在配偶者がいない）
- ☐ 既婚（死別により現在配偶者がいない）

問21

お子様はいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、人数もお答えください。 **必須** ひとつだけ

- ☐ いる
- ☐ いない

問22

現在同居する家族（回答者からみた続柄）について、該当するものをすべて以下からお選びください。 **必須** いくつでも

- ☐ 配偶者
- ☐ 子ども
- ☐ 子どもの配偶者
- ☐ 孫
- ☐ 父母
- ☐ 祖父母
- ☐ 兄弟姉妹
- ☐ 配偶者の父母
- ☐ その他の親族
- ☐ 同居者はいない（一人暮らし）

問23

あなたが最後に卒業した学校は次のどれにあてはまりますか **必須** ひとつだけ

- ☐ 初等教育機関（旧制の小学校）
- ☐ 中学校など前期中等教育機関
- ☐ 高等学校など後期中等教育機関
- ☐ 大学
- ☐ 大学院
- ☐ 短期大学
- ☐ 専門学校
- ☐ 高等専門学校
- ☐ その他

問23-1

あなたは現在就学中ですか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 現在就学中である
- ☐ 現在就学中でない

問23-2

現在、就学されている方にお聞きます。それは次のどれにあてはまりますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 中学校など前期中等教育機関
- ☐ 高等学校など後期中等教育機関
- ☐ 大学
- ☐ 大学院
- ☐ 短期大学
- ☐ 専門学校
- ☐ 高等専門学校
- ☐ その他

前問で大学、大学院と回答された方に伺います。

問23-3

大学又は大学院で専攻されていたのは、次のどれになりますか。 **必須** **いくつでも**

複数の分野を専攻されている方はあてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 文学
- ☐ 教育学
- ☐ 法学
- ☐ 経済学
- ☐ 理学
- ☐ 医・歯学
- ☐ 薬学
- ☐ 工学
- ☐ 農学
- ☐ その他

普段なさっているお仕事についてお伺いします。

問24

就業形態は次のどれにあてはまりますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 仕事はしていない（専業主婦、主夫、学生、引退された方ほか）
- ☐ 勤め人（会社、団体などに従業・勤務している人（雇用主と雇用関係にある人））
- ☐ 自営業主（飲食店・卸小売店・農業等）
- ☐ 自由業者（医者・弁護士・会計士・税理士等）
- ☐ 家族従業者（飲食・卸小売店・農業等の家族従業者）
- ☐ 会社と雇用関係のない在宅就労・内職
- ☐ 委託労働・請負（雇用関係にない者）

「勤め人」と回答した人にお伺いします。

問24-2

あなたの職務は次のどれですか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員） - 役職なし
- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員） - 役職あり
- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員） - 経営者
- ☐ 契約社員
- ☐ 派遣社員
- ☐ アルバイト・パートタイマー
- ☐ 嘱託
- ☐ その他

問25

仕事の内容は次のどれですか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 農林漁業作業者
- ☐ 採掘作業者
- ☐ 販売従事者（小売店、卸売り店の店主や店員、外交員、不動産仲介など）
- ☐ サービス職従事者（理容、美容、飲食店、旅館などの従業員、清掃員など）
- ☐ 管理的職種（国、自治体の議員、会社・団体、官公庁の課長以上など）
- ☐ 事務従事者（一般事務、会計事務、オペレーターなど、営業事務員など）
- ☐ 運輸・通信従事者（鉄道・車・船・航空機の運転従事者、車掌、有線・無線の通信士など）
- ☐ 製造・建築・保守・運搬などの作業者
- ☐ 情報処理技術者（システムエンジニア・プログラマー）
- ☐ 専門的・技術的職業従事者 ※情報処理技術者を除く（企業などの研究・技術者、保健医療、法務従事者、教員、芸術家など）
- ☐ 保安職業従事者（自衛官、警察官、消防員、ガードマンなど）
- ☐ その他

問26

あなたの世帯の年収は次のどれにあてはまりますか。副収入、各種手当等を含む、税や社会保険料を支払う前の金額についてお答えください。 **必須** ひとつだけ

- ☐ まったくない（0円）
- ☐ 1円以上200万円未満
- ☐ 200万円以上400万円未満
- ☐ 400万円以上600万円未満
- ☐ 600万円以上800万円未満
- ☐ 800万円以上1000万円未満
- ☐ 1000万円以上1500万円未満
- ☐ 1500万円以上

問27

あなたの世帯の現在の預貯金額及び株式・投資信託等の合計額は次のどれにあてはまりますか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ まったくない (0円)
- ☐ 1円以上200万円未満
- ☐ 200万円以上400万円未満
- ☐ 400万円以上600万円未満
- ☐ 600万円以上800万円未満
- ☐ 800万円以上1000万円未満
- ☐ 1000万円以上1500万円未満
- ☐ 1500万円以上2000万円未満
- ☐ 2000万円以上

問28

あなたの自身の年収は次のどれにあてはまりますか。副収入、各種手当等を含む、税や社会保険料を支払う前の金額についてお答えください。 **必須** ひとつだけ

- ☐ まったくない (0円)
- ☐ 1円以上200万円未満
- ☐ 200万円以上400万円未満
- ☐ 400万円以上600万円未満
- ☐ 600万円以上800万円未満
- ☐ 800万円以上1000万円未満
- ☐ 1000万円以上1500万円未満
- ☐ 1500万円以上

問29

あなたの自身名義の現在の預貯金額及び株式・投資信託等の合計額は次のどれにあてはまりますか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ まったくない (0円)
- ☐ 1円以上200万円未満
- ☐ 200万円以上400万円未満
- ☐ 400万円以上600万円未満
- ☐ 600万円以上800万円未満
- ☐ 800万円以上1000万円未満
- ☐ 1000万円以上1500万円未満
- ☐ 1500万円以上2000万円未満
- ☐ 2000万円以上

問30

あなたのお住まいは次のどれにあたりますか、以下の中から一つお選びください。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 持家（一戸建て）
- ☐ 持家（集合住宅）
- ☐ 民間の借家（一戸建て）
- ☐ 民間の借家（集合住宅）
- ☐ 公営の借家（UR【旧住宅公団】、住宅供給公社、県営住宅等）
- ☐ 給与住宅（社宅・公務員住宅）
- ☐ 借間、下宿
- ☐ 住み込み、寄宿舍、独身寮など
- ☐ その他

問31

15歳ごろまでの居住地（市区町村）についてお答えください。現在の居住地と同じですか？ **必須** ひとつだけ

- ☐ 同じ
- ☐ 異なる

将来、何らかの損失をこうむる可能性があることをリスクと言います。例えば海外旅行に出かければ、運が悪ければ事故に遭うかもしれません。旅に出ればたまにはそういうこともある、と割り切って出かければ、そのようなリスクを引き受けることになります。他方、旅行に出かけなければ、リスクを全く引き受けないことになります。

問32

あなたは、物事全般に関して、いつでもリスクを引き受けるタイプの人間だと思いますが、あるいは出来るだけリスクを避けようとするですか？
「全くリスクを引き受けたくない」を1、「いつでもリスクを引き受ける」を10とする以下の10段階の尺度から一つお選びください。
必須 ひとつだけ

1 全くリスク を引き受け たくない	2	3	4	5	6	7	8	9	10 いつでもリ スクを引き 受ける
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問33

あなたは、「確実に6万円受け取る」か、「当たれば12万円もらえるが、外れたら1円ももらえないくじを引く」かを選ぶことができます。そのくじは、10本のうち3本の「当たり」が含まれています。このとき、あなたはくじを引きますか、それともくじを引かずに6万円を受け取りますか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ くじを引く
- ☐ くじを引かない

前問で、くじを引かない と回答された方に伺います。

問33-2

10本のうちあたりくじの本数が何本以上ならくじを引きますか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 4本
- ☐ 5本
- ☐ 6本
- ☐ 7本
- ☐ 8本
- ☐ 9本
- ☐ 10本

問34

あなたは、「今日6万円受け取る」と「一週間後まで待って6万50円を受け取る」と、どちらを選びますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 今日6万円受け取る
- ☐ 1週間後まで待って6万50円受け取る。

前問で今日6万円受け取る と回答された方にお聞きます。

問34-1

6万円に最低いくら上乗せされたら 1週間待ちますか。 **必須**

「円」のケタは10円単位で回答いただけるようになっておりますのでご注意ください。

0

0

0

0

問35

あなた自身が人生で感じたことについてお聞きます。どのように感じ たかを示すのに、0から 10 の尺度を用いてください。 **必須**
ひとつだけ

0は「全くそう思わない」を意味し、10は「非常にそう思う」を意味します。いずれかの数字を 1つだけ選択してください。

回答方向 ➡	0 全くそう 思わない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 非常に そう思う
自分自身とても 前向きな方だと 感じる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
いつも将来には 楽観的である。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自由に生き方を 決めることがで きる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ほぼ毎日自分 の行ったことに 達成感を感じる 。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
だいたいとして 、自分が行って いることは重要 で価値がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
悪いことが起き ると、元にもど るのに暇して時 間がかかる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問36

次の文章について、あなたの考えに当てはまるかどうか 1つだけ選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	まったくそう 思わない	どちらかとい えばそう思わ ない	どちらとも 言えない	どちらかとい えばそう思う	非常にそう 思う
自然など人間の力を超えたものに感謝の気持ちをもつこと がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自然は大切な存在である。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分は信心深いほうである。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問37

あなたは、預貯金以外に、株式、債券、外貨建ての資産など、リスクを伴う金融資産を購入したことがありますか。また、現在もそうした資産を持っていますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 購入したことがあり、現在も持っている。
- ☐ 購入したことがあるが、現在は持っていない。
- ☐ 購入したことはない。

前問で「購入したことがあり、現在も持っている。」「購入したことはあるが、現在は持っていない」と回答された方に伺います。

問37-2

あなたが、株式、債券、外貨建ての資産など、リスクを伴う金融資産を初めて購入したのは何歳のときでしたか。 **必須**

歳

問38

現在あなたの健康状態をどのように感じていますか。1つだけ選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 健康である
- ☐ どちらかといえば健康である
- ☐ どちらともいえない
- ☐ どちらかといえば健康ではない
- ☐ 健康ではない

問39

過去3〇日間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。それぞれ1つだけ選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
神経を過敏に感じましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
絶望的だと感じましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
そわそわしたり、落ち着かなく感じましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
気分が沈みこんで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
何をやるにも骨折りだと感じましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分は価値のない人間だと思いましたか	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問40

あなたはどの程度幸せですか。現在と5年前について、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を〇点とすると、何点になると思いますか。それぞれについて、いずれかをお選びください。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	0点 とても 不幸	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 とても 幸せ
現在の幸せ度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5年前の幸せ度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問41

あなたの普段の気持ちについてお伺いします。「全く当てはまらない」を〇点、「非常に当てはまる」を10点にすると、何点くらいになると思いますか。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	0点 全く当て はまらな い	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 非常に当 てはまる
周りの人たちと 同じくらい幸せ だと思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
周りの人並みの 生活は手に入れ ている自信があ る	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問42

あなたは、全体として最近の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を〇点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。 **必須** **ひとつだけ**

0点 全く満足し ていない	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点 非常に満足 している
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問43

あなたの父親の年齢（生まれた年を選択）についてお答えください **必須** **ひとつだけ**

恐れ入りますが、すでに他界されている場合も、生まれた年についてお答えください。

選択してください

問44

あなたの父親が最後に卒業した学校は次のどれにあてはまりますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 初等教育機関（旧制の小学校）
- ☐ 中学校など前期中等教育機関
- ☐ 高等学校など後期中等教育機関
- ☐ 大学
- ☐ 大学院
- ☐ 短期大学
- ☐ 専門学校
- ☐ 高等専門学校
- ☐ その他
- ☐ 分からない

前問で大学、大学院と回答された方に伺います。

問44-2

大学で専攻されていたのは、次のどれになりますか。 **必須** **いくつでも**

複数の分野を専攻されている方はあてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 文学
- ☐ 教育学
- ☐ 法学
- ☐ 経済学
- ☐ 理学
- ☐ 医・歯学
- ☐ 薬学
- ☐ 工学
- ☐ 農学
- ☐ その他
- ☐ 分からない

問45

あなたの父親はあなたが15歳ぐらいの時に職業をお持ちでしたか。次の中からお選びください。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 仕事はしていない（専業主婦、学生、引退された方ほか）
- ☐ 勤め人（会社、団体などに従業・勤務している人（雇用主と雇用関係にある人））
- ☐ 自営業主（飲食店・卸小売店・農業等）
- ☐ 自由業者（医者・弁護士・会計士・税理士等）
- ☐ 家族従業者（飲食・卸小売店・農業等の家族従業者）
- ☐ 会社と雇用関係のない在宅就労・内職
- ☐ 委託労働・請負（雇用関係にない者）
- ☐ すでに亡くなっていた
- ☐ 分からない

勤め人 と回答した人にお聞きします。

問45-2

その時の職務は次のどれですか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員） - 役職なし
- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員） - 役職あり
- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員） - 経営者
- ☐ 契約社員
- ☐ 派遣社員
- ☐ アルバイト・パートタイマー
- ☐ 嘱託
- ☐ その他
- ☐ 分からない

問46

そのときに、あなたの父親がされていた仕事の内容は次のどれですか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 農林漁業作業者
- ☐ 採掘作業者
- ☐ 販売従事者（小売店、卸売り店の店主や店員、外交員、不動産仲介など）
- ☐ サービス職従事者（理容、美容、飲食店、旅館などの従業員、清掃員など）
- ☐ 管理的職種（国、自治体の議員、会社・団体、官公庁の課長以上など）
- ☐ 事務従事者（一般事務、会計事務、オペレーターなど、営業事務員など）
- ☐ 運輸・通信従事者（鉄道・車・船・航空機の運転従事者、車掌、有線・無線の通信士など）
- ☐ 製造・建築・保守・運搬などの作業者
- ☐ 情報処理技術者（システムエンジニア・プログラマー）
- ☐ 専門的・技術的職業従事者 ※情報処理技術者を除く（企業などの研究・技術者、保健医療、法務従事者、教員、芸術家など）
- ☐ 保安職業従事者（自衛官、警察官、消防員、ガードマンなど）
- ☐ その他
- ☐ 分からない

問47

あなたの母親の年齢（生まれた年を選択）についてお答えください **必須** ひとつだけ

恐れ入りますが、すでに他界されている場合も、生まれた年についてお答えください。

選択してください

問48

あなたの母親が最後に卒業した学校は次のどれにあてはまりますか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 初等教育機関（旧制の小学校）
- ☐ 中学校など前期中等教育機関
- ☐ 高等学校など後期中等教育機関
- ☐ 大学
- ☐ 大学院
- ☐ 短期大学
- ☐ 専門学校
- ☐ 高等専門学校
- ☐ その他
- ☐ 分からない

前問で大学、大学院と回答された方に伺います。

問48-2

大学で専攻されていたのは、次のどれになりますか。 **必須** **いくつでも**

複数の分野を専攻されている方はあてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 文学
- ☐ 教育学
- ☐ 法学
- ☐ 経済学
- ☐ 理学
- ☐ 医・歯学
- ☐ 薬学
- ☐ 工学
- ☐ 農学
- ☐ その他
- ☐ 分からない

問49

あなたの母親はあなたが15歳ぐらいの時に職業をお持ちでしたか。次の中からお選びください。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 仕事はしていない（専業主婦、学生、引退された方ほか）
- ☐ 勤め人（会社、団体などに従業・勤務している人（雇用主と雇用関係にある人））
- ☐ 自営業主（飲食店・卸小売店・農業等）
- ☐ 自由業者（医者・弁護士・会計士・税理士等）
- ☐ 家族従業者（飲食・卸小売店・農業等の家族従業者）
- ☐ 会社と雇用関係のない在宅就労・内職
- ☐ 委託労働・請負（雇用関係にない者）
- ☐ すでに亡くなっていた
- ☐ 分からない

勤め人 と回答した人にお聞きます。

問49-2

その時の職務は次のどれですか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員）－役職なし
- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員）－役職あり
- ☐ 常勤の職員・従業者（正規社員）－経営者
- ☐ 契約社員
- ☐ 派遣社員
- ☐ アルバイト・パートタイマー
- ☐ 嘱託
- ☐ その他
- ☐ 分からない

問50

そのときに、あなたの母親がされていた仕事の内容は次のどれですか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 農林漁業作業者
- ☐ 採掘作業者
- ☐ 販売従事者（小売店、卸売り店の店主や店員、外交員、不動産仲介など）
- ☐ サービス職従事者（理容、美容、飲食店、旅館などの従業員、清掃員など）
- ☐ 管理的職種（国、自治体の議員、会社・団体、官公庁の課長以上など）
- ☐ 事務従事者（一般事務、会計事務、オペレーターなど、営業事務員など）
- ☐ 運輸・通信従事者（鉄道・車・船・航空機の運転従事者、車掌、有線・無線の通信士など）
- ☐ 製造・建築・保守・運搬などの作業者
- ☐ 情報処理技術者（システムエンジニア・プログラマー）
- ☐ 専門的・技術的職業従事者 ※情報処理技術者を除く（企業などの研究・技術者、保健医療、法務従事者、教員、芸術家など）
- ☐ 保安職業従事者（自衛官、警察官、消防員、ガードマンなど）
- ☐ その他
- ☐ 分からない

6-1-2. 29 年度アンケート質問票

地域に対する意識、地域活動・活動状況に関する調査

問1

あなたが住んでいる周りの環境についてお聞きます。以下の項目についてどの程度不満を持っていますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	非常に不満	どちらかといえば 不満	どちらでもない	どちらかといえば 不満はない	全く不満はない
活気や賑わいのなさ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
空き地や空き家の多さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
治安の悪さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
街頭でのゴミや不法廃棄物の多さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
公園や緑地の少なさ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
近所づきあいの希薄さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
近所づきあいの濃密さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問2

あなたが住んでいる周りの環境についてお聞きます。次の施設は徒歩もしくは自転車で利用できる範囲にありますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	徒歩・自転車で行ける 範囲にある	近隣ではないが交通機関を 使えば行ける範囲にある	行ける範囲にない
食料品が買える所（食料品店、スーパー等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
日用雑貨が買える所	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
郵便局	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
銀行、信用金庫などの金融機関	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
映画館、劇場、美術館等の文化施設	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
公共交通機関（バス停、鉄道駅等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
診療所や病院	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
役場・支所等の自治体窓口	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
図書館、公民館等の集会施設	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子どもが遊べる場（公園等）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問3

あなたが住んでいる地域についてお聞きます。以下の項目について当てはまるかどうかお答えください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	当てはまる	どちらとも 言えない	当てはまらない	わからない
地元の小学校でのイベント(運動会等)の案内が回ってくる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
地元の自治会や町内会等のイベント(盆踊り等)の案内が回ってくる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
市役所や役場からの広報やお知らせが回ってくる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
地域での行事や活動に熱心な人がいる、もしくは団体がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
多様な世代の人が集まる場（公民館や集会所など）があり、実際に多様な世代の人が集まっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
新しく引っ越してきた人も地域に馴染んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
新しく引っ越してきた人に対しては警戒心を持っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
地域としての連帯感がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
古くから行われている地域のお祭りや伝統行事がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
暗くなってからでも安心して一人で出歩くことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

3月に実施したアンケートに引き続き、あなたと地域活動との関わりについてお聞きます。自治会・町内会が行う地域の清掃や商店街組合が行うまちおこしは、地域活動の例で、地域資源※を守り充実させるためのものです。また、ボランティア・グループによる地域の防犯活動や子育て支援活動なども地域活動です。

※ここでいう地域資源とは、地域の人々が共有して利用しているものです。まちの文化センターや公園などの公共施設はそのよい例です。また、地域の暮らしやすさ、治安、賑わい、景観なども地域資源ですし、お祭りや伝統行事も地域資源と考えられます。

問4

あなたは地域活動に参加されていますか。参加している場合、どのくらいの頻度で参加されていますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

- ☐ ほぼ毎週
- ☐ 月に2～3日程度
- ☐ 月に1日程度
- ☐ 年に数回程度
- ☐ 活動していない

活動していると回答された方にお聞きます。

問5

あなたが参加している地域活動についてお聞きます。その活動の参加者の年齢構成について当てはまるものを選択してください。 **必須** ひとつだけ

複数の活動に参加している場合は、もっとも頻繁に参加している活動についてお答えください。

- ☐ ほぼ同じ世代（年齢層）が参加している
- ☐ 様々な世代が参加している（年齢差が20歳以上）

「ほぼ同じ世代が参加している」と回答された方にお聞きます。

問6-1

他の世代の人が活動に参加していない理由について、当てはまると思われるものを以下の中からお選びください。 **必須** いくつでも

- ☐ 他の世代の人に活動内容を周知したり活動参加を促したりしていないから
- ☐ 他の世代の人が活動内容に関心をもっていないから
- ☐ 他の世代の人が参加しにくい曜日や時間帯に活動が行われているから
- ☐ 特定の世代の人しか参加できないルールがあるから
- ☐ その他

問6-2

ほぼ同じ世代の人が活動に参加していることで、以下についてどのように考えますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 	非常にそう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも 言えない	どちらかといえば そう思わない	まったく そう思わない
活動内容に関する意思決定が行いやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
メンバー間での交流が円滑である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
将来的に活動が存続するか不安がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
活動内容に変化がない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
活動内容が世の中の変化に応じて変わっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
初めての人も活動に参加しやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

「様々な世代が参加している」と回答された方にお聞きます。

問7-1

様々な世代の人が活動に参加している理由について、当てはまると思われるものを以下の中からお選びください。 **必須** **いくつでも**

- ☐ 様々な世代の人たちに活動内容を周知したり活動参加を積極的に促しているから
- ☐ 活動内容に様々な世代の人が関心を持っているから
- ☐ 様々な世代の人が参加しやすいような曜日や時間帯に活動が行われているから
- ☐ 親が参加することでその子どもが入ってきやすい仕組みがあるから
- ☐ その他

問7-2

地域活動に様々な世代が参加していることで、以下についてどのように考えますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須**
ひとつだけ

回答方向 	非常にそう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも 言えない	どちらかといえば そう思わない	まったく そう思わない
活動内容に関する意思決定が行いやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
メンバー間での交流が円滑である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
将来的に活動が存続するか不安がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
活動内容に変化がない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
活動内容が世の中の変化に応じて変わっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
初めての人も活動に参加しやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

お子様がいらっしゃる方にお聞きます。

問8

あなたが参加している地域活動に親子で参加したことがありますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 参加したことがある
- ☐ 参加したことがない

お子様がいらっしゃらない方にお聞きます。

問9

もしあなたにお子様がいたら、あなたが参加している地域活動に親子で参加したいと思いますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 一緒に参加したいと思う
- ☐ 一緒に参加したいとは思わない
- ☐ 分からない

参加したことがない・一緒に参加したいとは思わないと回答された方にお聞きます。

問10

参加したことがない・一緒に参加したいとは思わない理由について当てはまるものを以下の中からお選び下さい。 **必須** **いくつでも**

- ☐ 活動内容が子どもにとって楽しいとは思えない（活動内容に興味を持っていないと思う）
- ☐ 活動の内容が特定の年齢層を対象としたものとなっている（子どもは対象外）
- ☐ 子どもがいると活動の妨げになる
- ☐ 活動自体に子どもが参加していない
- ☐ 子どもには勉強などもっと他のことに時間を使って欲しい
- ☐ その他

あなたよりも後の世代の人に対するあなたの考えについてお聞きします。
(あなたよりも20年以上後に生まれた人(生まれてくる人)を思い浮かべてお答えください。)

問11

あなたよりも後の世代の人は、一般的に、あなたの世代のことを気にかけてくれていると思いますか、それとも自分たちの世代のことにはしか関心がないと思いますか。 **必須** ひとつだけ

「大半の人は気にかけてくれている」を1、「自分たちの世代のことしか関心がない」を10とする以下の10段階の尺度で、該当するところを一つ選択してください。

1 大半の人は 気にかけて くれている	2	3	4	5	6	7	8	9	10 自分たちの 世代のこと にしか関心 がない
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問12

あなたは、以下の点について日常生活においてどのように考えますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	非常にそう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも 言えない	どちらかといえば そう思わない	まったく そう思わない
世の中のほとんどの人は、基本的に正直である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私は、人を信頼する方である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
世の中のほとんどの人は、基本的に善良で親切である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
世の中のほとんどの人は、他人を信頼している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
世の中のほとんどの人は、信用できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
たいていの人は人から信頼された場合、同じようにその相手を信頼する	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問13

あなたは以下の制度・組織をどのくらい信頼していますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	非常に 信頼している	どちらかといえば 信頼している	どちらでもない	どちらかといえば 信頼していない	全く 信頼していない
国会	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
政府	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
地方自治体	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
裁判所	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
警察	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
新聞・テレビ等の報道機関	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
銀行・証券会社等の金融機関	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問14

一般的に、ほとんどの人は信頼できると思いますか、それとも人と接するには用心するには越したことはないと思いますか。 **必須** ひとつだけ

「大半の人は信頼できる」を1、「極めて注意深く接する必要がある」を10とする以下の10段階の尺度で、該当するところを一つ選択してください。

1 大半の人は 信頼できる	2	3	4	5	6	7	8	9	10 極めて注意 深く接する 必要がある
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問15

あなたは近所の人とどの程度のお付き合いをされていますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力し合っている人もいる
- ☐ 日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている
- ☐ あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない
- ☐ つきあいは全くしていない

問16

あなたは、どのくらいの人と近所づきあいをされていますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 近所のかなり多くの人と面識・交流がある（おおむね20人以上）
- ☐ ある程度の人との面識・交流がある（おおむね5～19人）
- ☐ 近所のごく少数のひととだけと面識・交流がある（おおむね4人以下）
- ☐ 隣の人がだれかも知らない

問17

あなたは以下の人と、普段どの程度の頻度でつきあいをされていますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	日常的にある（毎日～週に数回程度）	ある程度頻繁にある（週に1回～月に数回程度）	めったにない（年に1回～月に数回程度）	全くない	該当する人がいない
友人・知人（学校や職場以外で）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
親戚・親類	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
職場の同僚	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問18

あなたは、日常生活の問題や心配事について、以下の人はどれくらい頼りになると思いますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	大いに頼りになる	ある程度頼りになる	どちらとも言えない	あまり頼りにできない	全く頼りにできない	該当する人がいない
近所の人々	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
家族	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
親戚・親類	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
友人・知人（職場以外で）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
職場の同僚	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問19

あなたは以下の人たちの付き合いの中で、裏切られたと感じた経験がありますか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** ひとつだけ

回答方向 ➡	そうした経験が多くある	そうした経験は多少ある	そうした経験はほとんどない	そうした経験は全くない	分からない	該当する人がいない
近所の人々	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
家族	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
親戚・親類	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
友人・知人（職場以外で）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
職場の同僚	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問20

あなたの子どもの頃の経験についてお聞きます。以下のことについて、当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	全く あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いえない	やや あてはまる	よく あてはまる
子どもの頃、地域の大人（自分の家族以外）が地域活動に参加しているのを見て育った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子どもの頃、地域の大人（自分の家族以外）が人を助けるのを見て育った	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子どもの頃、学校で人助けの大切さを学ぶ機会があった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子どもの頃、近所の商店街や、神社・お寺などで行われるお祭りや縁日などに行く機会があった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問21

あなたの子どもの頃の余暇の使い方についてお聞きます。以下の活動について当てはまるものを一つ選択してください。 **必須**
ひとつだけ

回答方向 ➡	多くの時間を 費やした	ある程度の時間を 費やした	どちらとも 言えない	あまり時間を 費やさなかった	時間を 費やさなかった	子どもの頃には なかった
テレビ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ファミコン等のテレビゲーム	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
パソコン・スマホ（インターネット）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
スポーツ等（野外での活動）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
家族との団楽	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
友人との交流	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問22

あなたの中学生頃までの経験についてお聞きます。以下の活動に自ら進んで参加していましたか。当てはまるものを一つ選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

回答方向 ➡	全く あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いえない	やや あてはまる	よく あてはまる	そもそも 参加していない
クラブ活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
生徒会や委員会活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ボーイスカウトやガールスカウト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
宗教活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子ども会等の地域活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問23

現在の居住地（市区町村）での居住年数を以下の中から選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

生まれてからずっと同じ居住地に住んでいる場合には、「生まれてからずっと同じ居住地に住んでいる」を選択してください。

- ☐ 1年未満
- ☐ 1年以上3年未満
- ☐ 3年以上5年未満
- ☐ 5年以上10年未満
- ☐ 10年以上20年未満
- ☐ 20年以上
- ☐ 生まれてからずっと同じ居住地に住んでいる

問24

あなたは現在居住する地域についてどの程度愛着を感じていますか。「1：愛着はない」から「5：愛着がある」の5段階のなかからもっとも近いものを一つ選択してください。 **必須** **ひとつだけ**

1 愛着はない	2	3	4	5 愛着がある
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問24で、現在居住する地域に「5：愛着がある」もしくは「4」と回答された方にお伺いします。

問24-1

あなたが愛着を感じている理由として当てはまるものを以下の中からお選びください。 **必須** **いくつでも**

- ☐ 昔から住んで育ってきた場所だから
- ☐ 家族（子供、両親、祖父母を含む）とともにこの地域に住んでいるから
- ☐ 家族以外の親しい人がこの地域に住んでいるから
- ☐ 近所づきあいなどを含め、この地域のコミュニティが好きだから
- ☐ 交通事情などを含め自分に住みやすい地域だから
- ☐ その他

問24-2

愛着を上回る理由で地域を離れなければならない場合、それはどのような理由でしょうか？当てはまるものを以下の中からお選びください。 **必須** **いくつでも**

- ☐ 転勤や転校
- ☐ 別の地域に住んでいる両親や親戚の介護
- ☐ 別の地域に住んでいる家族との同居（結婚などの事情）
- ☐ より高い所得を得られる機会
- ☐ 現住地に対する不満
- ☐ その他

問25

あなたが中学生頃までに居住していた地域に対してはどの程度愛着を感じていますか。現在の居住地域と同じ場合もご回答ください。 **必須** **ひとつだけ**

1 愛着はない	2	3	4	5 愛着がある
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

問26

あなたは、あなたが現在居住している地域に永住する意向はありますか。 **必須** **ひとつだけ**

- ☐ 永住したい
- ☐ できれば永住したい
- ☐ どちらとも言えない
- ☐ どちらかといえば永住したくない
- ☐ 永住したくない

お子様がいらっしゃる方にお聞きます。

問27

あなたが現在居住する地域に、お子様にも住んでほしいと思いますか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 既に住んでいる
- ☐ 現在は住んでいないが将来的には住んでほしい
- ☐ どちらかといえば住んでほしい
- ☐ 住んでほしくない

問28

あるクジがあり、そのクジに当たれば1週間後に100万円がもらえるとします。このクジには二つのタイプがあり、今すぐ引いて当たりはすれが分かるもの（スクラッチ・タイプ）と、今クジを引いても当たりはすれが分かるのは1週間後になるもの（宝くじタイプ）があります。ただし、どちらのタイプも当たりクジを引く確率は変わりません。この場合、あなたはどちらのタイプのクジを選びますか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ スクラッチ・タイプのクジを引く
- ☐ 宝くじタイプのクジを引く
- ☐ どちらでもよい

「スクラッチ・タイプのクジを引く」を選んだ方にお聞きます。

問28-1

こちらのクジを選んだ理由はなんですか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 結果を早く知りたいから
- ☐ なんとなく
- ☐ その他

「宝くじタイプのクジを引く」を選んだ方にお聞きます。

問28-2

こちらのクジを選んだ理由はなんですか。 **必須** ひとつだけ

- ☐ 結果が分かるまでのスリルを楽しみたいから
- ☐ なんとなく
- ☐ その他

6-2. 簡易アンケート質問票

6-2-1. 自治会向け質問票

地域の宝（資源・人材）を次世代へ残すための調査

ご記入とご提出について

- ◆ 自治会長様、もしくは、会長に準ずる方がお答えください。
- ◆ 団体（自治会）の性格を考慮して回答していただければ、回答者個人の考えでも構いません。
- ◆ 回答は、選択肢のある場合は番号を○で囲み、記入欄がある場合は【 】に数字等をご記入ください。「その他」を選ばれた場合は、（ ）内に具体的にその内容をお書きください。
- ◆ お忙しいところ恐縮ですが、次回の定例会にご持参いただき、支所に設置しているアンケート回収ボックスに入れていただきますようお願い申し上げます。

貴団体の概要についてご記入または選択肢のご選択をお願いいたします。

自治会名			設立年 (西暦)	年
役員を含む 会員数	人		年間収入(会費 及び補助金等)	円
組織形態 (○は1つ)	①法人格を持たない任意団体 ②NPO法人(認証申請中含む) ③NPO法人以外の法人 ④その他()			
活動の主たる 性格 (○は2つまで)	①地域や社会に対する貢献 ②会員の自己啓発・技術等の向上 ③会員の趣味・余暇活動 ④会員の互助・親睦・交流の活動 ⑤その他()			
会員の主な 年齢層 (○は1つ)	①10・20歳代が多い ②30・40歳代が多い ③50・60歳代が多い ④70歳代以上が多い ⑤全年齢層にわたっている ⑥わからない			

I. 地域資源[※]についてお聞きします

※地域資源とは？ 地域みんなが共有して利用しているものは「地域資源」と呼ばれます。まちの集会所や公園などはそのよい例です。また、地域の暮らしやすさ、治安、賑わい、景観なども地域資源です。お祭りや伝統行事も地域資源と考えられています。

問1. 貴団体の性格を考慮した場合、地域資源について以下の項目で特に重要だと思うものはどれですか。該当する番号に1つ○印をつけてください。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ①集会所、公園、広場等の公共施設 | ②治安、賑わい、景観など地域の暮らしやすさ |
| ③お祭りや伝統行事など | ④その他() |

問2. 貴団体の性格を考慮した場合、地域資源についての以下の考えに、どの程度同意しますか。以下の3項目について該当する選択番号を【 】内に1つ記入してください。

- | | |
|------------------------------------|-----|
| 1.積極的に関わることで、地域資源を守り、充実させていきたい | 【 】 |
| 2.地域みんなが協力し、その価値を守り充実させていくことが必要である | 【 】 |
| 3.自団体が関わらなくても、他の誰かによって守られると思う | 【 】 |

- 【選択番号】 ①同意する ②どちらかといえば同意する ③どちらとも言えない
④どちらかといえば同意しない ⑤同意しない

1.集会所、公園、広場などの公共施設	【		,		】
2.治安、賑わい、景観など、まちや地域の暮らしやすさ	【		,		】
3.お祭りや伝統行事などの文化的なもの	【		,		】

1.積極的に地域活動を行い、後の世代によりよい地域資源を継承すべき	【	】
2.自分たちに特段のメリットがないので、地域資源を継承する必要はない	【	】

①ほぼ毎日	②週に2～3日程度	③週に1日程度
④月に1回程度	⑤半年に1回程度	⑥年に1回程度

①満足している ②ふつう ③不満である

①両親やその他の家族が参加していた ②近所づきあいや職場づきあいの一貫
③近所の人や地域の人役に立つ（地域貢献） ④参加することで周辺生活環境を良好にする
⑤サークル活動等として捉え、趣味の一環 ⑥なんとなく
⑦その他（ ）

①参加している ②参加していない ③わからない

①活動内容に魅力がある
②若い世代や外部の人の受け入れ体制がある
③参加しやすい日時に活動がある
④活動内容が地域に認知されている
⑤その他（ ）

問10. 問 8. で「②参加していない」を回答された方におうかがいします。その理由として考えられることは何ですか。該当すると思われる番号に○印をつけてください（複数回答可）。

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| ①活動内容に魅力がない | ②上下関係が厳しく新人が入ってきにくい |
| ③参加しやすい日時に活動がない | ④活動内容が地域に認知されていない |
| ⑤そもそも地域に若い人がいない | ⑥その他（ ） |

問11. 貴団体では、多様な世代が参加するために、どのような対策をとっておられますか。また、有効と考えられている対策はありますか。該当する番号に○印をつけてください（複数回答可）。

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| ①既存の参加者による勧誘 | ②参加しやすいイベントの開催 |
| ③他団体との共同活動やイベントの開催 | ④懇親会の開催（年に数回程度） |
| ⑤若者だけの下部組織（グループ）の設立 | ⑥その他（ ） |

Ⅲ. 活動の継続性についてお聞きします

問12. 貴団体は、以下のような考えについてどのくらい同意しますか。貴団体の性格をご考慮頂いて、以下の2項目について該当する選択番号を【 】内に1つ記入してください。

- | | |
|---|--------|
| 1.人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれる | 【 】 |
| 2.将来世代が、現在の生活水準や公共サービスを維持するためには、多少なりとも自分たちの負担が増えることは仕方がない | 【 】 |

【選択番号】 ①同意する ②どちらかといえば同意する ③どちらとも言えない
④どちらかといえば同意しない ⑤同意しない

問13. 貴団体の活動は世代が変わっても継続されると思いますか。該当する番号に1つ○印をつけてください。

- | | | |
|-----------|------------|--------|
| ①継続されると思う | ②継続されないと思う | ③わからない |
|-----------|------------|--------|

問14. 問 13. で「①継続されると思う」を回答された方におうかがいします。その理由として考えられることは何ですか。該当する番号に3つまで○印をつけてください。

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| ①皆が楽しく参加している | ②世代間の意思交流がうまくいっている |
| ③活動に対する資金面が安定している | ④活動に対する負担感が少ない |
| ⑤参加日時・方法が多様で参加しやすい | ⑥組織運営・役割分担がうまく機能している |
| ⑦次世代を担う若い人材がいる | ⑧活動の重要性・必要性は不変である |
| ⑨その他（ ） | |

問15. 問 13. で「②継続されないと思う」を回答された方におうかがいします。その理由として考えられることは何ですか。該当する番号に3つまで○印をつけてください。

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| ①皆が楽しく参加していない | ②世代間の意思交流がうまくいっていない |
| ③活動に対する資金面が安定していない | ④活動に対する負担感が大きい |
| ⑤参加日時・方法が画一で参加しにくい | ⑥組織運営・役割分担がうまく機能していない |
| ⑦次世代を担う若い人材がいない | ⑧活動の重要性・必要性が低下している |
| ⑨その他（ ） | |

Ⅳ. 団体の運営等についてお聞きします

問16. 貴団体の年間運営支出額はどの程度ですか。該当する番号に1つ○印をつけてください。

- | | | |
|---------------------|-----------------|-------------------|
| ①0円 | ②0円超～10万円以下 | ③10万円超～50万円以下 |
| ④50万円超～100万円以下 | ⑤100万円超～500万円以下 | ⑥500万円超～1,000万円以下 |
| ⑦1,000万円超～5,000万円以下 | ⑧5,000万円超～ | |

問17. 貴団体の活動資金は十分と思われますか。該当する番号に1つ○印をつけてください。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ①十分である | ②十分でない | ③わからない |
|--------|--------|--------|

問18. 行政（自治体）との関係はどうですか。該当する番号に1つ○印をつけてください。

- | |
|--------------------------------------|
| ①自治体の依頼に基づき、地域における施策を補助する関係 |
| ②自治体と対等な立場で地域課題を決定し実行していくパートナーとしての関係 |
| ③民間組織としての立場を尊重し、積極的に関係を構築していない |
| ④その他（ ） |

問19. 貴団体の意思決定は、以下のどれに該当しますか。決定方法・プロセスとも該当する番号に1つ○印をつけてください。

- | | | |
|--------|---------------------|-----------------------|
| 《決定方法》 | ①全会一致 | ②多数決 |
| | ③その他（ ） | |
| 《プロセス》 | ①十分に話し合いが行われている | ②事前に意見交換を行い、意思決定の場に提案 |
| | ③重要な案件は、広く意見を聴く場を設定 | ④その他（ ） |

問20. 意思決定について課題はありますか。該当する番号に1つ○印をつけてください。ある場合は、その内容を（ ）に具体的にお書きください。

- | |
|-----------|
| ①課題がある（ ） |
| ②課題はない |

問21. 現在、人材育成、資金確保について貴団体が抱える課題があれば、下記に具体的にお書きください。

【人材育成】

【資金確保】

質問は以上です。最後まで回答いただき、誠にありがとうございます。

6-2-2. NPO 向け質問票

地域の宝（資源・人材）を次世代へ残すための調査

ご記入とご提出について

- ◆ 団体の長・代表者に準ずる方がお答えください。
- ◆ 団体の性格を考慮して回答していただければ、回答者個人の考えでも構いません。
- ◆ 回答は、選択肢のある場合は番号を○で囲み、記入欄がある場合は【 】に数字等をご記入ください。「その他」を選ばれた場合は、()内に具体的にその内容をお書きください。
- ◆ お忙しいところ恐縮ですが、ご記入いただいたアンケート票は同封の返信用封筒にて、**5月8日（月）**までにご返送いただきますようお願い申し上げます。

貴団体の概要についてご記入または選択肢のご選択をお願いいたします。

団 体 名 称	設 立 年 (西 暦)	年
役職員を含む 会 員 数	人	円
組 織 形 態 (○は1つ)	①法人格を持たない任意団体 ②NPO法人（認証申請中含む） ③NPO法人以外の法人 ④その他（ ）	
活 動 の 主 た る 性 格 (○は2つまで)	①地域や社会に対する貢献 ②会員の自己啓発・技術等の向上 ③会員の趣味・余暇活動 ④会員の互助・親睦・交流の活動 ⑤その他（ ）	
会 員 の 主 な 年 齢 層 (○は1つ)	①10・20歳代が多い ②30・40歳代が多い ③50・60歳代が多い ④70歳代以上が多い ⑤全年齢層にわたっている ⑥わからない	

I. 地域資源*についてお聞きします

※地域資源とは？ 地域みんなが共有して利用しているものは「地域資源」と呼ばれます。まちの文化センターや公園などはそのよい例です。また、地域の暮らしやすさ、治安、賑わい、景観なども地域資源ですし、お祭りや伝統行事も地域資源と考えられています。

問1. 貴団体の性格を考慮した場合、地域資源について以下の項目で特に重要だと思うものはどれですか。該当する番号に1つ○印をつけてください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ①文化センター、公園、広場等の公共施設 | ②治安、賑わい、景観など地域の暮らしやすさ |
| ③お祭りや伝統行事など | ④その他（ ） |

問2. 貴団体の性格を考慮した場合、地域資源についての以下の考えに、どの程度同意しますか。以下の3項目について該当する選択番号を【 】内に1つ記入してください。

- | | |
|------------------------------------|-----|
| 1.積極的に関わることで、地域資源を守り、充実させていきたい | 【 】 |
| 2.地域みんなが協力し、その価値を守り充実させていくことが必要である | 【 】 |
| 3.自団体が関わらなくても、他の誰かによって守られると思う | 【 】 |

- 【選択番号】 ①同意する ②どちらかといえば同意する ③どちらとも言えない
 ④どちらかといえば同意しない ⑤同意しない

問10. 問 8. で「②参加していない」を回答された方におうかがいします。その理由として考えられることは何ですか。該当すると思われる番号に○印をつけてください（複数回答可）。

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| ①活動内容に魅力がない | ②上下関係が厳しく新人が入ってきにくい |
| ③参加しやすい日時に活動がない | ④活動内容が地域に認知されていない |
| ⑤そもそも地域に若い人がいない | ⑥その他（ ） |

問11. 貴団体では、多様な世代が参加するために、どのような対策をとっておられますか。また、有効と考えられている対策はありますか。該当する番号に○印をつけてください（複数回答可）。

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| ①既存の参加者による勧誘 | ②参加しやすいイベントの開催 |
| ③他団体との共同活動やイベントの開催 | ④懇親会の開催（年に数回程度） |
| ⑤若者だけの下部組織（グループ）設立 | ⑥その他（ ） |

Ⅲ. 活動の継続性についてお聞きします

問12. 貴団体は、以下のような考えについてどのくらい同意しますか。貴団体の性格をご考慮頂いて、以下の2項目について該当する選択番号を【 】内に 1つ記入 してください。

- | | |
|---|--------|
| 1.人を助ければ、今度は自分が困っているときに誰かが助けてくれる | 【 】 |
| 2.将来世代が、現在の生活水準や公共サービスを維持するためには、多少なりとも自分たちの負担が増えることは仕方がない | 【 】 |

【選択番号】 ①同意する ②どちらかといえば同意する ③どちらとも言えない
④どちらかといえば同意しない ⑤同意しない

問13. 貴団体の活動は世代が変わっても継続されると思いますか。該当する番号に 1つ○印 をつけてください。

- | | | |
|-----------|------------|--------|
| ①継続されると思う | ②継続されないと思う | ③わからない |
|-----------|------------|--------|

問14. 問 13. で「①継続されると思う」を回答された方におうかがいします。その理由として考えられることは何ですか。該当する番号に 3つまで○印 をつけてください。

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| ①皆が楽しく参加している | ②世代間の意思交流がうまくいっている |
| ③活動に対する資金面が安定している | ④活動に対する負担感が少ない |
| ⑤参加日時・方法が多様で参加しやすい | ⑥組織運営・役割分担がうまく機能している |
| ⑦次世代を担う若い人材がいる | ⑧活動の重要性・必要性は不変である |
| ⑨その他（ ） | |

問15. 問 13. で「②継続されないと思う」を回答された方におうかがいします。その理由として考えられることは何ですか。該当する番号に 3つまで○印 をつけてください。

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| ①皆が楽しく参加していない | ②世代間の意思交流がうまくいっていない |
| ③活動に対する資金面が安定していない | ④活動に対する負担感が大きい |
| ⑤参加日時・方法が画一で参加しにくい | ⑥組織運営・役割分担がうまく機能していない |
| ⑦次世代を担う若い人材がいない | ⑧活動の重要性・必要性が低下している |
| ⑨その他（ ） | |

Ⅳ. 団体の運営等についてお聞きします

問16. 貴団体の情報発信手段は何ですか。該当する番号に○印をつけてください（複数回答可）。

①ホームページ	②Facebook	③Twitter	④LINE
⑤メールマガジン	⑥会報・回覧等紙媒体	⑦その他（	）

問17. 貴団体の年間運営支出額はどの程度ですか。該当する番号に1つ○印をつけてください。

①0 円	②0 円超～10 万円以下	③10 万円超～50 万円以下
④50 万円超～100 万円以下	⑤100 万円超～500 万円以下	⑥500 万円超～1,000 万円以下
⑦1,000 万円超～5,000 万円以下	⑧5,000 万円超～	

問18. 貴団体の活動資金は十分と思われますか。該当する番号に1つ○印をつけてください。

①十分である	②十分でない	③わからない
--------	--------	--------

問19. 貴団体の意思決定は、以下のどれに該当しますか。決定方法・プロセスとも該当する番号に1つ○印をつけてください。

≪決定方法≫ ①全会一致 ③その他（	②多数決 ）
≪プロセス≫ ①十分に話し合いが行われている ③重要な案件は、広く意見を聴く場を設定	②事前に意見交換を行い、意思決定の場に提案 ④その他（

問20. 意思決定について課題はありますか。該当する番号に1つ○印をつけてください。ある場合は、その内容を（ ）に具体的にお書きください。

①課題がある（	）
②課題はない	

問21. 現在、人材育成、資金確保、制度（法令など）について貴団体が抱える課題があれば、下記に具体的にお書きください。

【人材育成】
【資金確保】
【制 度】

質問は以上です。最後まで回答いただき、誠にありがとうございます。